



御池岳東南端より藤原岳（鈴鹿）

耕原 計画

世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて31年目

—実績と体験に基づいた旅作り—
「一人では行けない、でも、行きたい」
アルパインツアーが応えいたします。

2001年はオーロラのお祭り年！

冬の北欧・オーロラ紀行
8日間

2月4日（日）～2月11日（日）
旅行代金 ￥298,000

オーロラ観察はもとより、ヨーロッパ
最北の鉄道、ノルウェー沿岸の急行船
への乗車・乗船も魅力！ひと味違った
ノルウェー、スウェーデンの旅！

※詳細パンフレットをご請求下さい。

ミルフォードトラックとルートバーン
トラックとマウントクック 15日間
出発日 ●1/21-2/18 ￥518,000～￥528,000

地の果ての大自然！タゴニア
15日間 <関空発成田着>
出発日 ●2/22・3/7 ￥728,000

アンナプルナ・ダウラギリゆったり
トレッキング12日間 <関空発着>
出発日 ●3/18 ｼﾝｶﾞｯﾀﾞ 蒸開 ￥318,000

エクアドル・アンデス・ハイキング
8日間 一新企画 <成田発着>
出発日 ●1/13・2/3 ￥378,000

エベレスト・パノラマ・トレッキング
12日間 <関空発着>
出発日 ●2/25 ●3/18 ●4/8・22
￥298,000～￥362,000

キリマンジャロゆったり登頂とアフリカ、
アルーシャ ｸﾞﾗﾌﾞ 12日間<関空発着>
出発日 ●2/28 ●3/7・14
￥555,000

マレーシア最高峰Mt. Kinabalu 登頂6日間
出発日 ●1/31 ●2/14-28 <関空発着>
￥168,000～￥178,000

海外トレッキング<特設説明会>

◆ニュージーランド 1月24日(水)
◆ネパール・ヒマラヤ 2月1日(木)
時間：18:30～20:30
会場：大阪科学技術センター405号室
(地下鉄四つ橋線本町駅下車・北へ徒歩5分)

藤本高樹先生(探検家・ジャーナリスト)同行
パナマ大自然とパナマ 10日間
出発日 ●3/22 ￥398,000 <関空発着>

予告 2001年ヨーロッパ・ネパール・ヒマラヤ・トレッキング9日間 名古屋発着

出張説明会 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド
上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでも
お気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは

アルパインツアーサービス株式会社

大阪支店/〒550-0004 大阪市西区船場1-10-22 (5F) 011号ビル4階
TEL: 06-6444-3033/FAX: 06-6444-3032
広島サービスセンター(大阪支店転送) TEL: 082-542-1660

ご請求下さい！

アルパインツアーの総合
ツアーカタログ。
世界の山旅・辺境の旅
秋～春号、9月発行済。
海外・国内のハイキン
グ・登山コース満載！



雪の大仏殿

ヨハン・シュトラウスⅡ世の
喜歌劇《こうもり》序曲が流れる
明け始める空の色をした
ストールの裾を翻した天使が
人形めいたお辞儀をしながら
しきりに石段を上り下りしている
立ち止まる透明な風に乗って鳩が
やってきてせわしく動き回る
こんなことが前にもあった
懐かしいあの旋律あの旋律が
つきつきと追ってくる
とっぜん少女の笑顔が浮かび
よく通る声が聞こえてきた
おめでとうございます
新世紀もまたよろしく



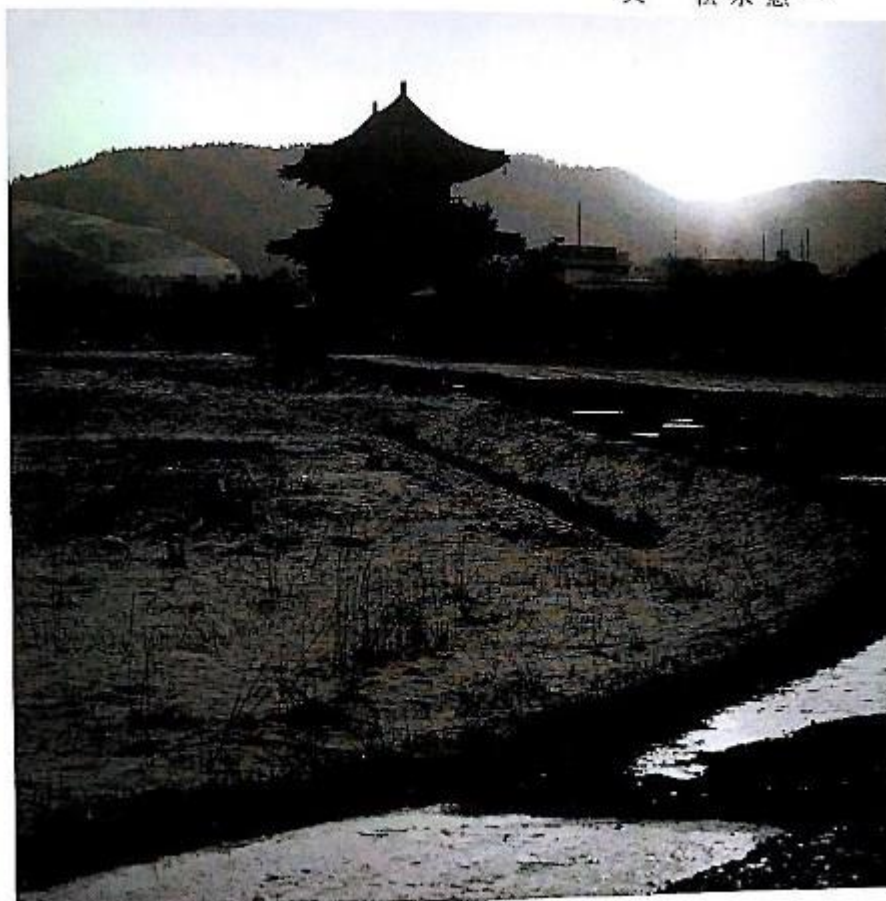
冬木立（大池付近）

Photo essay

雪の日



題字 石 蘭
撮影 中 田
文 由 井
松 永 恵 一



平城京の夜明け

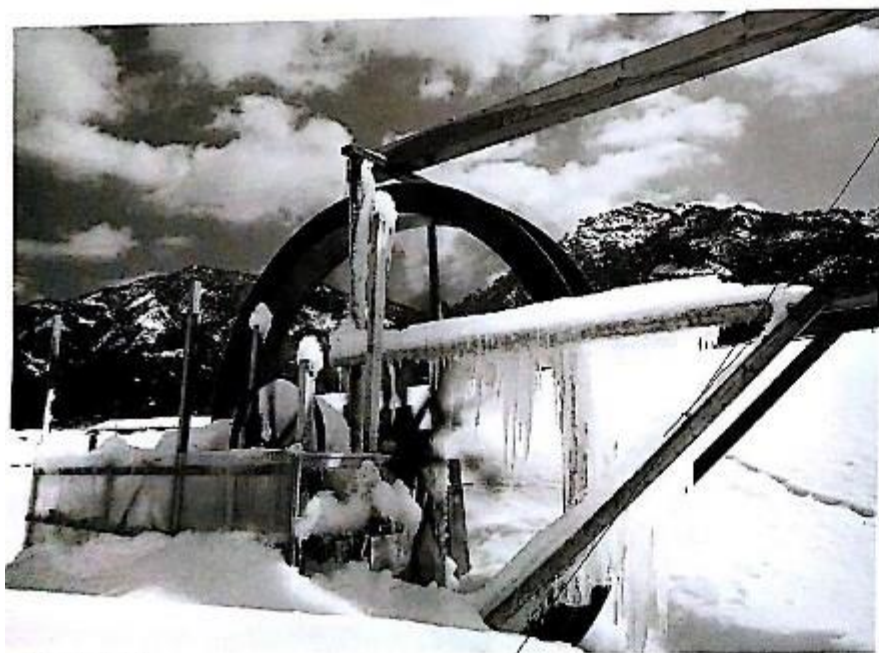
季節の



蕾 (コブシ)



菜の花 (守山市)



水車 (高島郡)

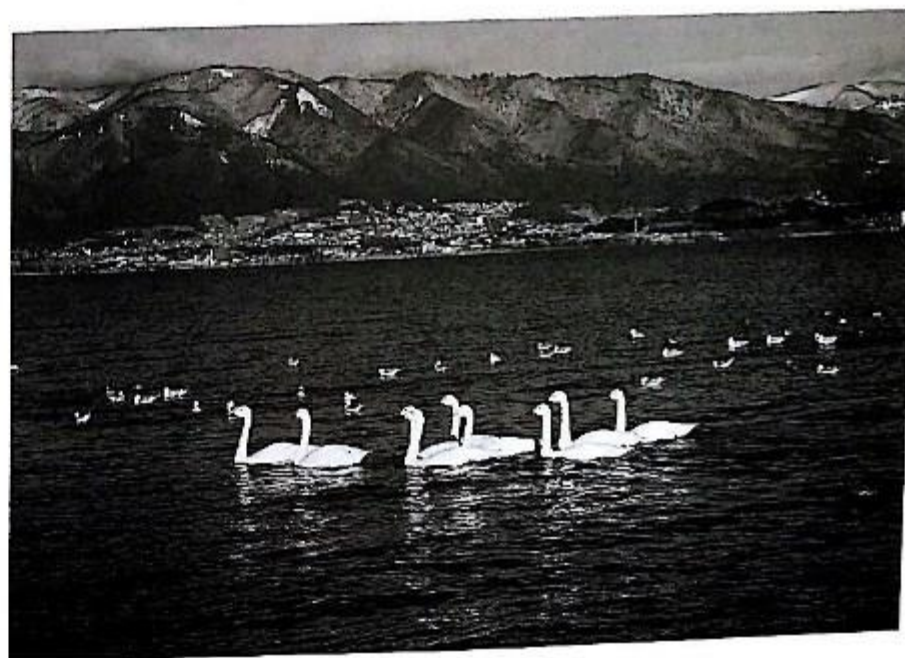
実景

新春

撮影 武市通治



夜明けの水辺



琵琶湖のコハクチョウ (草津市)



御池岳から雲仙山を望む（錦標）

藤原 計国



御池岳奥の平ドリネ風紋

今村 悦子

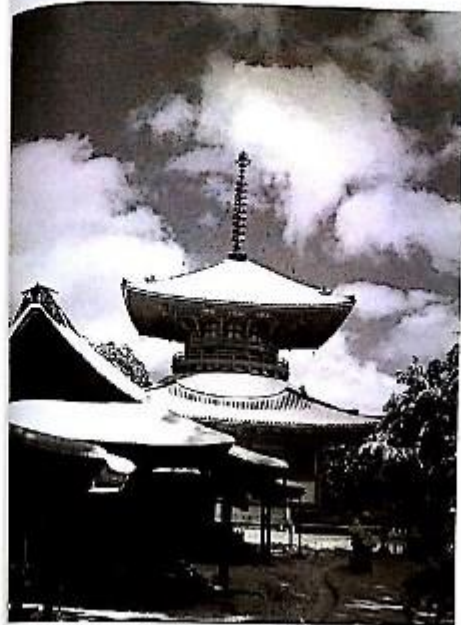


凍樹（高見山）

中川 光郎

雪の高野山にて

奥田 英一郎



根本大塔



奥の院参道



奥の院参道の石仏

新作 別冊 関西の山

01年1・2月 新巻 第56号

●目次

表紙：松田敏男「雪の樹林」(台高・塚塚美峰)

●作者プロフィール ●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳写真、山岳部の写真家として、(京都)山岳写真、新アルプス社(大阪)、東京ギャラリー(号、社)京阪山と野に親しみ愛され、日本山岳協会、一等二級山岳研究員

●1等三角点(500以上) 548 歴史の記録(第28回)	トカラと北海道の山旅	坂井 久光
●奥吉野山麓茶臼の流から青根ヶ峰	中村 敏文	68 64 60
●文学歴史探訪ハイイク⑧のどかな鉄道で水閣寺へ	松永 薫一	76 74 72
コース	① 矢野岳と清冷山(紀北)	金谷 昭
ガイド	② 金剛童子山と花折山(丹生山系)	篠山 敏峰
③ 瑞岳と板山(丹生)	山形 敏之	76 74 72
沿線ハイキングガイド	新ハイ関西山行計画と報告	86
サービステキニ	バス時刻表(比良山系)	102
せせら	講義後記・広島案内	104

●コラム

雪の日…… 撮影 由井 収 文 松永 恵一
季節の実景(新巻)「夜明けの水辺」他…… 武市 通治
(口絵) 屏原計画 中川光郎 今村俊子・奥田英一郎
随想(山のメッセージ)
四国遍路つれづれの記
ラッセルドロボー
「大尾山」山名考

紀行

古光山(室生) 小北 博孝 26 22 18
白雲岳と御拝式登拝(会合) 奥田英一郎 港 14 13 10
靈仙山(鈴鹿) 北川 昭彦
【連載】日本山行記 番外編(補遺)
【多摩湖村誌】
水分より金剛山(会合) 浅野 幸一 40 36 32 30
国見山(会合) 木村 太郎 32 30
武奈ヶ嶽と三重嶽(湖北) 松田 敏男 建生 40 36 32 30
新ハイ関自然観察山行 烏帽子岳・水晶岳 尾家 建生 40 36 32 30
鷺形岳・雲ノ平(後編)(北アルプス) 鷺見 守康 48 44
国見山・南与志岳・六郎院岳など六山(南九州) 西尾 孝一 48 44
三角点を訪ねて⑧ 蓮部 純 52
滋賀県の最高峰・冬の伊吹山へ(会南北) 蓮部 純 52
比良を歩く⑧ 秦 康夫 55
雪の谷々々峰から富坂尾根

巻頭言

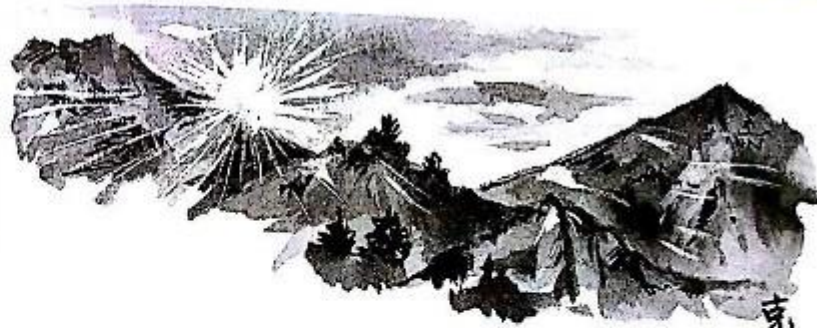
山行後の楽しみは何と言っても温泉です。特に冬場は、冷えた身体を温めてくれる温泉がいちばんです。私は最近とみに、下山後は温泉に入ることが多くなりました。ゆったりのおんぼりの入浴は気分がいいものです。温泉のいい香りが湯けむりのなかに漂い、マイナスイオンがいったいばいばいです。

最近、目撃して楽しめる外来入浴の温泉保養施設が各地に出来てきました。市街にある「健康村」のようなのが、山の中にもどんどんオープンしています。入浴料も手頃で、ほとんどの温泉が広い駐車場を備え、体日は大勢の人で賑わっています。大きい露天風呂があり、サウナ室まで完備した立派なものもあります。

私の思い出に残る温泉は、飛騨川上岳の「美輪の里スパ・美輪温泉」、湖北三國岳の「365温泉」、樺山岳の「須賀谷温泉」、伯耆岳の「十津川温泉」、美濃小津龍現山の「グリーンセラ池田温泉」、池木屋山と局ヶ岳の「スメール」など。

山と同時に、温泉も楽しむ例を今年も続けていきたいと思っています。

新ハイ関西山(代表者) 村田 哲也



四国遍路 つれづれの記

杉本 高

以前、四国遍路への思いや巡拝へのきっかけなどについて書いた(第19号通巻)が、今回は、巡拝の際に出会う疑問や知っておきたいことについて書いてみる。

1 四国遍路とは
四国にある弘法大師の旧跡八十八ヶ所の霊場を巡拝することを四国遍路という。遍路とは辺土を巡り歩くことで、辺土がなまったものと言われている。このため、西国巡礼では遍路という呼び方はしない。

2 四国遍路の信仰の対象
西国三十三ヶ所の場合は、各霊場の本尊である観世音菩薩を

信仰する「本尊巡礼」である。これは近年盛んになっている三十六不動・四十九薬師なども同じである。
これに対して、四国八十八ヶ所は、四国讃岐で生まれ、これらの霊場を開き、あるいは再興して四国の人々に恵みを与えられた弘法大師を慕い、その遺跡を巡礼する「祖師巡礼」の代表格とされている。

3 遍路の服装
歩き(交通機関利用)の場合の服装は、登山用のものがかなり利用できる。
下着はダクロン・ウィックロンの汗の発散性のよいもの。ズボンには白のトレパン。Tシャツの上には巡礼用の白衣(道中着)を着る。春秋から早春にかけては、道中着の下に長袖のトレーナーを着る。

4 遍路の日程
四国八十八ヶ所を全て歩き通し、一番礼所へ礼拝すると、約1200kmの距離となり、40日間程度を要することになる。
定年後で時間に余裕のある人なら、一度に歩くことも可能だが、サラリーマンでは、休暇の都合などもあり、通し打ちは不可能だと思ふ。連休やリフレッシュ・休暇などを利用して、3〜5日位に分けて歩いてみてはどうだろうか。

こうした姿を想像すると、何か思いあたるだろう。
そう、ザックを取れば、葬式の際に死者が身につける死装束なのだ。遍路は死んだものとして霊場を巡り、新しい生を得て蘇るという考えがある。また、遍路中はどこで死んでもよいという覚悟を示すのだとも考えられている。

江戸時代の四国遍路は、国元で「捨て手形」「捨て往来」と呼ばれる往来手形を発行してもらって巡礼していた。その往来手形には「萬一病死等仕候ハバ四州立御作法ニ御取置被成国元江徳届ケ及不申候」等と書かれており、遍路が病死した時には、国元へ連絡することなく、その土地の習慣に従い葬ればよいとされていた。この際には、白装束が死出の装束となり、手元金を持たない遍路には、金剛杖が標識となったのである。

随想 (山のニッセイ)



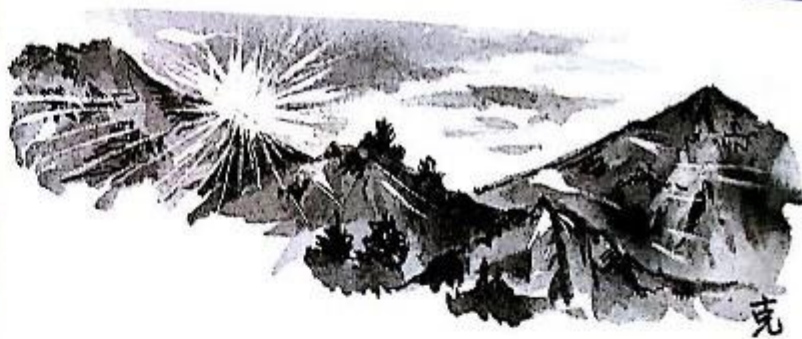
は、道中着の下に長袖のトレーナーを着る。
これで四国の平地では、昼間特に寒さを感じないで歩ける(7月から2月いっぱい有効)。
足元はローカットのトレッキングシューズ。制装路がほとんどの遍路道では、ハイカットは少しイカツイ感じがするので、私はもっぱらローカットを履いている。

ザックは30リットルのもので、着替えや雨具(ゴアテックスのものは防曇着としても貴重)を入れておく。ザックカバーも必須。
ウエストバックにはロウソク・線香・ライター・経本・コンパス等を入れておく。雨から「さんや袋」(傘)をさげ、納経帳・ガイドマップ等を入れておく。

そしてさらにできれば笠笠をかぶり、金剛杖を持つことをおすすめする。

次回は、徳島市から始めてもよいし、徳島市内の十三番礼所大日寺から始めてもよい。大日寺から十七番礼所井戸寺まではおおよそ半日の道のりで、徳島近郊を歩く、気持ちのよいハイキングコースである。大日寺と井戸寺には宿坊があり、ひとりでの歩き遍路も泊めてくれる。

5日間の日程ならば、3日目は徳島市の宿坊または神山町内の民宿・旅館に泊まり、4日目は大日寺または井戸寺の宿坊もしくは付近の旅館で泊まる。最終日は徳島市内の宿坊ロープウェイ前で遍路道を離れ、JR徳島駅まで歩いてはどうだろうか。
井戸寺に泊まれば朝10時頃、大日寺に泊まっても午後3時頃には徳島駅に着くはずである。



克



克

随想 (山のエッセイ)

以後の日程については「へんろ道保存会」のガイドブックを参照された。

5 お参りの手順

参拝は、基本的に本尊または弘法大師に札を矢するものでなければよいと思うが、一般的には、次のような手順で参拝している。

- ①山門で一礼。②手水うがいで身を浄める。③鐘楼で鐘を打つ(打てる霊場のみ、参拝後に鐘を打つことは、戻り鐘といって忌みきられる)。④本堂で納め札・写経(持参の場合)を納める。⑤灯明(ロウソク)と線香、お賽銭を供える。⑥詣え付けの鐘を打つ。⑦合掌のあと心静かにお経を唱える。順番は、開經術・般若心経・本尊真言・光明真言・御宝号・回向文となる。⑧一礼して退く。⑨大師堂で④⑤を繰り返す。この場合は読経のうち、本尊真言は省く。⑩

その他のお堂も同様に参加する。ただし、本堂と大師堂は必ず参拝するが、その他のお堂は自由である。⑪納経所で納経帳・白衣・歩輪に朱印をいただく。この白衣は判衣とも言い、冥土への旅立ちの晴れ着と言われている。参拝の際に着用してはならない。⑫山門で本堂へ向かって一礼する。

これで、この札所の参拝は終わりである。

6 その他のこと

四国遍路を歩いていて時々出会うのが、「お接待」である。これは、近在の人々がお遍路にお金や食べ物などをもてなすことを言う。道路への「お接待」は、善根の施し、大師への供養になると信じられている。弘法大師への供養であるから、道路はこれを断ってはならないとされている(ただし、道中修行の考えから、自動車への便乗については

は別)。

「お接待」のお札には、納め札を一枚差し上げればよい。道路にとって、金剛杖は弘法大師の分身であり、宿へ到着したらまず杖の先を洗う。杖を休ませてから道路が休むとされて

弘法大師が四国を巡錫されたお祀り、現在の愛媛県大洲市のあたりで日暮れどきとなったが、一夜の宿を貸してくれる民家もなく、やむなく付近の橋の下で野宿をした。その夜は寒さがひとしお激しく、一夜が十夜にも思われたとの説話から、十夜が橋の地名が残っている(松山自動車道の大洲インター入口付近)。

このため、橋の下にはお大師さんが眠っておられるかも知れないとの思いから、弘法大師を慕う道路は、橋の上では杖をつかないという約束事になっているので注意されたい。

ラッセルドロボー

平 一郎

「ラッセルドロボー」ということばがあるらしい。らしいというの、長い間山を歩いておりながら、つい最近になって耳にした用語だからである。

京都府の最高峰皆子山(971・5m)を積雪期に登った時に、他のパーティから嫌みを言われたことに端を発する。

その時、積雪30〜40cmの皆子山の麓でわれわれ夫婦は、女性3人を含む12人のパーティが休憩している横を追い越した。

それからしばらく私がラッセルをしながら進んだが、すぐに休憩を終えた12人のパーティが追いついてきたので道を譲り、先に歩いてもらった。

その先は、そのパーティが休

憩すれば、その手前でわれわれも休憩するといったペースで、同じルート歩きながら、彼らを追いつくことはなかった。

下山してからそのパーティの1人から、私がラッセルをしなかったことを非難された。その場では、私はその非難の正確な意味が分からなかったが、後に山仲間の選ベテランに質問したところ、初めて聞いたのがこのラッセルドロボーということばである。

ラッセルというものはパーティの中でも交替をしながら、また他のパーティが前を進んでいけば、時にはラッセルの交替を申し出るのが山歩きのマナーであるという。

彼の話によると、かつて北アルプスで、ラッセルドロボーが原因でパーティ同士の殴り合いにまで発展した事例もあるという。

「ひざ下くらい積雪ならお

まり問題はないけど、腰高を超すと命がけやからな。腹が立つのも仕方がないなあ」と言いながら遠くを見つめるような彼の表情を見て、私は一瞬、殴り合いの喧嘩は、彼自身が当事者ではなかったのかな、という気がした。

また、ラッセル交替のマナーは、各パーティの技量や人数が伯仲している場合のことであって、われわれの場合には、夫婦対12人という大きな人数差があるので、交替の必要はあまりないだろう、という見解であった。

しかし、そのようなトラブルを避けるため、ラッセルを交替しないのであれば、前を進むパーティから離れて、視界の外で歩いたほうが無難であるという。14年間の山歩きのうち、10年間はほとんど単独行、4年間は夫婦だけなので、ラッセルはいつも自分ひとりでするものと思っ



克



克

随想 (山のエッセイ)

ていた。妻と交替することもあり得ない。ましてや他のパーティと交替しなければ、ドロボー呼ばわりされるというマナーは、うかつなことだが、全く知らなかった。

山歩きにも勉強が必要らしい。

「大尾山」山名考

柴田 昭彦

京都市大原の東方、大津市境の681峰は、2万5千分の1地形図「大原」に大尾山とあるが、登山者たちからは一貫して童姥山と呼ばれていたために、不審な目向けられてきた山名であった。今西鋳司氏は「新たに大尾山という名前が敷から棒にでてきて、その名がいまや拡がろうとしている」(全集第十巻)と述べている。

最近になって滋賀県側では

山と呼ばれていることが明らかになった。さらに筆者は京都府側での新たな山名を擁護することができたので、この山の呼称の変遷をたどりながら紹介することにしよう。

「京都市の地名」(平凡社)には、歌枕の大原山は、特定の山をさすものではなく、大原周辺の山ということだとある。小野山についても、古くは漢然と小野(愛宕郡小野郷)にある山の意味であったが、近世には来迎院の東山をさすようになった。

「京都府養老郡村志」(明治44年)の中の「大原村志」では、大原山を宇来迎院の東にある山とし、小野山と同じものとみなしている。三千院の近くにある案内図には、勝林院の背後の山を小野山としている。毎日新聞京都支局編「京の里 北山」(後交新社、昭和41年)では、来迎院本堂の裏山を大原山と記している。

明治42年測図・大正元年製版

に再録。

「この山は童姥山となつてゐるが、この字は誤字も甚だしい。これは童姥山(ドーゼン)でなくてはならぬ。ゼンといふ字は本字は舞であるが舞を用ひてもよい。」

「△より西南流し音無滝の主流となる谷をドーゼン谷といふ。(中略)コーセ谷といふ谷は音無滝の少し上流で左より入る小支谷をいふのである。」

「童姥」のいわれについてはいろいろ取り沙汰されているが、筆者は、当事者に問い合わせてみた。まず、梅村氏は「童姥の字は川喜田氏のおもいつきで、特に根拠があつたことではないでしよう」とのことであつた。

当の川喜田氏によると「漢字の方はアテテで、(中略)あまり昔のことと、どうしてこんな字を造んだのか、今となっては全く思いださせません。場所は勿論大原附近です。今この字を見て

の二万分之一地形図「大原」では、上野の東の660峰(その北の679峰ではない)付近に小野山と記入してあるが、681峰に山名は記入されていない。この山に対する一般的な呼称は京都府側では存在しなかつたようである。

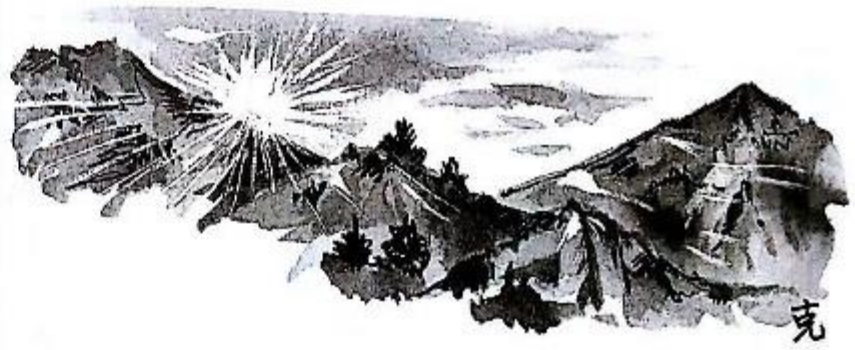
681峰を「童姥山」という情趣ある山名で呼ぶことが一般に広まるのは、森本次男「京都北山と丹波高原」(明文堂、昭和13年)に記載されたことによる。だが、これは、川喜田二郎氏が京都府立京都第一中学校時代に、同級生の梅村忠夫氏等と共に新「山城三千山」を選定する際に、昭和9年頃に初めて記録した山名である。

日本山岳会京都支部編者「山城三千山」(ナカニヤ出版、平成6年)の中の思ひ出で、川喜田氏は次のように述べている。「どうせん(童姥)」の名は、私がつけたんです。土地の人に

何となく感ずるのは、ヒゲの生えた童子といえは、仙人のような感じですね」とのことであつた。

大原村志には、来迎院区の東部の小子地名として「来迎院北谷」「来迎院南谷」「宮の前」がある。すなわち、音無滝の主流の谷の名称は、来迎院北谷である。その川の名稱については、大原村志には、「来迎院川 音無川 宇来迎院の東山より出て西流して大原川に入り音無川は音無滝の下流なり」とある。来迎院の北側近からは律川と呼び、来迎院南谷からの流れである呂川へは、国道の横で合流してすぐ高野川(大原附近での別称は大原川)に入るのである。

2500分の1地図「大原」(平成3年測図、京都市都市計画局)には、音無滝の奥に「川迫谷川」とある。一方、「滋賀県広域詳細道路地図」(昭文社)には、律川を北谷川、呂川を南谷川と記



克

横している。
 以上のように、ドーゼン谷とはどこなのか曖昧なままである。明白な当て字であることを考えると、「童髭山」は由緒正しい山名とは言えず、「とうぜん山」とするのが良心的な扱いであろう(筆者は重然が堂前と推定してみる)。
 昭文社の山岳地図「京都北山1」の記載を見てみよう。昭和42年6月の初版で「童髭山(木尾山)」、昭和47年版「童髭山(木尾山)」、昭和52年版「童髭山(大尾山)」、昭和62年版「大尾山(南庄山)」、平成8年版「大尾山(童髭山・南庄山)」とあって現在に至っている。
 『京都府下巻』(角川書店)や現地の案内図に「童髭山」とあり、『京都府の地名』(平凡社)や『大原の里』(三才院門跡発行)に「木尾山」とあるのは、この地図の誤記の影響と考えられる。

南庄山とは、大原から大津市兩庄に抜ける道という。今西鶴司氏(当時16歳)が大正7年に登った681峰には「無名(南庄山)」「全栗別巻」とある。金久呂菜「北山の峰(下)」(ナカニシヤ出版、昭和59年)には、「童髭山」「大尾山」ともいうところがある。読み方の根拠は不明である。
 ここで、木尾山を大尾山に変えた理由は、2万5千分の1地形図「大原」(昭和42年改訂、同45年4月30日発行)の中に、初めて「大尾山」と記載されたことによる。
 大尾を「だいび」「だいお」「おおお」と一般に読んでいるが、京都市と大津市の地名調査には、「おおびやま」と記載されている(建設省国土地理院近畿地方測量部による)。
 地形図への記載の根拠となる地名調査は、大津市からは昭和40年11月、京都市からは昭和42

年5月にそれぞれ国土地理院に提出されている。ただ、厳密にいうと、大尾山は昭和40年当時、滋賀県堅田町域に含まれていたもので、42年4月1日に合併した時に大津市の地名調査に大尾山の記入(後の部分と重なる)と近畿地方測量部の担当者が出していた)が組み込まれたものと考えられる。
 以上のことから、大尾山の呼称は、昭和40年頃に堅田町役場の地名調査担当職員が採用したものと推定できるのではないだろうか。
 草川啓三「近江の山」(昭和49年)には、歓喜院(龍寺)のおじいさんは大尾山を「上山」と呼んでいるという話が出てくる。その読み方を草川氏に問い合わせたところ、「上山は地元で聞いた訳でなく何かの資料の引用ですが、何からだったか記憶にありません」とのことであった。さらに「このカジヤマとカミヤマ



克

マが音が似ているのも気になる「大尾山」と付け加えてあった(滋賀県誌に上山がある)。
 ここにいうカジヤマとは「樫山」のこと、大尾山の地元での呼称だという。近江百山之会編著「近江百山」(ナカニシヤ出版、平成11年)には次のようにある。
 「大尾山は地元では樫山と呼んでいる。何かのミスで『樫』が『木』と『尾』に分解され、『木』が『大』に読み間違えられ、国土地理院発行の地形図には『大尾山』と記載された。地元では訂正を望んでいる。」
 筆者は、樫山について、正確なことを知りたいと思ひ、681峰の山林を管理している南庄生産森林組合の組合長である岡米蔵氏に問い合わせたところ、次のような返事を頂戴した。
 「南庄町より朝日滝の橋を通り、京都、大原へ通じるハイキング

のコースを、地元では昔より京道と呼んで居ります。京道の八合目ほどより上一帯を(樫山)と呼んで居ります。樫山と呼ぶのが本当です。地元の小字名で登記簿で表記してません。」
 滋賀県側からの呼称はほぼ確定できたが、京都府側からの呼称は現在ではどうなっているのでしょうか。筆者は、681峰の京都府側の所有主である左京区高野上竹屋町の吉澤良治氏に問い合わせ、次のような返事を得ることができた。
 「森林組合で調べて戴きました(北山の事なら大体の事は分っている職員さんに聞きました)余りはっきりとは分らないとの事です。唯、北谷山と云っているのではないかと云うだけでした。小生の知っている事を申し上げますと、音無の流の上流に二の流・三の流と有り、此の山の事を通称三の流の所有者の姓を云い「三の流の古澤の山」と云っ

ているのではないかと思われます。」
 音無の流の奥の谷を「来迎院北谷」といい、北谷川(川前谷川)が流れていることから、「北谷山」は京都府側の呼称としては妥当かもしれない。取り扱いは今後の詳しい調査に委ねることにしたい。
 なお、筆者による大尾山に関する全調査は、平成12年2月にはがきと手紙を用いて実施したものであることを付け加えておこう。
 大尾山のケースは、地名調査の信頼性の問題を提起しているように感じられる。地形図の地名の記載は地名調査に全面的に依拠しており、その影響は大きい。「朝宮」図幅の八ヶヶ岳が矢筈ヶ岳に訂正されたのは平成10年のことである。

針峰群ピークを越える

古光山

俱留尊山を中心とする山嶺は南北に数10kmも続き、その南端は東西に長く稜線をのぼす三峰山脈に至っている。

俱留尊山や曾爾高原は、最もポピュラーなハイキングコースとして、常に大勢のハイカーで賑わっている。が、その賑いも南の亀山までである。

亀山をさらに南下すると長尾峠で、曾爾村から御杖村へ林道が通っている。

ここから南にそびえるのが、いくつもの針峰群のピークを持ち、これまでのなだらかな山容とは一変した峻しい様相を呈する古光山である。

古光山は南峰・古光山・後古光山等から成っているが、頂上行進は岩稜が続き、

をする。

登山道はさほど年数の経っていない杉の植林帯をなだらかに登って行く。積雪は20%程度である。全くの新雪のため多少歩みにくい、ストックを使ってほとんど歩を進める。

五分ほどで植林帯が終わり、冬枯れの灌木とススキの道になる。ふり返れば、一面ススキにおおわれた亀山と俱留尊高原。鋭く尖った二本ボン山と俱留尊山の



古光山村近略図

小北博孝

室生

特に南峰からの展望は実にすばらしい。しかし、古光山と後古光山の深い鞍部（フカタワ）から双方の頂上に登り返すルートは、距離こそ長くはないが、随所に垂直に近い岩稜が立ちほだかる。登るにしてもくだるにしても、通常の登山ルートではあるが、相当な覚悟が必要である。

平成12年冬は例年になくシベリア寒気が長く居座り、2月に入って各地は大雪に見舞われた。近畿地方も中部から北の山には積雪が多く、古光山周辺の室生火山群一帯も白く雪化粧をしている。

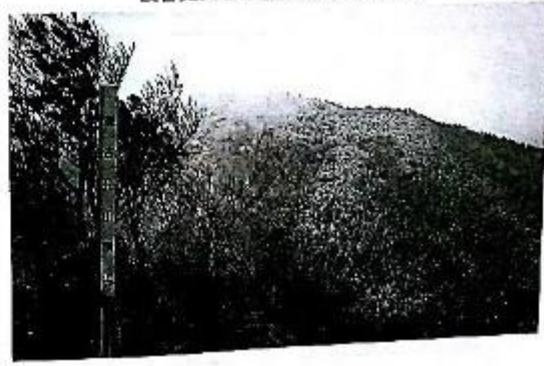
国道16号線から曾爾村に向かう県道に入り香落溪に差しかかるとあたりは

頭が一對になってそびえている。その右手には伊賀富士の尼ヶ岳。手前の大洞山がなだらかな稜線を引いている。一方、眼下には最近つくられた森林公園があり、そこから遊歩道が谷元まで登ってきている。やがて登山道は急な勾配となり、階段道になる。念のためにここでアイゼンを装着する。

階段道が終わると急勾配の岩稜となり、積雪はさほど深くはないが、ややもすると足元の確保がややしくなる。小さなピークを乗り越え、再び登り返すと後古光山の頂上に立つ。凄まじい風が吹きまわっている。頂上は狭く、東の隅に新しい標柱があり山名が書かれている。

眺望はきわめて良好である。しかも見える山のすべては真っ白に輝き、壮大な景観である。東南の方には三蓋山脈の主峰三峰山が堂々とした山容で構えている。その左には、なだらかな稜線でピークのはっきりしない学能堂山が続いている。徳岳・兜岳が西方に特異

後古光山から古光山本峰を望む



一面雪景色で、道路にも薄く積雪がある。さらに奥に進み太郎路まで来ると、出合う車はチェーンを装着している。

太郎路から俱留尊高原に登る自動車道は車の通った跡がなく、新雪の上を四駆をかけて慎重に進む。俱留尊高原の入口からは林道に入り、長尾峠に着く。

ここが後古光山の登山口である。狭い林道脇にかろうじて駐車し、登山の準備

な形で望まれ、さらに兜岳の左奥には、ピラミッドな国見山が端正な姿で聳まれる。こうして周囲を眺めると、室生火山群は実に広大で、しかも特徴的な山々が群集を呈しているようである。

南の方は目の前の古光山に遮られ、遠くを見通すことはできない。次の古光山からの眺望に期待して後古光山を許す。

ここからコース最大の難所の一つである岩稜の急下降路をフカタワに向かってくだる。下降路のほとんどに丈夫なロープがつけられているが、岩稜につく岩稜の連続である。懸垂下降まがもたびたびで、真下にフカタワが見えているのに思っように進まない。

やっこの思いで最低鞍部のフカタワに着く。周囲一帯は深い杉の樹林帯であるが、後古光山側が葉を落とした雑木の林であるため、意外と明るい。ここには標識があり、曾爾村の太郎路と御杖村への登山道が通じている。

いよいよ、古光山への登りである。最初はややなだらかなが、あるがそれにもかかわらず、すぐに岩稜の急登になる。見上げると、数峰もあるような大きな岩が垂直に続いており、まるでおいかさ



古光山より西方を望む。二つのピークは圓見山・住塚山

てくるようである。しかも、北斜面のた
めか岩肌の表面が氷結し、足元の確保が
十分にできない。そのうえ、後古光山と
違ってここにはこれといって信頼できそ
うなロープは付けられていない。それで
も何とかいくつかの岩をよじ登ったが、
手足の筋肉が強張ってくるようである。こ
れ以上登ることに不安と危険を感じた。
先はまだまだありそうである。無理を

すれば何とか登れそうにも思うが、万が一のことを考えて、誠に残念ではあるが再度の登行を期し退却を決心した。

三週間後の3月18日、列島は移動性高気圧におおわれ曇ひとつない快晴、しかも暖かい。

曾爾村太郎路から林道曾爾高原線に入り、途中の古光山登山口からフカタワに向かう。多少不明瞭な所もあるが、難なくフカタワに到着。

前回は打って変わって季節は一気に進み、後古光山の斜面には明るい陽光が差し、周囲はもう春である。

小休止の後、古光山に向かって進む。やがて、この前登攀を断念した岩場に差しかかる。一瞬気が引ける。辛

ろうじて無事に通過するが、その先も垂直に近い岩壁が続く。岩や木の根っこをつかみよじ登る。相当な高度差のため恐怖心も入り交じる。転落のことなど考えると全く気が抜けず、緊張の連続で慎重に登る。

標高差にして1000ほど岩壁が続く。最後の大きな岩を登りきり、その岩の上でひと息つく。

ここからは岩壁こそないが、依然として猛烈な急勾配で、そのうえ霜柱が溶け始め、非常に滑りやすくなっている。急登は最後まで続き、登りきると古光山の頂上に着く。

頂上はきわめて狭く、周囲は雑林に囲まれているため、眺望はさほどない。木々の間から北に俱留尊山、西に住塚山・圓見山等が望まれる。山名を記した標柱が一本立っているが三角点標石は見当たらない。

ついでながら、ここから北西の尾根の方向に明瞭な踏み跡が付いているが、どこに通じているのだろうか。

頂上を後にして稜線を南方向に進む。急下降と急登を繰り返すが、この稜線はやせ尾根で、まるで刃物の上を歩いているようである。池木などの木々がなければ相当スリルのある稜線であろう。

三つ程ピークを越えようと、大きな岩壁に出る。丸いコブのような岩が重なり合っているため、手掛かりが少なく慎重に登り越す。

次のピークが兩峰である。兩峰は大きな岩壁で、360度の大展望が得られる。標高は960ほどと古光山よりわずか

り高い。狭いながらも、展望を楽しみながら憩うにはよい所である。

南の方を望む。まだ白く雪を抱いた高見山が見事な三角錐の鋭峰を見せている。台高山脈のスカイラインが長く南にのびている。その先に大台の山々がひときわ高く霞んでいる。台高山脈の右側は吉野の、左側は勢和の山並が重畳と、どこま



南峰より俱留尊山と奥に尼ヶ岳・大洞山を望む

でも続いている。

一方、西には、これまでもずっと見え続けてきた住塚山・圓見山がいまだんとはっきり望まれる。両山を結ぶ稜線が吊り尾根のごとく美しい線を引き、その先には三郎ヶ岳等も頭を出している。

眼下には、曾爾の集落が蛇行する青蓮寺川に沿って点在し、明るい日差しに輝いている。山裾には学校であろうか、赤い屋根の建物が鮮やかに見える。

晴天、無風のなかで麓を眺めていると、春の息吹が明えているようである。飽くことのない大展望に浸っていると、あっという間に時間が過ぎてゆく。

いよいよ、大峰に向かっての下降である。南峰で出会った登山者は、いずれも大峰から登ってきており、その登りのきわめて峻しかったのを異口同音に言っていた。

しかし、実際はそれほどでもなく、フカタワからのコースに比べればずっとやさしい。

初めは背の低いササやぶのなだらかな下りで、やがて45度以上の急下降である。しかし、岩壁などは全くなく、足元もしっかりしている。急勾配の急下降というだ

けで、ほとんど問題なしにあっという間に大峰に到着した。

大峰には立派な斎場があり、曾爾から御杖に至る車道が通っている。ここから、塩井を過って曾爾村までの1時間ほどは、舗装道路で足にこたえない。途中より返れば、峻しかった古光山が淡い薄紫色のやさしい空で見送ってくれていた。

曾爾村には曾爾タクシーがあって、83歳の老ドライバーが一台きりの車で活躍している。林道などの通過も気軽に応じてくれるため、マイカー登山で縦走するときは重宝である。

ついでながら、この老人は大変話好きで、その内容も実にユニークである。
(平成12年2月27日・3月18日歩く)

▲コースタイム▼

曾爾太郎路(車15分)長尾峠(40分)後古光山(35分)フカタワ
曾爾太郎路(林道経由車10分)登山口(30分)フカタワ(40分)古光山(30分)南峰(25分)大峰(1時間10分)曾爾村役場前
△地図▽昭文社「赤日・俱留尊」

歴史と伝承のはさまを行く

白屋岳と朝拝式参拝

奥田 英一郎

台高

宝蔵庫参拝



台高山脈中部の西面と、大峰山脈北部の東面の水を集めて、山脈を豊かに流れる吉野川。その水上をたどれば、崩岳・明神岳・池木屋山・三津河落山・伯母峰・大普賢岳・山上ヶ岳等々、10000呎を超える名のある山が連なっている。

この険しい峰々に囲まれた樹と水の園には神話が伝えられている。中世には権力争いや、皇位継承にかかわる舞台となった。一方、血なまぐさい歴史をよそに、万葉から近世にかけては多くの文人たちが足跡を残した所でもある。さらに近代にいたっては探検家・歴史家・登山家、作家らの探勝地ともなった。

なかでも、後南朝の歴史にかかわる伝承・口碑は、人々の心を引きつけ、あちこちにある遺跡を訪れる人はあとを絶たない。

後醍醐・後村上・後鳥山帝の血を引く三皇子が、神璽を拝して御座所が置かれた所が北股川支流の三之公谷である。その上流の明神谷源流、隠平谷には後南朝史の立役者である空因尊義王のお墓があると聞くと、歴史家でなくても訪ねてみたくなる。

そんな思いで先年、三之公谷から明神谷に入った。滝を直登する岳友をカメラに収め、忠実に谷をつめて台高主稜にとりついたので、東南に寄り過ぎたのだ

の世のものとも思えない美しいモルゲンルート(朝焼け)は、忘れられないものとなった。

前日からずいぶん長い時間を費やしてやっと馬ノ鞍峰山頂を踏んだ。残っていたりんごを食べ、早々に隠平谷にくだった。安全を気遣っている家族のことを考えると、行宮址を確認する余裕はなかった。

二度目に出かけた時はあいにくの雨で登山を中止して、八幡平で御座所しておられた西浦房太郎さんに世話になり、隠平のこととか頼の話をつた

くさん聞かせてもらった。

三度目はテントを持って馬ノ鞍谷と隠平谷の分岐で幕営した。翌日、地図をていねいに読んでうまく馬ノ鞍峰山頂近くに登りついた。あまり特徴のない頂上から西にのびる支稜をくだり、適当に南におりて隠平に入った。腐葉土でふわふわの暗い台地に「三之公行宮址」と刻まれた石標がすぐに確認できた。石の上に苔が生えていた。

あたりを少し歩いたが、尊義王のお墓は確認できなかった。それにしてもあの陰湿なところに後南朝の宮様方が住んでおられたのかと思うと、暗然たる気持ちになる。

八幡平までのかすかな踏み跡は、ものの10分も歩けば必ず数匹に吸いつかれる程の谷だった。

あれから何年経っただろう。西浦房太郎さんもじくなられ、八幡平へ行くこともなかったのだが、昨秋たまたま井光を訪ねた。

吉野川沿いの道を車で走るだけでは想像もつかない、谷奥の村里である。「古事記」に登場する井水徳伝承の地とかで、「尾のある人、井より出来り、その井に光ありき」とある井戸跡も、井水座をまつるといふ祠もあった。さすがに山深い所で、置き去りにされていた小鹿を山から拾ってきて飼っている家があった。

民宿「のどか」の奥さんは三之公谷・八幡平に生まれ育った方で、房太郎さんのことをよく知っていた。八幡平の裏手の小高い所に御座所があって神社になっているとか、神之谷の金剛寺のことなど



眠れないままに起き出して、鹿酒をたどって歩き出し、なんとか稜線に出た所が、なんと弥次平峰の近くだった。馬ノ鞍峰のはるか北だったのである。現在位置が分かってうれしくなり、夜半だったが一歩南へくだる。

しかしまた、踏み跡を見失って行動を中止した。風が強くて焚火もできず、草のなかに坐り込んで何度も時計を見ながら、夜明けを待った。薄明りになると踏み待ちわびて、予備食を口に入れると踏み跡を探して歩き始めた。この朝見た、こ

を話してくれた。

寺には後危山帝の玄孫にあたる北山宮自天王と河野宮忠義王のお二方の墓があること。毎年2月5日には、痛ましい最後を遂げられた王を偲んで、ご朝拝の式が行われていること……。

奥さんの話を聞いていたうちに、ぜひ一度訪ねて朝拝式とやらにも参拝させてもらいたいと思った。近くには白髪岳、白屋岳もある。前日にどちらかの山に登って「のどか」に泊まり、翌2月5日、金剛寺に出かけるようにうまく日を合わせて計画を立てたのである。

白屋岳は前日に降った雪で白くおおわれていた。村はずれの林道工事の途中に登山口を示す板切れの標識があった。杉・檜の混じるゆるやかな山道を一汗かく頃、大岩が現れ岩かげに不動明王がまつられていた。山頂からのびる支稜のハナに植林用小屋があり、白倉辻とあった。

支稜伝いにまっすぐにのびる道は、枝打ちされた小枝がかぶさり少々歩きづらかった。雪道の日だまりで食事をとる。ジグザグに登る険しい道で、ふり返ると古野川を隔てた山腹に白く光る高原の集

そばに参拝者の記載簿が置かれていたのを開いてみると、太字の墨筆で、南朝回天の太志空しく悲運の自天王を偲び奉る 御朝拝、と書かれて、菊の紋と共に西保六保朝拝相之印が肉厚の朱で押されていた。

参拝者の最初は丹生川上神社の宮司さんであった。続いて横濱市、二鷹市、名古屋市……とずいぶん遠隔地からも来られていて、後南朝に寄せる厚い心と関心の深さを感じ入った。

やがて、朝拝の儀を終えた筋目の人たちが静かに朝拝殿から出て来られ、近くにあった手水鉢で、各人手を清め口をすすいだあと、菊の紋の入った特を召して肱々と石段を上がり、本堂右後方にある神社の前に揃う。二基の祠は自天王・忠義王両宮の御霊をまつって籍民が建立したもの。まず筋目一人一人の手を運して海の物、山の物、里の物が神前に供えられる。横一列に並んだ後宮司さんの祝詞があげられ、そして三冊の奉奠となって神事は終わる。一般の人に交じって、幼稚園児たちの一団がかわいの手を合せて参拝しているのが目をついた。

このあと、筋目の人たちは宝蔵庫前に

高が望まれた。登りきった所は気持ちのよい小ササの台地だった。

次第に険しくなる道に岩場が現れるようになると、シヤクナゲの混じる瀧木帯となる。いくつものピークを山頂かと編まれ、やっとな樹水の輝やく山頂を見る。

二等三角点の山頂からは、北に高見山が、南に山上ヶ岳が見えるというのだが、灰色の重たい雲にぐっすりおおわれている。

山頂を東に抜けて、鷲ノ郷越から武木川に沿ってくだってみたかったが、雪道の廻送を嫌がるタクシーの運転手との約束時間に合わせて、同じ道を行くことにした。

そのまま井光まで送ってもらおう。その夜、吉野川からさきばかり奥に入った、忘れられたような山里の民宿「のどか」にくつろぐ。

子どもの頃、房太郎さんからよくウサギの肉をもらったという奥さんの話を聞き懐かしかった。その日の夕食は鹿刺しと鹿鍋だった。

翌日は冷たいが青空の広がる朝となった。前日世話になったタクシーに來てもらって神之谷に向かう。

金剛寺は古野川を隔てて柏木と対峙す

集い、宝物の拝観となる。重々しく扉が開かれると、自天王の遺品と伝えられる鎧両袖・胴丸・長刀等が三方の供物の奥にまつられていた。筋目時代の宝物由来が奉読される。気が付くと筋目の人たちの口には、しっかりと神の葉がくわえられていた。これはい、たい何を意味するのだろうか。口碑によると、村人が口外したことをきっかけに別荘が祀こされ、悲運の最期を遂げられた。以来籍民たちは沈黙を誓う。その証を意味するのだろうか。それとも、宝物を拝観する際の作法としての懐紙をくわえるのと同じ意味だろうか。

三之公の紋付き姿の白髪品のいい老人が、自天王があえない最期を遂げられる経過を沈痛な面持ちで奉読された。無念極まりない王の思いを切々と読み終えると、老人はハンカチで鼻をぬぐった。この間、筋目の人々も悲痛な面持ちで聞き入っていた。

このあと、筋目の人たちは揃って本堂左後方やや高みにある両宮の陵墓に詣で、全ての行事が終わるのである。

星なお暗い燐間の小さな宝蔵印塔二基は、前日の雪の名残をうっすらと留め

る閑静な寺である。白髪岳の麓にあるこの寺は後ノ小角の開基と伝えられ、境内からは大峰北部の山が望まれた。

黒の紋付きを着た人たちがあわただしく行き来していた。石段の上の本堂前の宝蔵庫はまわりを葉の紋の入った白幕で囲まれていた。朝拝の儀式は10時から朝拝殿で行われた。村内の各字から集まった筋目代表(出生人)の人たちだけで行われ、一般の人は参列させてもらえなかった。

「嘉吉の乱(1441年)の赤松満祐は幕府の討伐軍によって滅びる。後年、お家再興を画策した一族は後南朝後胤の自天王・忠義王の御首と神璽をねらって兇変に及び(長慶の変)、両王はあえない最期を遂げられる。以後、王が生前三之公御所で毎年2月5日に行われていた拝賀の儀にならって、村民たちが王を偲んで行う式典が朝拝式だとのことだった。以来、筋目代表以外は式には参列させないということであった。わずかに奉読する声に続いて、誦経の声が流れていた。

石段を上った本堂脇に、たどんの火が用意されていたので、腰をとりながら礼服を着た村人の話に聞き入っていた。

ていた。

大峰北部の山は昨日と打って変わって青空のもと、くっきりと山際をきわだたせていた。谷の奥深い所に見えるのは山上ヶ岳であろう。山々は、人間たちの血なまぐさい争いにも、あるいは心豊かに生きる人たちにも、悠久の時間と、無窮の空間のはざまできりげなく見つめてきたのだろうか。

逃れ来て身をおく山の柴の戸に

月と心をあはせてぞすむ

悲運の王子、自天王の詠まれた歌だと伝えられている。

(平成12年2月4日5日歩く)

▲コースタイム▼

登山口(35分) 白倉辻(40分) 小ササの台地(40分) 白髪岳

△地形図V2万5千11新子

△宿泊/民宿「のどか」

古野郡川上村井光58 正司英梨

☎07465140187

大雪原を歩く

霊仙山

鈴鹿

北川 浩

霊仙山は雪の原。いつも悩まされるあのサナどもは一つ残らず雪の下。「見晴合」からひと登りで霊仙山へのササ原入口の高台にたどり着いた。眼前に広がる雪の原を前にした妻と私は、思わず歓声をあげた。

お虎ヶ池の鳥居が頭を黒く出している。ガマズミだろうか、落葉した灌木が所どころ枝を出してはいるものの、あとはすべて雪の下だ。どこもかしこも白一色。正面に経家山（北霊仙）の頂上、そして右手に三角点のある霊仙山の本峰が見えている。

2月の末、私たちがここに来たのは、

天気が多少気になるくんだり坂の日だ。きのうは快晴だったが、きょうの予報はゆっくりにくんだり坂になる。低気圧が日本海に一つ、太平洋にも一つと報じていた。「ゆっくりにくんだり坂」というところに期待して、くずれる前に下山してしまおうと4時に起きて車でやって来た。それでも京都府南部からは遅く、車で来ても登り始めたのは7時になった。

今年はどうやら雪が多そうだと、輪カン・アイゼン・ストックも用意してきたが、西南尾根の下降では役に立たず、むしろビッケルが必要だったと思う。

前年同じ2月に、岩野さんたちの新ハイ例ヶ山行に参加して霊仙山に来た時、

る。車はここまでだ。

岩野さんリーダーの新ハイ山行が今年も6日前にあり、その時のものだろうか、多人数の足跡が村はずれの登山口から林のなかへと続いていた。おかげで足元は楽で、どんだん谷を越って汗ふき峠への登りに取りついた。この斜面は南向きで雪も溶けていて、ゆるんだ地面は夏道といっしょで、意外に早く峠に着いた。時にも雪はない。青空には朝の陽光がまぶしく、くんだり坂の天気を予感させるものは何もない。とは言え、「霊仙山」のただ広い雪原のこと、ガスで見通しがきかな

雪はなかった。おまけに下山する西南尾根ではフクジュソウが咲いていた。あの時は妻の足がつって多くの人のお世話になった。

ところが、今冬はすでに車道からすら雪を見るほどの違いようで、河内の風穴あたりから雪があり、落合までの道は除雪までしてある。落合の入口で除雪は終わり、押し出された雪が山積みされてい

大雪原の霊仙山



山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

- | | |
|-----------------|--------------|
| •1 利尻・黒石・網走・内子 | •35 白馬岳 |
| •2 二七コ・羊蹄山 | •36 奥出羽・鳥辺湖 |
| •3 大雪山・十勝岳・樺皮岳 | •37 駒・立山 |
| •4 十和田湖・八甲田・妙高山 | •38 上高地・穂・穂高 |
| •5 八幡平・蔵王・妙高 | •39 奥阿蘇 |
| •6 奥羽・蔵王 | 40 御嶽山 |
| •7 蔵王・蔵王・蔵王 | 41 中央・南アルプス |
| •8 蔵王山 | 42 木曽駒・空木岳 |
| •9 朝日・出羽三山 | •43 甲斐駒・北岳 |
| •10 蔵王山 | •44 碓氷・碓氷・碓氷 |
| •11 碓氷・碓氷・安曇太良 | 45 白山 |
| •12 碓氷・碓氷 | 46 霊仙・存心・保原 |
| •13 日光 | 47 御蔵所・駒ヶ岳 |
| •14 尾瀬 | 48 比良山系 |
| •15 蔵王三山 | 49 京北北山1 |
| •16 谷川岳 | 50 京北北山2 |
| •17 志賀高原・草津 | 51 奥の山々 |
| •18 妙高・戸尾 | 52 北沢の山々 |
| •19 野井沢・碓氷 | 53 六甲・家部・梅馬 |
| •20 碓氷・碓氷・碓氷 | 54 碓氷高原・二上山 |
| •21 西上村・妙高 | 55 金剛山・香湯山 |
| •22 奥武蔵・秩父 | 56 紀伊高原 |
| •23 奥武蔵 | •57 大嶽山系 |
| •24 大奥武蔵 | •58 大台ヶ原 |
| •25 奥武蔵1 | 59 赤日・奥武蔵高原 |
| •26 奥武蔵2 | •60 赤日山 |
| •27 高尾・陣馬 | 61 大山・深山高原 |
| •28 丹沢 | 62 西国嶺山 |
| •29 箱根 | 63 石室山 |
| •30 伊豆 | •64 箱根の山々 |
| •31 富士・富士五湖 | •65 阿蘇・九重 |
| •32 ハッポウ岳 | 66 祖谷・穂 |
| •33 奥ヶ岳・蔵王 | 67 碓氷・碓氷 |
| •34 北アルプス | •68 霧島・阿蘇 |

(★は新仕様の地図です)

※昭文社の「山と高原地図」は年更替として毎年春発行します。この山行の際はなるべく最新版をご利用下さいますようお願い申し上げます。
 ※2007年度版は「大雪山」「甲斐駒」「碓氷・赤石・碓氷」「阿蘇・九重」を全面改良し、新刊として「箱根・阿蘇」を刊行しました。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区千代田3-1
 電話03(3556)8111(代) 〒102-8238
 支社 大阪市淀川区西中島6-11-23
 電話06(6303)5721(代) 〒532-0011
 (インターネットで情報発信中)
<http://www.shueisha.co.jp/>



見晴台にて

ここからの登りは岩がゴロゴロと出ていたり土がゆるんでいたりと、あまり気分のよい道とは言えない。岩の上で中途半端に雪が付いているので滑りやすく、また岩と岩との間の雪にもぐって足を取られてしまう。歩幅の大きな足跡が残っていたが、私のステップに合わず、自分でステップを切りながら登っていくしかなかった。

こうして今、雪原を見わたせる台地に立ったのである。天気も上々、一向にくずれる気配のない青空。風も微風。薄い足跡。スキーの跡。天気がくんだり坂であることも忘れ、私たちは上臈凍だった。どんとん、どこでも歩ける。窪地に向かって歩く。多少の吹きだまりや雪庇があつたがたいしたことはない。サナのなかを上下してお虎ヶ池から経塚山へ登っていく夏道ルートはカットした。一つだけ小さなピークを越え、あとは右手に谷を見ながら南東へとり、本峰へまっすぐ向かった。お虎ヶ池の鳥居を左下に見てのゆるりとした登りだ。輪カンもアイゼンも要らない。しっかり締った雪は滑ることもなくもぐることもない。踏み出す足先が軽い音を立て、うっすらと足跡を残すだけ。なんとも気分がよい登りだった。本峰の少し手前で経塚山からの尾根ルートに合流し、霊仙山頂上に出た。風が多少あつて肌寒く、長居する気にはなれない。伊吹山が目前にはっきり見えているが、雲が多くなつてきたようだ。本峰から少し戻って最高点へ。夏ならササをこいで行くこの登りくんだりも、きょうは楽々だ。谷向こうのソノドの山稜が

美しく見える。植木の杉が墨絵のように並んで見え、その下には雪の稜線が白くくっきりと浮かんでいる。私の大好きな眺めだ。西南尾根をくだる。西南尾根は東に切り立った尾根で、夏なら西側は深いブッシュ。ゴロゴロとした岩の道。細かい灌木が足にまとわりつく道。まわりの展望に比べ、足元は気分のよくない道である。でもきょうは雪の原で、歩きよいことこのうえない。東側に小規模ながら雪庇が迫り出しているだけで、岩も灌木も雪の下。それでも時々西側へ廻り込んでブッシュのなかへ。夏ならとても踏み込めないやぶなのに、今は落葉している木もあるからだろうか、難儀することはない。太陽を直接浴びているからだろうか、雪はそうとうゆるんでいた。大きな穴が所どころあつた。南にくだるほどゆるくなり、足を落とすことが多くなつて、とうとう輪カンを着けた。こうして近江展望台を過ぎ、大下りが始まった。なにしろ南面、雪はゆるんで滑ったりもぐったりだ。雪の下はササの枝や葉、そしてツゲ・ハンノキ・イヌノキ・ウスノキなど、みんな細かい枝をいっぱい付けていてそ



霊仙山山頂にて

れが足にからみつく。それに岩がゴロゴロある。下降する斜面は雪をかぶっていて夏道は見えない。それでいて雪の下はほとんどワロである。 Tee プ印も雪の下、夏道と覚しき所へ足をもつて行くが外れてばかりで、岩やブッシュに足を取られてしまう。急斜面の下りだから、輪カンはササに滑って用をなさない。アイゼンも効かない。ストックもササに妨げられて地面を突き刺すところまで届かない。嫌行を強いられて、かなり時間をくってしまった。

くだりきって麓へ。ここは夏ならササのなかを泳ぐように行く所なのに、雪の雑木林を一気に突っ切つて峠へ出た。先程の下りがうそのような楽な歩きだった。なんと笹は雪のおかげで小さな丘に変わつてしまつている。笹からは今畑へくだる。今畑の産屋の屋根が見え始めたあたりで、雪も少なくなつた。昨年は今畑の水場(井戸)のあたりでセツブソウに出会つた。あの逸きとおつた花びらの……。今年はまだまだ雪の下だ。人気がない家の間を通り抜け、梅の枝が迫り出した石垣沿いの道を急降下すると車道におり立つた。「ゆっくりとくだり坂」というお天気は、私たちの胡待通りに下山するまでくずれなかった。帰路についた車のフロントに雨滴が落ち出したのは、下山してから30分後だった。

本誌「新ハイキング関西の山」の46号・91と92ページに岩野さんや筒井さんの霊仙山の山行報告がある。「前夜からの雪は降り続いて雪中山行となる。登るにつれて雪はやんだがガスは消えず、時々視界が開けるだけ」(岩野氏)、「晴れ時々

吹雪」がガスで一面の雪原と空の白さが一体となり、有視界歩行はできないありさま。山頂に着く頃に青空になった。下山時は強風に追い立てられ、吹雪のなかをさまよいたがらうだった」(筒井氏)とある。やはり冬の霊仙山である。参考までに、平成11年(98)2月は、21日(日)、岩野さんたち、落合・西南・南尾根・今畑 26日(金)、私たち、落合・西南・今畑 27日(土)、筒井さんたち、上丹生・樽ヶ畑界尾根・山頂・山谷谷・上丹生・岩野さんや筒井さんのように、鈴鹿を知りつくした人たちだからこそできた山行である。私たちは幸運な日に登山できたということになるのだろう。(平成11年2月26日歩く)

△コースタイム▽

落合(1時間)汗ふき峠(1時間)見晴台(2時間)本峰(20分)最高点(1時間30分)近江展望(1時間)笹峠(40分)今畑

△地形図▽2万5千：彦根東部・霊仙山 昭文社「霊仙・伊吹・藤原」

連載 『多摩郡村誌』

浅野孝一

明治政府は統一国家としての日本を確立するため、その歴史と地誌を明らかにしようと、明治五年(1872)皇国地誌編集のための通達を各府県に出した。「日本地誌提要」は最初の官撰地誌で、明治五年から同六年にかけて各府県に下命して作成され、1882年ウィーンで開催された万国博覧会に出品した。

編集には少内史兼地理寮出仕の塚本明毅以下12名があたった(その中に「武蔵通志」を作成した河田順がいた)。

『多摩郡村誌』の原本は、おそらく政府が各郡町村に提出を命じたなかの一本であると考えられる。それ等の郡村誌は東京大学に保管されていたが、大正十二

年(1923)の関東大震災によって焼失してしまった。幸いにしてその一部が小暮理太郎によって写筆されていて、大正十五年(1926)7月、日本山岳会々報「山岳」の第二十年第一号に転載されたのであった。

これは東京市に務めていた小暮が「西多摩郡一山四五个村誌調査資料」の中から奥多摩の山川に関する部分を抄出したもので、奥多摩の山々を研究するには欠くことのできない資料である。

小暮は「郡村誌の多摩郡の條から山川に関する者のみを抄出したものである。元より『山岳』誌上に掲載する目的で採録して置いた訳ではないから、記事の缺

けてある所があるのも止むを得ない。然し多摩郡の著名な山岳は大抵網羅してあるので、参考として重要な役目をなすものであることは言ふまでもあるまいと思ふ。」と解説をしている。

郡村誌の中には方言なども採用されており、「山上低匹の魁をタワと云」とか「峯の尖頭謂てトツケと做す」等々、地形に関する名称などを説明している。

『多摩郡村誌』は活字本としては出版されていない。本誌を知ろうとする人は、古書店で「山岳」を購入して読むしか方法は無い。私は郡村誌の発表されている「山岳」の該当ページをコピーし、河田熊の「武蔵通志」(次号に解説する予定)と共に合本を作り、原石の書として必要に応じてページをくっつけている。

『新編武蔵風土記稿』、及び田島麟太郎著「奥多摩」と共に、奥多摩地方の山川を研究するには欠くべからざる文献である。これを発見し、写筆発表してくれた小暮理太郎には感謝をしている次第である。

『多摩郡村誌』のなかで知っておきたい文章を抄出してみる。
「榊之折山 大丹波と秩父郡下名栗町

界。高四百六十九丈五尺。亦嶺上より分界して東北は秩父郡下名栗に、西南は本村字榊次入に属す。」と記している。

かつて多くの案内書や地形図に榊ノ嶺と記されていたが、これは誤りである。最近の案内書は榊ノ折山と正しく表記されるようになった。

榊ノ折山の名称は、伝説に、秩父の正司畠山重忠が妻成時を連れて名栗川方面から多摩川筋を越す時、使用した石の棒杖が折れて捨てられたとある。このことが真実ではないにしても、何らかの意味があつて名付けられた山名・地名が多く残されている。

このように少しでも、古文書や文献に目を通すと分かることがある。小・中学生に最新技術を教育するのと同時に、昔の説話なども教える必要があるものと考えられる。次回に紹介する「武蔵通志」にも榊ノ折山の由来などが記されている。

て成長した。長ずるにおよび地元において郷党子弟を指導した。

また、官命により、西多摩郡内各町村の地誌および人物誌沿革等の編纂を担当し、実地を数多く踏査をした。その結果多数の資料が作成され、あるものは東京大学に史料編纂として借り上げられた。

一方、西多摩郡議員に推せんされ、高水三山の一つ惣岳山頂にある延喜式内社の青沼神社の神主などをとつとめた。

斎藤は性質おだやかで、長ずるにますます国学を好み、記憶力が頗るよく、まさに博覧強記であった。家は貧しく、近くの人々は、その生活ぶりを見て斎藤さんでなくナイトウさんと呼んでいた。明治三十七年(1904)83歳で没した。

『多摩郡村誌』の最後に小暮作成による「多摩郡の山川項目索引」が付されているが、これは郡村誌利用にとっては大変ありがたいものである。

(この項終わり)

KOBEの登山専門店 ~手作りザックの店です~
クラシック25

滑らかな帆布製のフレンチタイプ。メインのストラップは一本締め。
サイドはファスナー付で小物の出し入れが自由。
またストック、ステッキホルダー付。内部のファスナー付小物入れ内袋クッション(厚さ5ミリ)は取り外し自由、ショルダーベルトは10ミリのクッション入りで体に沿う形。

カラー サンド×ネイビー
 サンド×グリーン

容量 25リットル
重量 800グラム
素材 10号帆布
価格 ￥10,000~新ハイ価格

オリジナルザックのカタログが出版されました。
80円切子3枚同封でお申し込みください。

イモック山遊行くらぶ
2001年、初登りは東横筋の秀峰千ヶ峰(1005m)へ。詳細はお問い合わせ下さい。

IMOCK KOBÉ

神戸市長田区日宮町3丁目1番30号
TEL.078) 621-5851
TEL.078) 621-3528
FAX.078) 621-3528
住所が移りました



『万葉集』歌枕紀行

水分より金剛山越え

金剛

木村 太郎

大阪の街でめずらしく雪景色が見られた。街は童話のさし絵のように白一色に埋まり、いつもは渋滞する新御堂筋も車の影は少なかった。雪は一晩で消えたが、その翌朝、きれいな樹氷を期待して金剛山へ登った。

富田林駅のバス停へ着くと、千早ロープウェイ前行きで大勢の登山客が乗り込んでいた。私は葛城登山口から太尾の登りをめざして来たが、水越峠行きのバスは平日には運行されていなかった。やむなく目標を変え、森屋経由の東水分行きに乗車した。まばらな乗客は通勤客らしく途中で下車し、バスは私だけを乗せ、富田林街道を目的地へ向かった。

水分神社口でバスから降り、登山口の建水神社へ廻る。「古事記」中巻には、崇神天皇の御代に熊病が流行した様子が記述されている。地獄の如く荒廃した世を憂れた天皇の命により、水越峠に水神をまつり祈禱をさせたのが、建水神社のはじまりという。

水越峠を間にはさんで、大和側の葛城水分神社と、河内側の建水分神社とに分かれ時が移った。その後、現在の地に建水分神社を再建したのが、河内の豪族楠木正成である。明治には国宝に、昭和に入って重要文化財に指定された水分様式の本殿の参拝をすませる。山脈の無事を祈り、気持ちも清々しく山へと向かう。

金剛山ブナ林より葛城山を望む



忠臣大楠公をまつる南木祠のそばに道標が立つ。「金剛登山口頂上迄六十町」と刻まれた石碑を後に、丘を上りくだると登山道は舗装路に分断されていた。道の続きを探して坂を駆け上がり、工場の倉庫の裏を抜けると、河原辺の林道に出合う。対岸に上赤阪城跡のある尾根を見ながらみかん畑の道を行く。現在は一人一人見かけない峠道の道だが、南北朝

の時代には激しい戦いがあった地である。道標もない二俣に出て、少し迷いながらも林道を右に見送り、左に進路をとる。作業小屋があり、傍らに細い道が付いている。本格的な山道になったこのあたりから薄い雪景色が広がる。雪道を楽しんで歩いて行くがどうもおかしい。屋根を離れて谷におりていくようである。袖道に入ったらしい。急ぎ足で引き返し少し戻った所で、急峻な坂道の樹氷にテープを見つけた。



金剛山剛友会を創立した根来春樹氏は、以前太尾の登路について、リストの「ハンガリア狂詩曲」のように豪快にして華麗、金剛山の名コースだと紹介されていた。けれども私が今登り出したこちらのコースは、リストの同じ管弦楽曲でいうなら「交響詩前奏曲」の主題のようで、おおいかがざる不安を忘れたくて急坂に向き合っていた。

だが、急坂を登りきると、予期せぬことに三角点が埋められていた。ザックを下ろし地図を見ると甲取山の三ヶ点と分かり、現在地の確認ができて気持ちが晴れた。ここからは尾根通しに道はずさなければ問題は無い。だが、送電線の鉄塔に出て先へ進むうちに道を見失ってしまった。磁石で方向を確かめやぶをこぎ、雪で隠れて踏みはずした登山道に戻ることができ安堵する。

数取坂の急登にさしかかり、鉄塔の立つ場所に出てひと息つく。ふり返ると阪堺の街並が望め、南西には紅葉の山並が眺められる。さらに進めば扉面坂の登りが待つ。

『太平記』の古戦場跡も物音ひとつもない。雪道用のアイガリの登山靴が雪上に足跡を刻むだけである。

雪をかぶった小枝やササにふれ、上着の袖に水滴が付着する。樹上から雪のしずくが落ちてきてサンングラスの視界をふさぐ。だがそれさえも無人の山中では親しみを感じてしまう。三角点の尾上山を左に分け、北尾根道を歩いていると、私と同じ単独行の登山者と会った。登山道に入ってから初めてなので人懐かしく、声をかけた。

樹氷を見るために、葛城登山口に車を駐めて青崩道登って来たらしい。あいさつ程度の言葉を交わしたが、足の速者な人で私を追い越して先へ歩いていった。ふと気づくとまわりの木々の梢に樹氷が付いている。散々とも噴声ともとれる人々の声が前方から聞こえてくる。

入山してから一つとして道標を見なかったが、登山道の傍らの木椅子にセト峠と書かれている場所に出る。何人ものハイカーたちとすれちがう。ここから四見城跡の展望を楽しんで、黒桐谷道を金剛登山口へ帰るといふ。セトから山頂へ通じるこの道沿いは、山の妖精の仕業にちが

近江の山を歩く

草川啓三著

菊変判・二〇〇〇円

夕暮れの山頂、変幻の谷、峠の廃村、繚乱の花園、山寺の秋、湖国の四季山。珠玉の紀行文と趣きあるカラー写真で綴る、コース地図付グラフィックガイド。

大和まほろばの山旅

内田嘉弘著

四六判・二〇〇〇円

一奈良東北・中部の山一山の辺、大和高原、宇陀、聖生、初瀬、飛鳥、金剛、生駒。古代史探訪も併せた低山ハイキング。約80山地図、参考タイムつき完全ガイド。

★表示の価格は消費税を含みます

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町72
075-751-1211 千606-8316

いない樹水の美しい所。木々は樹水のオブジェを茂らせていた。

国見城跡から転法輪寺を通り、葛木神社に向かう。ブナの大木に冬陽が差し、抜けるような青空を背に、ガラス細工よりも精緻な樹氷が映える。前方には大和葛城山が若草色の山肌を見せて、早春の近いことを告げていた。

かつて、この金剛山をはじめ、葛城山や二上山一帯を葛城山と呼んでいた。『万葉集』に柿本人麿呂の葛城山を詠んだ歌が残されている。

春柳葛城山に立つ雲の
立ちても居ても妹をしぞ思ふ

(巻十一一四五三)

柳の芽吹く頃は葛城連山に立つ雲のように、居ても立ってもいられないほど妻が

愛しく思えてならない、という恋歌である。

湧出岳三角点への道を見送り、南尾根道を賑やかなピクニック広場へと向かう。そこには校外学習に来た高校生の集団が、冬のさなかに若さを振りまいていた。友が迷わないようにと校名を入れた道標を回収しながら、余仏坂へとくだっていった。

伏見峠から船路への細い道に入る。ふたたび静寂のなかに影しい倒木をまたぎ、第二十峰塚を過ぎて高宮廃寺跡に立ち寄る。仁徳天皇の皇后、磐之媛(万葉集は磐姫)が記紀に伝える古代歌謡に、

あそによし奈良を過ぎ小樹大和を過ぎ
我が見が欲しい国は葛城高宮我家の
あり

(書紀歌謡一五四)

マンがある。

仁徳天皇は八田皇女を後に迎えたいと思ひ、皇后磐之媛に歌を贈っている。

世人の立つる言立歌哉
絶えは縁がむに並べてもがも

(書紀歌謡一四六)

それに答えて磐之媛は、
衣こそ二重も良き夜床を
並べむ君は恐ろかも



風の森の小祠

(書紀歌謡一四七)

貴人の誓いの言葉として控え歌を用意するだけのことだという仁徳の歌に、磐物の二重ならよいが、夜床を二つ並べる君は空恐ろしいことと磐之媛は返した。

『万葉集』巻二の巻頭にも、磐之媛の「天皇を思ひて作らず歌」が載せられている。仁徳が訪ねた時も、磐之媛は難波高津宮へ戻ることをかたく拒否して、仁徳の浮気を許しはしなかった。嫉妬深く強情な女性とみられている磐之媛だが、『万葉集』には恋する女性の可愛らしい横顔も見せている。

君が行き長くなりぬ山男ね
迎へか行かむ待ちにか待たむ

(巻一八五)

旅に行かれた岩の婦りが待ち遠しく、山をたずねて迎えに行こうか待ってしようかと、迷っているいじらしい歌である。ありつつも君を待たむうちなびく我が黒髪に霜の置くまでに

(巻一八七)

このままでいつまでもあなたを待ちますわたしの黒髪がたとえ白くなつたとして

『万葉集』の最も古い歌でもある磐之

媛の愛の歌を口ずさみながらに、面影をいろいろに想像して歩く山道は楽しい。もしかしたら磐之媛と出会えるのではないだろうか。

雄略天皇が狩猟中に一言主神と出会われた故事や、役ノ行者が修行にいそしんだという伝説に事欠かない葛城金剛の道である。

たどり着いた旧高野街道沿いの風神をまつる志那都彦社は、風の森の高台の上で暮れそめていた。

葛城三千八坂の一つ、吉野や奈良の山々を遠望できたという様に一人たまたみ、きょうの道程をふり返った。

(平成12年2月10日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 近鉄富田林駅(バス20分) 雄水分神社口(40分) 難波坂道・足谷道分岐(40分) 鉄塔坂9号(30分) 鉄路御坊204号(30分) 青崩道出合(20分) セト峠(40分) 国見城跡(10分) 葛木神社(40分) 伏見峠(40分) 葛城第二十峰塚(20分) 高宮廃寺跡(1時間) 風森神社(風の森バス15分) 近鉄御所駅
- ▲地形図▼2万5千1御所・五條

国見山

台高

松田敏男

台高山脈北部の中心の山と言え、国見山ということになるのではなからうか。

台高とは南の大台ヶ原山と北の高見山の文字から命名されたもので、高見山が北部の代表的な山であることは当然だ。

国見山は北部で最も高い山でもなく、高さでは明神岳や水無山などに越されている。また、大きな支尾根を派生しているピークも他にたくさんあり、国見山はそんな尾根が合わさったピークでもない。奥深さと言えば池ノ小屋山や冷塚奥峰あたりのほうが格上だろう。そんなわけで国見山が台高山脈北部の中心の山と言うと、だれもが納得できるものではないと思う

が、山の大きさとか風格とかの点で、そのような格付けを与えてもいいような気がする。風格というのは登る前の眺めた時の風格を指しているのだが、実際に登ってみて、山自体にも十分風格を感じるいい山だった。

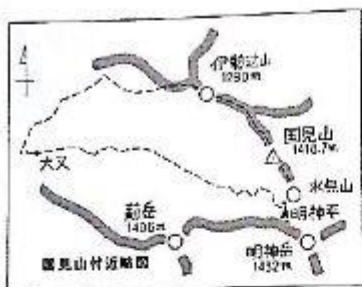
もう20年ほど前になるのだが、明神平から国見山をめざそうとしたことがあった。初めて買ったテントを背負い、バスを乗り継いでたどり着いた大又から、まだ車の通らなかつた道をえんえんと歩いて明神平まで登った。あしび山荘手前の丸木橋を渡るのがこわくて、岩伝いに渡るのに苦労したことや、その上は深い霧に閉ざされていて、人に出会わず、一人

伊勢辻山村近より国見山を望む



ノトウを見て、緊張がぐつと和らいだことなどが、次から次へと浮かんでくる山行だった。

不安のために夜はあまり眠れなかった。朝起きた時にはもう国見山を登る気にはなれなかった。大雨のあとの帰りの山道を考えると、そちらのほうが気になって落ち着けなかった。大又に無事戻ってきた時の集落の風情が、何事もなく春のポカポカ陽気が続いていますよという感じで、ちょっとした標高差によって、全く環境が違うものだとこのことを痛感させられた山行だった。



その時以来、大又より明神平の間は何度か歩いて、常だが、常に明神平より南をめざしたり、南から明神平を經由して大又へくんだりばかり

だった。期岳や冷塚奥峰・奥の透峰、そして池木屋山など、山の会に入ってから知った山ばかり先に登ったが、国見山の名前はすでに中学生か高校生の時に、学校の地図で知っていたのにそのままずっと後まで登り残していた。忘れずにいたのは高見山・国見山と似た名前の山が並んでいるので覚えやすかつたのかも知れない。標高は1419m。大峠や大台ヶ原の山域を除けば、近畿地方には1500m以上は水ノ山のみ。1400m台もこの国見山のみ地区に載っているということも、目立った存在として脳裡に焼きつき、親しみがあつた。

今回のメンバーは時高さん、西村さん、明石さんと私の4人である。コースは大又に車を駐め、伊勢辻山から国見山を越えて明神平でテント泊をする。翌日は剣岳を登って大又に戻るといふ、二つの尾根を登降して周遊する予定だった。

13時に城陽市の自宅の近くで時高さんの車に乗せてもらい、16時頃に大又に着いた。大又集落のはずれにはテントを張るスペースが見つからず、ほとんど隣まで場所を探して車を走らせ、結局林道終点まで行ってから少し戻った所の大きな

広場にテントを張った。

空は、厚くて暗い雲におおわれている。天気予報は明日から2日間共曇りか雨である。冬の雨はまことに寂しい。湿度は低くても標高が高いので雪になつてくれることを祈るばかりだ。

そんな天気だから、登り始めの植林帯は夜が明ける前のように暗い。和佐羅流への分岐を過ぎるとジグザグの急登が始まった。植林帯の単調な登りだ。奈良原の山は標高高くまで植林されている所が多く、どうしても北や東方面の山へ行きたくなる。今回は主稜線は雪と想定して、雪景色見物を目的として選んだ。そんな雪景を期待しながらも、雪には全く無縁という風情の暗い植林のなかを、それも寒さなど全く感じさせない、体の関節がゆるみそうなたんた空気を押し分けるようにして、期待線の稜線に向かって登っていった。

左から和佐羅流の上流の谷が近づいてきて、左に古い小屋を見る所で大きく右に曲がった。流れが消えて尾根の上に出た。樹間に逆光気味に大きく向い側の山が望まれた。藪岳方面だろうか。同定するべくその左側の奥にある山を見ようと

ベストシーズンに歩く ネパール・ニュージーランド

エベレストビューホテルに泊まる エベレスト展望トレッキング9日間
 雄偉なエベレスト街道を歩く。ネパールでも1、2を争う人気のコースです。ロッジに泊まりながらの快適なトレッキングです。エベレストビューホテルからは世界最高峰のエベレストが一望できます。
 ◆出発日 3/15(水)~23(金) ◆旅行代金 ¥338,000

ロッジ泊で歩く ヒマラヤ大展望フーンヒルトレッキング9日間
 アンナプルナ山群とダウラギリ山群が一望できる人気のコースです。8000m、7000mの峰々が赤く染まるフーンヒルからのご来光は素晴らしいの一言です。3月はシャクナゲで山が真っ赤に染まります。
 ◆出発日 ①2/15(水)~2/23(金) ②3/15(水)~23(金) ◆旅行代金 ¥282,000~¥292,000

世界で最も美しい谷 ランタン谷 ヘリトレッキング9日間
 最近人気急上昇のランタン谷のヘリトレッキング。主峰のランタン・リルンをはじめ谷の両側には6000m級のピークがずらりと並び、まさに「世界で最も美しい谷」です。ヘリを利用して手軽に入山できます。
 ◆出発日 3/24(土)~4/1(日) ◆旅行代金 ¥348,000

アンナプルナベースキャンプ(内院)トレッキング 15日間
 アンナプルナ山群の奥深く、自然の山々に囲まれたベースキャンプ(内院)。標高差4000mのアンナプルナI峰の南壁が圧倒的な迫力で望み、鋭峰マクパチャレをはじめとする山々が展望できます。
 ◆出発日 3/23(水)~4/11(日) ◆旅行代金 ¥388,000

アンナプルナ・ダウラギリ大展望 ジョムソン街道トレッキング12日間
 古くからのチベットとの交易路だったジョムソン街道をトレッキングします。沿路は一気にジョムソンまで飛行機で、帰路はトレッキングしながら山岳景観や民族の文化を楽しみながら歩きます。
 ◆出発日 3/14(水)~25(日) ◆旅行代金 ¥358,000

ニュージーランドハイキング入門 マウントクック 6日間
 ニュージーランド最高峰のマウントクックを眺めながらハイキングを楽しみます。6日間という短い日程でニュージーランドを楽しめます。海外が初めての人にもお勧めです。
 ◆出発日 ①2/7(水)~12(日) ②3/14(水)~19(日) ◆旅行代金 ¥233,000

ミルフォードトラックを歩く 9日間
 世界一美しい散歩道と呼ばれるミルフォードトラックを、テ・アナウからミルフォードサウンドまで歩きます。1日たったの40人しか入山できない、豊かな原生林や湖、氷河、滝など素晴らしい景観が続きます。
 ◆出発日 ①2/17(土)~25(日) ②3/10(土)~18(日) ◆旅行代金 ¥433,000

ミルフォードトラックとマウントクックハイキング 12日間
 ニュージーランドの自然を心ゆくまで楽しめるコースです。世界一美しい散歩道ミルフォードトラックとニュージーランド最高峰マウントクックハイキングの両方を楽しめるお得なツアーです。
 ◆出発日 ①2/17~28(水) ②3/10(土)~21(日) ◆旅行代金 ¥488,000

タスマニア大自然満喫登頂&ハイキング 8日間
 88歳になる医師・登山家の飯塚真一氏と歩く山旅です。オーストラリアの南端に浮かぶタスマニア島。世界自然遺産にも登録されているクレイドル山国立公園を歩き、自然を満喫します。
 ◆出発日 3/11(日)~18(日) ◆旅行代金 ¥458,000

お問い合わせ・お申し込みは・・・ 通称大臣登録旅行業1366号 (社)日本旅行業協会 ボンド保証会員
アムューストラベル(株) ☎06-6456-3366
 〒531-0001 大阪府大阪市北区梅田1-1-3大阪駅前第3ビル7F FAX 06-6456-3377



国見山への登り道

思いながら、伊勢止への登りを進めて行く。それらが逆光から少しずつと見え、眩し、0.130

たりを境にして、その上が白くなっているのが分かってきた。このあたりの山の写真でよく見かける雪線が、水平にはっきりついていて光景だ。
 左は高見山、右へ国見山という伊勢止に着いた。あとひと登りで楽しみにしている展望地の伊勢止山に着く。雨が降り出す前にここまで来られて、天気予報を考えると上出来の景色だ。強い風を避けて昼食休憩をする。草原に岩が点在している庭園風の頂上からは、雪を深く抱い

た国見山の優しい姿を印象深く望むことができた。

伊勢止山からゆるやかに登りが続く尾根道は、思いのほか美しかった。カヤトの狐色に常緑樹の深い緑、それをくぐれば立ち枯れの木に青水の張った池、そして目を上げれば常に白い山を望むといった、冬ならではの里山の深いながらも豊かな配色の美しい尾根道だった。

国見山の登りで樹林のなかに入った。地面にはうっすらと雪が積もって白く明るく、太くて黒い幹にも雪が融けずに淡くあった。温度がかなり低いので、このわずかな雪が日中でもそのままに、風情豊かに演出しているのだった。

国見山の山頂は三角点を中心の小広い所、風格のある雰囲気に含まれていた。二、三のパーティと共に休憩した。大又林道からの直登コースもよく歩かれていたようだった。

水無山が近づくと、標高はこちらのほうが上なのだが樹林が細かく、ただの通過点のような所だった。そのまま樹間から見える大きなササ原の明神平へと向かっていった。

テントが数張あった。ササ原の中央や

や西寄りの鉄骨の建造物の残骸近くにテントを張った。水場は三重原側におけると、暗い岩にはさまれて狭くなり始めるあたりであった。

夕食を済ませる頃、風が次第に強くなり吹雪となった。すぐ横の鉄骨のパイプの穴に吹き込む風の音がアルプスホルンのようなパイプオルガンのような響きを発して、吹雪の夜ではあるが牧歌的だった。新雪に足跡を付けて用を足しに行くのがうれしかった。

美しい朝を迎えることができず、夜半よりにという4人の頼みはかなわず、夜半より雨に変わった。朝起きてみると雪はな、雨がさんざん降っていた。

予定の駒岳はやめて、そのまま大又林道へとくだった。下山が早かったので、予定していたやはた温泉はまだ開いていなかった。物足りない下山日だったが、台高山脈の冬山の世界は味わうことができた。(平成12年1月9日、10日歩く)

△コースタイム▽

大又(7時間30分) 明神平(3時間) 大又

△地形図▽2万5千1:1大豆生

武奈ヶ嶽と三重嶽

尾家建生

湖北

比良の武奈ヶ岳に登るたびに、真北に重畳たる山並が遠望される。12月には早くも白で表い、4月遅くまで残雪のある山である。いずれも秀峰ではないが重量感があり、泰然たる峰々である。残雪の時期をねらってそれらの峰をめざすことにした。

武奈ヶ嶽

石田川に沿ったふもとの集落、角川から入る。同行メンバーの一人、Yさんによると角川は炭焼きの集落だったという。近江と若狭を結ぶ若狭街道に近く、流通から言えば極めて便利な場所にある。かつて多くの炭がこの村から都へと出荷さ

れたことであろう。車でその角川を抜け、石田川ダムまで乗り入れる予定だったが、除雪が十分でなく途中の釣りセンターに車を駐めた。

昨日から降っている雨はまだ降り続けている。ダムまでは車道を歩き、ダムの事務所の向かいにある急斜面に取りつき支尾根に出た。積雪は1尺、残雪を雨がたたく。適度に締まった雪の春山は歩きやすい。やがて、支尾根はミズナラとリウブの気持のいい雑木林となり、天候回復の兆しか、時折日が差し始めた。石田川を挟んで向かいの山稜が現れる。中腹から雑木林は捨の植林に変わった。積雪は2尺におよび、樹間に盛り上がっ



武奈ヶ嶽山頂

た雪は行く手をふさぐ。樹林のてっぺんに手が届きそうだ。前を歩く人の足元の雪の中から懸当期のテープが現れた。ラッセルを交代して雪のコブを何度も乗り越えた。740坪ピークに近づくと雨はミズレとなって、体が冷えてきた。ほぼ北に一ノ谷と合田谷が見え、その谷に挟まれた尾根を目で北にたどると、三重嶽の大きな山容が手に取るように望まれる。



武奈ヶ嶽北峰にて、三十三間山と三重嶽を望む

740坪ピークにたどり着いた。遠くに見えていた武奈ヶ嶽の山頂が、740坪ピークから谷状の鞍部を過ぎると射撃距離に入ってきた。もう峰に近い。さらに北西に尾根を進んだ。ミズレはやみ、時折頭上を流れる灰色の雲が切れて日が差した。光を受けて雪山が白く輝いて浮かび上がり、美しい風景のなかに雪に埋もれた樹々が点々と見えた。見渡す限りの山々がぶ厚く雪をまとっている。雪山の醍醐味を楽しんだ。山頂手前の小ピークで風を避けて登にした。

山頂(860坪)には雪面すれすれに「湖北武奈ヶ嶽」という標識があった。北に三十三間山が見えると思っていたが山頂からは見えず、もうひとつ北の峰まで行くと、三重嶽のどっしりとした山容



武奈ヶ嶽・三重ヶ嶽付近略図

と、それに対峙して三十三間山の稜線があった。そして武奈ヶ嶽から三重嶽に連なる尾根をはっきりと目たどることができた。大展望だ。西に小浜市上中の集落が白一色に見え、南西に吉里ヶ岳が望まれた。異座敷から見るがごとく、若江・若生・朽木・北山・比良などの、いわばわれわれがよく通る山域が西側にすべて展望できた。南東には琵琶湖が、そしてひととき大きく伊吹山が幻のように浮かんでいる。

ブナは山頂の平らな部分に細木がまばらに群生しているだけだった。2尺以上の積雪に幹は埋まり枝先が目の高さにあった。ブナのみならず全体にこの山には大木は見られない。東斜面は捨と杉の植林帯になっていた。武奈ヶ嶽という山名からブナ林を期待したが、ブナ林といえる植生は見られなかった。全体に細木が多いということがは伏線状態にあったということだろうか。

トレースを逆にたどって下山した。しばらくくたくたふり返ると、山頂にわれわれのシュプールが見えた。登りにはなかった足跡に思わず歓声を上げた。

石田川ダムに戻るとすっかり空は晴れ



三重嶽への尾根に行く

わたっていた。雪に堆かれた林道脇の崖が露になった地肌にはフクジュソウが芽を吹いていた。

(平成12年3月12日歩く)

三重嶽

翌週、大阪を車で前後発った。石田川ダムまではスムーズに入る。ダム事務所のある玄関灯が点っているが、もちろん無人である。そこから林道が奥に入っているが除雪はされておらず、車を置いて輪カンを着けて林道を歩いた。



三重嶽山頂

雪から2000米以上まで積雪なく植生した理想的なブナ林だ。高度を上げるとブナはたちまち細くなり、風の強い山頂独特のブナ樹となった。

三重嶽の西峰に登り着いた。北北東にやや高い主峰が横たわっている。左手に廻り込むようにして頂上へ向かった。ぶ厚い残雪のおかげで地形は分かりやすく、974mの山頂に立つと、西峰と北峰と主峰の三峰の地形がよく分かった。三重

月夜で、ヘッドランプを点けなくても雪の道は明るかった。1時間で一ノ谷出合に着く予定だったが、50分歩いたその平岳の林道に平坦地のスペースがあったので、そこをテント場とした。春山のいいところは最高の冷蔵庫がすぐそばにあることだ。まずビールと白ワインを雪に突き差してテントを張った。

3人用テントの中はそんなに寒くなく、適度に冷えたアルコールを適当な時間まで飲み、シュラフに折り込んだ。夏用のシュラフを持ってきたTさんは寒く、冬用の羽毛シュラフを持ってきたKさんは暑かったらしい。明日は雨の予報だ。

翌朝、テントを出るとまだらに雪をつけた山々が眼前に迫っていた。眼下には雪隠けの石田川がせきを切って流れている。6時だがすでに十分明るく、テントをそのままにして出発した。曇り空だが、まだ雨の気配はない。コースは一ノ谷と合開谷に接された尾根を真北に山頂をめざすことにした。

林道はデブリ(雪害)の連続であった。一ノ谷出合の橋を渡った所で予定通り植林帯の急斜面に取りついた。よくこんな所に植林をしたなと思うほどの急斜面で、

嶽という山名の由来であろう。近畿の山にしては悠然とした重厚な山頂だ。そして類を見ないほどの大展望である。印象深いのは、東に手に取るように見下ろせる奥羽湖と竹生島と白い伊吹山であった。また、南はるかに比良の武奈ヶ岳のひととき高い峰と安曇川の谷が美しい対比をなしていた。

北西に若狭湾、西に青葉山の二峰、北北東に敦賀富士と呼ばれる秀麗な山容の野坂山が望まれる。奥美濃の連峰、鈴鹿の山群、朽木の山々など一つ一つを語るにはあまりにも広大過ぎた。

「三重嶽」と書かれた標識をバックに写真を撮り、風を避けてそそくさと昼食をとって、同じルートを下山した。

コース最後の支尾根から林道におりる急斜面は、登り以上に積雪を要する。輪カンよりアイゼンを使ったほうがよかったです。

林道には雪崩の堆積したデブリが連続した。中には土砂が大量に混じったものもある。テントに降り、滞り支度をしていると、Tさんが「なだれ!」と叫んだ。見ると、今通ってきた林道のデブリの上を崖から土砂混じりの雪崩が川のように

滑降すると雪の滑り台で川底まで、とらしいやな登りだ。高度差180mを一気に登り、支尾根に取りついた。すぐに主尾根となり緩歩歩きが始まった。

左植林、右雑木のゆるやかな尾根を行く。鳥の巣が背丈よりちょっと高い枝にあった。積雪で見やすくなっているのだ。透く空は西も東もまた雨雲はなく、東の山の端はほんのりとうすい藍色に染まっている。

686mピークに出ると、行く手に三重嶽の山頂付近が見えてきた。やがて雑木林はミズナラの林となり、ブナが一本、また一本と現れてきた。Tさんがタムシバの芽を嗅つけた。よく見るとタムシバの木はたくさんあった。開花の時期には白い花がさぞかし綺麗だろう。

標高720m付近にブナの巨木があった。幹回り330cmである。登りがきつくなり、尾根は細まって東側に雪庇が見られた。小鳥が一羽鳴きながら低くな枝を渡っていった。目の下に白い横縞が入った灰色の鳥だった。ヤマガラであろうか。

ブナは点々と続き、標高800m付近あたり突然ブナの純林が現れた。幹回り40

流れ落ちていた。

昭和十六年発行の名著「近畿の山と谷」(増補版)には「一ノ谷は八大寺谷とある。現在の林道はまたないが角川から谷沿いの道があり、八大寺谷からは七、八年以前には頂上付近まで炭焼き道が付いていたそうであるが、今は全然消えてしまった。と紹介されている。今から六十年以上も前のことである。ただ、その本の著者は山頂までは行ってない。「とにかく驚くべきヤブである」とある。

三重嶽にも炭焼き、熊罾、捕人などとの長い歴史があったのであろう。(平成12年3月18日歩く)

▲コースタイム▼

「武奈ヶ岳」釣りセンター(45分)石田川ダム(2時間50分)武奈ヶ岳山頂(35分)740mピーク(1時間50分)石田川ダム(40分)釣りセンター

「三重嶽」石田川ダム(50分)林道露营地(泊)露营地(15分)一ノ谷出合(50分)支尾根(45分)686mピーク(1時間)ブナ林(35分)三重嶽山頂(2時間)一ノ谷出合(1時間)石田川ダム

△地形図V2万5千1熊川

新ハイ例会・自然観察山行

鳥帽子岳・水晶岳・鷲羽岳・雲ノ平 (後編)

鷲見守康

北アルプス

鷲羽岳へ

3日目、水晶小屋の朝は夜半から吹き荒れていた風に乗ってガスが巻き、メンバーの大半は雨具を着けたが、これは北アルプス特有の強風で、私は10時頃までには回復するものと考えていた。

当初の計画では、昨日、水晶小屋から鷲羽岳を往復し、本日は水晶岳を往復という予定であった。結果的には、昨日のうちに予定を変更(昨日水晶岳を往復)しよかつたと言えるようだ。

ガスで周囲は乳白色に包まれ何も見えないが、きょうは鷲羽岳をめざして出発。強風に声も吹き飛ばされてしまふのか、パーティは黙々と歩いている。

岩脊乗越への道を分けてワリモ岳に至る。「さあ、これからが鷲羽岳への登り本番だ」と心のなかで呟く。時々、強風に体がふらつく。縦走路は西になだらかな斜面をつくり、東側が断崖となった、いわゆる非対称山稜である。西からの強風で体ごと持っていかれると危険だ。ふり返って、パーティメンバーの様子をうかがう。

昨日、真砂岳付近から遠望した鷲羽岳の山容は、ワリモ岳との鞍部からきつい急斜面の長い稜線を引き、なかなか大変な急登だという印象であった。ところが意外に呆気なく山頂に立った。

この鷲羽岳からの展望も一級品である

真砂岳付近からワリモ岳・鷲羽岳を望む



が、ガスに支配されたまま全く見晴らしはきかない。登頂の記念写真などカメラタイムを終えたと往路を戻った。

雲ノ平へ

祖父岳への分岐点まで戻り、岩脊乗越への道に進む。次第に強風が息をつくようになり、乗越では時々風もやんでガスが停滞するようになった。どうもおかし

い。これでは天候の回復もあやしくなってきた。メンバーの1さんから、寒冷前線の通過に伴う天候の悪化のようだ、という情報を得た。

祖父岳への道は何度も雪山のなかを通る。やはり降雪が多いのだろう。ケルンの点在するだっ広い山頂では、とうとう雨も降り出してきた。



岩石のゴロゴロする滑のような歩きにくい道を滑らないよう神経を遣ってくだる。所どころ雪解け水が流れ、手を浸しては冷水の感触を楽しむ。

キャンプ場を過ぎるとまもなく水道になった。雲ノ平山荘に近い。が、時間が早過ぎる。実は、昼食はこの山荘にキャンプを予約していた。昨日、水晶小屋で昼食の弁当を注文したとき、小屋側から雲ノ平山荘で昼食をとってはどうかとすすめられ、それにしたがったのだ。

時間調整もかねてスイス庭園にも廻り、山荘に到着したのは10時半頃であった。山荘の食堂でひとときくつろぐ。雨のなかで弁当を広げることさえ思えば、食事も温かいし、楽園のようなものである。外は雨も上がり日も出てきた。

天候の回復に促され、沈んでいた気持ちもシャンとして出立。昼食休憩が良かったため、時間にさほどの余裕はないけれど、「雲ノ平で昼食をするのが夢だった」という声もあり、祖母岳のアルプス庭園に立ち寄ってコーヒーブレイクとする。望みは、四方の山岳にへばり付いた厚い雲が動き始めたことにある。ここで粘っていれば次第に雲がとれて、多少なりと

も山岳展望が望めるかも知れない。メンバーには「晴れていても周囲の山が見えるだけで、そんなに変わりはないです」などとうそびいていたが、雲ノ平から水晶や栗師や黒部五郎を見渡すことができればこんな幸せなことはないのだ。

やがて、赤牛岳や水晶岳、そして黒部五郎岳が時々姿を見せるようになり、そのたびに子どものように喚声を上げる。ほとんど「チラリズム」の世界なのだが、だれもがそれなりに納得したようだ。遅ればせながら回復した天候に、素直に感謝した。

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2階 (45人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒576-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372



水島岳から望む雲ノ平

薬師沢小屋にて
アルプス庭園での休憩を終え、薬師沢小屋への道を進む。人影も疎らな歩きやすい木道がどこまでも続いている。

木道が果てると薬師沢への急下となった。道幅はあるものの、次々と現れる大きな露岩と著しい数の倒木とに閉口した。すれ違った登山者によると、昔は露岩が苔むして滑りやすく、かなり難渋したそ

うだ。花園のごときイメージをもつ雲ノ平も、そこに至る道はけっこう険しい。沢音が迫り、まもなくひまわりとこりて川原に出た。対岸に薬師沢小屋が建ち、赤い吊橋が架けられている。あちこちに登山者がゆったりとくつろいでいる。清らかな水の流れは早い。

おりてささやかな宴を催した。Mさんらの提案による「打ち上げ式」だ。アルコールを味わい、Mさんの司会進行で自己紹介が始まった。リラックスした雰囲気なかで、こもごもに山への想いが素朴に語られ、一人一人の人情が滲み渡る。メンバーの話を傾けながら、心が深く和んでいくのを感じていた。

小屋では私たちパーティに一室が割り当てられた。雑団一枚に2人という混雑だが、水島小屋に比べれば雲泥の差である。

山行リーダーとは言っても、私の場合、山行を提案し、段取りを整え、当日に先頭を歩くというだけに過ぎない。山行内容そのものは、サブリーダーをはじめメンバー全員が盛り上げてくれる。メンバーの一人一人が山行を支えているのだ。アルプスの縦走山行は、そんな支え合いの心が日々祝福し、自然の美しさと相まって思い出深いものとなるのだろうか。

荷物の整理後、Mさん、Yさんと私の3人は川原におりた。水雷照かな清き流れを目の前にしては、汗と埃にまみれた体は我慢ならない。下着の替えも用意し、私は裸で水浴するつもりであった。が、間が悪いというか、近くの岩場で若い女性らが遊んでいた。上流に目をやると、大きな岩影に数人の女性の姿もある。よく見れば、わがパーティの女性たちで、体を清めているようだ。水浴はあきらめタオルで体を拭くのみであったが、気分の良さに次第に大胆になってしまった。

北アの最奥部、黒部湖流での時間はゆるやかに過ぎていった。

き方はできるかぎりしたくない。私自身かそうした歩き方を好まないし、そのほうが安全だと考えている。だから、スケジュールの中で行動時間には余裕をつくり出したい。

コースは小屋からいきなりの急登であったが、すぐ湿原のなかの木道歩きとなった。カベツケが原から始まる薬師沢の道は、太郎平への登りまで多少の途切れはあるものの木道が延々と続き、大変歩きやすい。

所要所にはベンチの休憩所も設置されており、湿原の休憩所で小屋の弁当を開け朝食とした。

頭上には青空が広がり、行く手には太郎平の稜線がまぶしい。のびのびとした雰囲気は湿原には多くの花が咲き競い、点在する樹林も青々と、やわらかな景観をつくっている。足取りも軽やかに、花たちを観察しながらアロムテード気分です歩き、しばしば絵画のような風景に出会った。

黒部湖流部がこんなにも穏やかな別天地だったとは、私にはさわやかな驚きであった。

薬師沢中保徒歩点の木柵などを数回渡

ると、いよいよ太郎平への登りになる。雲ノ平からの急な下りに比べると道ははるかによく、見上げる空の青は深くなって、軽快な気分だ。すれ違う登山者が多くなった。

太郎平は夏の爽快さいっぱいだった。でんと構えた薬師岳ってべんは、雲を突き抜け、キラキラと輝いて見えた。

折立へ下る

太郎平小屋には8時前に到着した。時間之余裕ができたのを確認し、折立に下山した。国民宿舎「白樺ハイツ」で湯に浸かり、食事をとることを提案した。3泊4日の山旅の汚れを落とし、さっぱりとして電車に乗りたい。それはだれしもの思いであった。

全員の賛同を得て、国民宿舎に電話する。国民宿舎まで路線バスの利用も可能だが、時間に拘束されるのを避け、仮予約しておいたタクシー会社に連絡する。

手配を終え、再出発。標高1871mの三角点まで、一部樹林帯はあるものの、全体に高原状のなだらかな斜面が広がっている。見上げると大きな薬師岳の山体の

上部には、薬師小屋、山頂、北薬師が見とれる。

さらに進むと、立山主峰、御岳も姿を見せ、メンバーはめいめいにカメラタイムを楽しむこととなった。

これから太郎平小屋に向かう登山者とも頻りにすれ違い、朝のあいさつを交わす。折立までは、山行の締めくくりにあさわしく、晴れやかでのどかな風景が続いた。

（平成12年7月20日、23日歩く）

参考タイム

- （7月22日）水島小屋5・40ーワリモ岳6・40ー黒羽岳7・00ーワリモ岳7・40ー岩吾乗越8・00ー祖父岳8・50ー雲の平小屋10・25（昼食休憩）11・45ー祖母岳12・00ー（この間パーティタイムあり）
- ー薬師沢小屋15・00（泊）
- （7月23日）薬師沢小屋5・00ー太郎平7・40ー8・00ー折立11・15（タクシー）
- 国民宿舎「白樺ハイツ」12・00（入浴・昼食）13・35（タクシー）JR常山駅14・20（解散）

△地図▽

昭文社「黒部湖・黒部湖」編・立山

大隅半島の山旅

国見山・甫与志岳・六郎館岳など六山

南九州

西尾 寿一

日本中の未知未明はすでに無いに等しいが、忘れられた土地や離島・半島などの先に辛うじて小規模なものが残っていて、それをほじくり出してみるのも楽しみである。

九州の大隅半島と言えば一時ロケットで有名になったが、それ以外はこれといった情報のない土地である。これを九州山岳の第一人者で、多数の本を書いている吉川清氏に訊ねてみると、「自分も未知の世界で付き合うから来い」と言ってくれた。

彼とは二十年來心やすくしてもらい、九州の山のことなら何でも彼に世話になってきた頼もしい存在である。

大隅半島も鹿屋市より南端までは「肝属郡」と呼ぶ。「肝属山地」といってもよいが、きわめてローカルな土地である。登山としては、一等三角点の甫与志岳が比較的登られるだけで、ほかは知られていない。

しかし、この半島一帯は花崗岩の発達した山が東西に50°ほど連なり、特に南端は山が直接海へ落下するという、すさまじい光景が見られる。植生も動物も屋久島にきわめて近く共通のものも多い。濃密な照葉樹林におおわれてガスもかかりやすいので、登山の適季は天候が安定する晩秋から冬がよい。

未知の山は何があるか不明で、沢も尾

短門から甫与志岳を望む



根も岩もやぶも、何でもありである。それがまた楽しいのである。

1月18日の夜行バスにて熊本へ。吉川氏の出迎えを受け、食糧その他の仕入れをして一路大隅へ出発した。半日はかかる行程である。19日夜、内ノ浦町の浜でテント泊。魚の干物をあぶり、焼酎で山の話に花が咲く。

国見山を広瀬川を遡行して登る

20日、手始めに国見山を広瀬川から登るが、花崗岩の発達したすばらしい谷だ。地下タビでワラジなしでもフリクシオンはよく効くのでありがたい。この日は冬だというのに快適な沢登りが楽しめる。祠のある国見山に登り、別の沢を下降した。前日と同じ場所までテント泊する。また焼酎に焼き魚をほおばり、登山界の話となるが、時の経つのが早い。

国見山は、電波塔のあるピークへ車道が上がっている。内ノ浦からの旧道はやぶが深くなった。安直な登山をやめて沢の遡行にしたのは正解だった。

甫与志岳に登る

甫与志岳は一等三角点愛好者が北面から登っているが、21日、われわれが南面の小田川を短門へ越す峠まで登ったところ、偶然にも内ノ浦町のつくった学童遠足の登山道を発見し、これに登る。樹林に植物名の札が付けられ、いかにも遊足用の森らしかった。もちろん頂上の展望はこの山塊第一のすばらしさだ。

六郎館岳に登る

22日、船間から五郎ヶ元という集落(麓村に近い)へ入り、滝記号のある谷をつめて六郎館岳という、木地師の山らしいのに登った。

この谷は、めずらしく高さ1000尺の間に滝が密集しており、長さ2500尺も連続していた。滝上は一俵して平流となり、毛細血管のように分流している。それがどこまでも続きいつ終わるとも知れず、ついに尾根の分水点にまで達していた。京都

の由良川源流を思い起こすほど美しい所だ。

山頂の岩上に立てば、樹林の波がどこまでも広がっていた。帰りは左俣をとったが、やぶばかりで平凡な谷だった。

四坂岳に登る

23日は西へ移動し、四坂岳に登った。この山も道がないので、辺原川を遡行し、やぶこぎ1時間で露岩上の三角点に達した。こんな山に登る人は数年のうち一人あるかないかで、われわれは地図上に名前があるから登ったままで、特に印象に残る山ではなかった。

この日は、海岸にありながら海とは無関係に暮らす大浦という村の分校で泊まる予定だったが、産校で泊まらなかった。しかも、老人ばかりで数年のうちに廃村になりそうな村だった。商店もないのでうまい魚をあてにしていた日算が見事にはずれ、ラーメン一個のわびしい食事となった。

夜になり、あす登る予定の箱尾岳のために、熊木と水俣から若い助っ人2人が雨とともにやってきた。箱尾岳は北面からの登山路ではなく、南面から急角度で



突き上げる境谷をルートにする。

境谷から稲尾岳に登る

24日、いよいよこの山塊最悪といわれる境谷を登る日である。出合は平凡であるが次第に崖下(ゴルジュ)となり、直登したり滝いたりして登るうち、大規模な山抜け(崩壊地)があり、多くの滝が埋まっているようだ。花崗岩の壁が崩立する谷には多くの美しい滝が連続し、快適に登る。ふと横を見ると、可愛いピンクの花が咲いている。さすが南国の山、冬枯れはここにはない。

滝をたくさん登って、おそろしく急角度の登高をこなし、ジャングル風呂の植物群のような庭園を分け登って、ようやく尾根に出たときには、そうとう疲労していた。

九州の岳人は、山行中ほとんど休みをとらない。食事時や記録、写真を撮るほかは少しペースを落とし気味にしてゆっくり止まらない流儀は、かえって疲れず早く登れるものかも知れない。

稲尾岳の祠に礼拝し、巡視路を大浦へ下降する予定が、すでに廃道となっていたので、打詰の集落への登山道をくだり、

林道を車まで歩いた。ヒッチハイクも肝臓では不発である。

若い助っ人2人は、夕方あわただしく熊本と水俣へ帰った。彼らにはあす仕事があり気の毒だった。吉川氏と小生は定年後の気楽な身分だから、なおしばらく山旅を続けるつもりだ。

この夜は西方へ移動したが、気に入った宿がなく、ついに脚近くの国民宿舎まで行った。国民宿舎といえは役所の経営で、予約無しではダメかと思ったが近頃はどこも不景気でいつでもオーケーである。久しぶりにまともな食事をとり、温泉に浸かった。

野首に登る

25日、野首(岳)という一等三角点の山へ登る。登山道は南から北へ続き、辻岳まで行っている。この連山の西面の大岩壁はひと目見ておくべきで、野首の名の由来も解ける。一般に「野首」は九州全域に分布しており、特に五島に多い。地形が首のようにせばまった所で、それよりさらにせまい所は「船越」である。対馬や隠岐では実際に人の肩によって船が運ばれたのである。

九州の自然歩道には一つの特徴がある。自然道がつくられた当時は、道に合わせた両側のやぶは伐採されたと思うが、その後は自然のまま残しておくようである。したがって足元を見ながら登行する人は度々頭を打つはずで、気をつける必要がある。

長い間付き合ってもうった吉川氏はあす熊本市内で講演があるので帰ってもらう。小生は鹿原市の商人宿に泊まり、高隈山塊の縦走を試みるつもりだ。

高隈山塊(大隈橋岳)に登る

26日、タクシーで御岳(一等三角点)の登山口まで送ってもらう。これが六千円位かかるから痛い。しかし天候は良好、気分よく山に取りつく。だれもいず、一人占めの山旅だ。こんなぜいたくな登山はない。

御岳まではロープも設置されていて、急登ながら快適に登って、360度の大展望を楽しむ。高隈山塊の主峰大隈橋岳の石近く、標高が煙をあげているのがかにも煙見岳である。

縦走を開始する。妻岳に岩を置き、橋岳を往復し大隈橋岳へ向かう。こども向

側のやぶがかなりうるさい。大隈橋岳の山頂も360度の大展望で、これも一人占めの山だ。若い頃の単独行は、なぜかそわそわして先を急ぐことが多かったが、歳がせいか奇妙に落ち着けるようになった。山を心ゆくまで味わうからか。下山は猿ヶ城の大岩峰群の下を通り、こわくて長い長い本城川沿いの道を内野へ出た。タクシーを呼んで垂水市へ出て公営の宿舎に泊まる。こども真新しい温泉でいつでも泊まれる。

熊本

27日は七ヶ岳と高峠の二座に登り、フェリーで鹿兒島へ出て、JRで熊本へ。吉川氏宅で一泊のち高速バスで翌朝早く熊本となった。

少々長くて厳しい山旅だったが、好きなことをやっているためか疲労はそれほどでもなかった。

(平成11年1月18日〜27日歩く)

Aコースタイム等省略

△地形図▽

5万1:1志布志・内ノ浦・鹿原・大隈占・辺塚・岩川・園分

山の最新刊紹介

西内正弘 著

「鈴鹿の山ハイキング」

(二十世紀の山歩き)



鈴鹿山地全域から131山を100コースに収録。手書きの地図に歩く情報を緻密に書き込み、初級者・中級者にも解りやすく利用しやすい案内書です。

○判型 B5判 230頁

○発行 中日新聞社

○定価 2000円(税込み)

尚本書は私家版(限定出版)で一般書店での販売は極く限られますので、著者宛に郵便又はFAXにて申込みくだされば送料当方負担・代金後払いにてお送りします。

〒510-0302

三重県河芸町千里ヶ丘32-8

FAX 059(245) 3730

西内正弘

△交通▽

京阪高速バス予約センター(熊本行き)

075(661) 8200

阪急高速バス(大阪)鹿兒島)

06(6866) 3147

ブルーハイウェイライン(大阪)志布志

間フェリー)

06(6441) 1411

△費用▽約8万円

△追記▽

今回の山行で大隈山塊の主要な山は登っているが、残ったものに鹿原岳・荒山・八山岳・木場岳など。別に未知の沢が残っている。冬期に再度行って全容を明らかにしたいと思っている。

大隈半島の肝臓山地へのアプローチはバス・タクシーは不可で、車(レンタカー)が主役である。大阪からフェリーで志布志港へ行くのがベストで、ほかは経費・時間・体調のどれをとっても格段の差がある。

食糧調達には志布志で行うべきで、内ノ浦町では期待できない。他の村落には小規模な雑貨屋はあるが、不可だと思ったほうがよい。

連載 三角点を訪ねて ⑧

滋賀県の最高峰・冬の伊吹山へ

湖北

磯部 純

伊吹山の三角点を訪ねたのは平成5年だから六年振りということになる。この時は秋で、北側にあるドライブウェイ終点の駐車場からだけだった。南の上野から登ったのは憶えていない程遠い昔で、もちろん、三角点等は全く関心の無い頃。しかも、スキー場へ来たことはあったが、冬に、伊吹山三角点をスキーを付けてねらうのは初めてである。

5時30分、京都の南西部に往む男女4名が壬生車庫に集合し、大津パーキングエリアへ向かう。パーキングエリアで待ち合わせの北部の住人4人は6時に15分遅れで到着したが、奈良から駆けつけるはずの1人の姿がない。寒いなかで待つ

こと15分、それでも姿は見えなかった。と、車を探していた1人が「山スキーを積んだ奈良ナンバーの車がある」と言ってきたので、ハウスの中を探し彼を発見。なんと5時半から待っていたとかで、逆に叱られる始末。これでメンバー9名が全員揃い、やっと出発できたのは6時30分だった。

高速道を順調にとぼし、米原を過ぎると、昨晩降った雪が道に積もっていた。天気は完全には回復しておらず、麓に着いても伊吹山の姿を見ることができない。

8時前、幸運にもゴンドラ近くの駐車場に降り込み、横しく身づくろいをして



山スキーで歩く伊吹山

ゴンドラのりばへ向かう。思ったより列は短く、すぐ乗れた。ゴンドラが上へ行くに連れ、あたりにおおっていった霧も晴れてきて、山の端が見え始めてくる。

ゴンドラ終点は三合目、昔のイメージは全く無いではないか。もっとも、このゴンドラの存在すら知らなかったのだから、変わっていても当たり前なのかもしれない。山の方を見ると、山頂は雲におお

われていたが、八合目までは見通すことができる。あんな高い所まで登るのかと思うと、自分の体力が持つかどうか不安にならざるを得なかった。

参加者全員熟年。三合目から歩くなどという無謀？はやめ、ともかくもできるだけ体力を消耗しないようにと、リフトを乗り継ぎ、リフトを降りた五合目地点でシールをつける。出発はちょうど9時。ゲレンデを離れると30分程の新雪。と言っても湿雪で重そう。われわれの前には、たった1人、上へ向かった人の足跡があるだけで、他には何もついていない。この雪では雪崩の心配はしなくても済みそうだ。

六合目の小屋を左に見て、大きなジグザグで高度を稼ぐ。歩き始めて1時間。



登るにつれて斜面はきつくなり、人より長いスキーを履いている者にとっては、キックターンもひと苦労。A・A・C・K(京大工学山岳会)出の2人がトッパを歩くようになるとテンポもさらに速くなり、財右や車のキーの入ったウエストバッグを三合目のトイレに忘れて来たと思いついでいた人が遅れだし、グループは二つに分かれた。八合目の小屋に登り着いたのは歩き出して2時間。ちょうど11時だった。

霧はいつしか晴れていた。ふり返ると眼下には伊吹山のスキー場全体が、また、麓の町並までクッキリと見えている。天気が良くなったのだろうか、山に向かっていると豆粒程の人の列が連なって見えている。しかし、上の方を見ると、山頂は依然としてガスにおおわれていて何も見えな

い。八合目の小屋で休憩をとり、山頂へ登るのを見合わせるという2人を残し、最後の急斜面へと進む。転ぶと何日も流されてしまいそうな斜面だった。幸いにも新雪が積もっているの何とかが登れるが、これがクラスト・アイスバーンだったら、当然ここでギブアップしただろう。

少し登ると単独の登山者がぐだつて来た。どうやらわれわれの先を登っていた人らしい。声をかけると、何と若い女の人ではないか！彼女も三角点までは行っていないとのこと。輪カンを背にアイゼンを着けて装備は万全の様子。場所が伊吹山で天気が比較的良かったとはいえ、女の人の単独行とは余程経験と自信があるのだろう……。

すでに先登の6人ははるか上の方。遅れを取り戻すため、近道をしようと思った。斜面に入ったのが大間違い。やぶに足を取られてどうしてもうまく進めず、おまけにキックターンもままならない。あげくの果てにスキーを脱いで登らざるを得なくなった。足は滑るし前へは進めないし……。それでも50分程四苦八苦しで高度を稼いだすえ、やっと再びスキーを履いたのは昔が登った斜面からだいぶ東に振った所だった。先の6人は後からついて登って来るだろうと思っ

なったが、そんなことは言っておられず、とにかく山頂をめざす。

斜面がなだらかになり、小屋が見えた時は本当にホッとした。しかし、あたりにはガスが立ち込め風も吹き荒れていた。先行した人たちの気配は全くなかった。人気の無い小屋だけが霧のなかに不気味にたたずんでいて、ゴーストタウンを歩いているかのように思えた。「ヤッホー」の掛け声をかけるも、風に流され返事は戻ってこない。少なからず不安になったが、会えなかったとしても八合目までくればよいことだしと思いなおし、地図で方向を定め三角点をめざす。三角点に近づくと、気象観測所の雪だまりに風を避け、6人がいるではないか！三角点到着は皆より10分遅れの12時10分だった。

何でそんなに遅れたんだと皆に言われ、弁解するのにひと苦労。風がきつく寒さも増し、せつなく担いで来たのに、パトナーでラーメンをつくれるような状況ではない。慌しく測をすすめて、レモンティーを飲み終えるともう出発。先行した6人だけで登頂記念写真を撮り終えていて、仲間外れにされてしまった。三角点で1

人の記念写真を撮ってもらおう。厳冬の時期に登り雪を掻き分け振り起こした1等三角点と証拠写真。あたかも、一人で登ったような貴重な写真だ。

下りのルートは夏道の西の鞍部からの急斜面。ガスに視界を遮られ、斜面がどうなっているのか、全く見えなかったが急であることには違いない。後に滑れば滑る程、前の人のシューズが邪魔になるので、今シーズン初めての滑りだった。思い切った斜面に飛び込む。ちょうど三番目だったか。斜面は急で、その先はガスで見えない。見ると先にくだった。人は大きな穴を開けていた。一年振りの滑り、しかも湿った新雪では感覚がつかめず、うまく滑れるはずもない。まず、横滑りジャンプターンと洒落こんだのはよかったが、一回廻るのがやっとのこと。使いたくない重い荷物を山ほど担いで来たのが、今更ながら悔やまれてならない。とにかく格好なんかどうでもよく、一回、二回と回転し感覚を取り戻すことに専念する。それでも、八合目の小屋の手前で大きく転倒。メガネは飛ぶわ、顔を雪の中に突っ込むわで、体勢を整えるのに四苦八苦。しかし、この転倒がこの日の唯

一の転倒だった。

八合目で待っていた2人といっしょに9人で斜面をくだる。ここまでくると霧も晴れ、伊吹山南の大斜面とスキー場が眼下に広がる。次第に斜面がゆるくなると、何とか深雪後傾のターンができるようになり、あたりを見廻す余裕もでてきた。

他の人の滑りはと言えば、雪に馴れた滑りのリーダー、最長老と見かけ長老2



伊吹山1等三角点にて

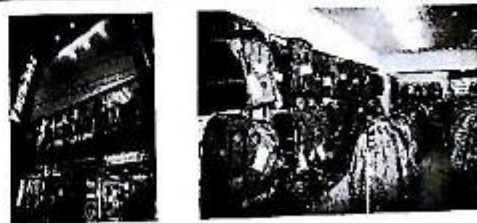
人の年季の入った滑り、豪快に転んでいたトライアスロン参加者、おっかなびっくり滑っているノンアルコール党。女性陣はとにかく雪に馴れていないのか「慎重」の一語。各人各様の滑りといっでよい。やっとうゆるい斜面に馴れてきた頃、新雪の滑りは終わった。

六合目の小屋の近くで、果敢に滑っていた彼女が転び、太ももを痛める。13時45分だった。この時、最後を滑っていたので転んだ状態が分からなかったが、怪に異常がなかったのは不幸中の幸いと言わねばならない。リフトおりはまでスキー・荷物を分担し、怪我人を御主人に任せる。スキーを背負っての滑りは初めてだったが、何とか滑ることができた。その後、怪我人はリフトおればからゴンドラおりはまで、パトロールのスキーヤーの世話になる。スキーヤーになどめつたに乘れないし、しかも若い男性にしがみついていたのだから、楽しい経験をしたか？と言っよいかもしれない。

二合目のホテルで、この日7歳になつた人の誕生日を祝し乾杯をした後、下山となる。女性群は新雪との苦闘に疲れたのかゴンドラで、男性はゴンドラのりば

低山登山~本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

新へイの会員証で更に割引します。



とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06(6772)7231

JR天王寺駅
北出口右へ
歩道橋渡ってスグ



まで、三つのゲレンデ、林道と滑ることにした。さすが、ゲレンデとなると滑りほうまい。転んでいる人などひとりもない。アツと言う間にゴンドラのりばまでくだった。30分もかかっていなかったかも。林道を滑る時、山頂でつた太ももが痛み出し、どうにもならなかったが、大平に至らず無事下山。予期せぬ出来事が起こったとは言え、真冬の伊吹山・1等三角点の写真を撮ることができ、おまげに何年振りかでゲレンデスキーも楽しんだ一日だった。

それにしても山頂近くで皆に遅れ、ガスに巻かれた時には、悪くすると遭難ということになったかもしれないのに、その時はそんなことはコレっぽっちも頭になかった。しかし、後で考えると、何で昔の後を追わなかったのかと反省しきり。
(平成11年1月30日歩く)

△コースタイム▽

ゴンドラのりば(40分)リフトおりは(30分)六合目小屋(1時間30分)八合目小屋(1時間10分)伊吹山三角点(2時間)三合目(30分)ゴンドラのりば
△地形図V2万5千11関ヶ原

雪の蛇谷ヶ峰から富坂尾根

秦 康 夫

蛇谷ヶ峰山頂にて



比良山系の最北部に位置する蛇谷ヶ峰(902.3)は、積雪量の多いことで知られる。われわれのグループでは、毎年2月に例会を組み、手頃な雪山山行を楽しんでいるが、今年は山頂まで行くことができなかった。2日前に降った新雪が50センチほどあり、輪カンを着けて、メンバー9名全員が交替でラッセルしたが、時間切れのため行程なかばで引き返した。昨今はやりのリベンジでもないが、雪の揃った3月に再度挑戦することにした。

JR近江高島駅8時59分発の江若バスは、約20分で終点の畑に着く。四十戸ほどの兼業農家が点在する静かな集落である。

今回の参加者は総勢7名。オーバースボンとロングスパッツを着け、9時30分須川沿いの舗装路を北に向かって出発した。

橋を渡るとすぐ土道になり、雪の残る土手には早くもフキノトウが頭を出している。女性たちはさすがに目ざとい。黄色の花が可憐なネコノメソウや、まだ茎の短いショウジョウバカマなどを見つけては歓声をあげている。

左岸へ移り、小さな堰堤の上を渡り返して杉林の道を登ると、立派な林道に出た。安曇川側から横谷トンネルを抜けて来る「広域林道・鶴川村井線」である。除雪はされていない。林道を左へ30分は

どの所に道標があり、ここが蛇谷ヶ峰への登山口になる。バス停から約20分。2月に来たとき、深雪に苦勞して50分以上を要したのとは雲泥の差である。

9時55分、登山口から谷の左岸沿いの道に入る。すぐ小さな支谷を越え、堰堤の右を大きく高捲いて谷筋に戻る。ピッケルで計ると積雪は約70センチ。雪が締まっているので輪カンは不要。おぼろげなが

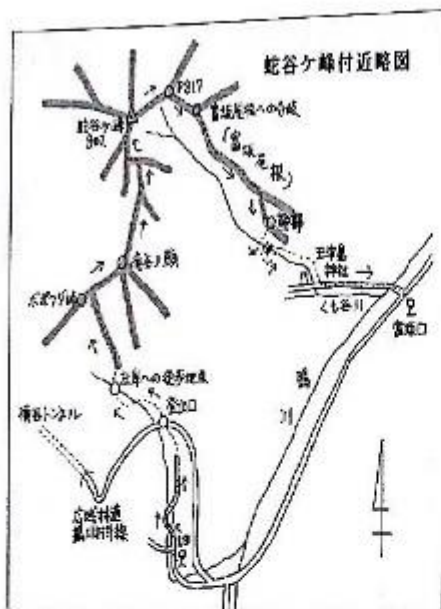
らトレースもあって歩きやすい。左に小さな滝が現れる。滝のすぐ上を徒渉して右岸へ渡ると、ほどなく小さな沢に出合ふ。左に折れ、沢筋を数10分登れば標識のテープがあり、雪を分けて右の上によじ登ると、棚田状になった杉の植林帯に出た。

このあたりは雪のため夏道は完全に隠れているが、とにかく右斜め上をめざして強引に登ればよい。杉林のなかなので雪はやわらかく、うっかり踏み抜くと膝上あたりまで沈んでしまう。雪の段差を

いくつか乗り越え、大石をかいでやっと棚田の最上段まで登った。ここで植林帯が終わわり、右の谷側に廻り込むと「公社営林地」の看板が出てくる。先程徒渉した谷の上流を渡り返し、冷たい谷水を飲んで休憩。対岸にも木の矢印型の案内板があり、ここからボボフダ峠へはほぼ尾根道になる。

少し谷沿いに登ったあと大きく右に折り返し、あとはジグザクの登りが峠まで続く。積雪は約80センチ。それだけ身長が高くなったのと同じで、いつもははるか上方にある木の枝が頭上間近に迫り、頭をぶつけそう。おまけに松の木が雪の重さに根元からぼっきり折れて道を塞ぎ、その脇をすり抜けるのに苦勞した。

登山道は尾根筋の右を廻り込んだり左に出たり、くねくねと曲がりながら、けっこう急な登りが続く。途中二度ほど休憩し、輪の植林帯を抜けた。直径1



以上の大きなモミの木が現れると峠は近い。10時50分、ボボフダ峠到着。2月には畑からここまで3時間以上かかったが、今回は夏道と変わらぬペースの1時間20分。輪カンなし、ラッセルなしの登りはない。

ボボフダ峠からしばらくはなだらかな尾根道である。木の枝には昨日降った雪が少し残っているが、登山道の雪は適当に固くて歩きやすい。15分ほどで「流谷の頭」通過。高さ1メートルの標柱は、数センチだけ頭をのぞかせている。ここから少しくだけり気味になる道は、「右蛇谷ヶ峰・左ボボフダ峠」の標識を過ぎ左に折れてから、またゆるやかな登りに転じる。

北に向かう後縁は小刻みなアップダウンを繰り返しながら、徐々に高度を上げて行く。濡れた木の幹と雪面に反射して、陽光がさらさらと輝くまばらな自然林。このあたりが、きょうのコースでいちばんのんびり歩ける所だ。静寂を破ってズシンと響く音は春を告げる雷かと思っただが、そうではなく、安曇川の北、寛庭野にある自衛隊の演習らしい。

尾根が西に方向転換すると、これまで



雪の富坂尾根にて

始めはやや傾斜が急で慎重にくだったが、そのうち慣れてだんだん大胆になってくる。両手を広げて尻セードをする人もいれば、肩を組み、輪カンの足を振りあげて、ライングンスのまねごとをする女性たちもいる。なんの痕跡もない新雪にそれぞれ勝手に自分の足跡を刻み、雪山遊びの醍醐味を満喫できるのはこの時とばかりのはしゃぎようだ。今回の山行

は、この下りを楽しむために来たようなものである。尾根が左(東)寄りに曲がるあたりから傾斜もゆるくなり、展望も良くなる。岩阿波利山の左に広がる高島の田圃地帯。琵琶湖の向こうには真つ白な伊吹山、その右手には雲仙山から南に連なる鈴鹿山脈。のんびり景色を眺めながら歩いていくうちに、左の植林帯と右の自然林の境界に緩くなだらかな尾根は、だんだん細くなってきた。雪を透かしておぼろげに現れてきた夏道は尾根を左に外し、右の自然林に入っ

とは様変わり、突如胸突く急登が始まる。ささいな新雪でないので助かるが、それでもあえぎあえぎ登ること約15分、やっと急勾配を越えたとまた道はなだらかになる。左に武奈ヶ岳方面の展望も開けてきた。あとはトレースをたどって、12時20分、蛇谷ヶ峰に到着。ササはすっかり雪におおわれ、純白の山頂には標識がポツンと頭をのぞかせている。展望は良い。北、箱館山の向こうには赤坂山・三國山、その右、送電塔が目につく湖北の乗鞍岳。東には伊吹山のすっきりとした山容が白く光っている。写真を撮り山頂で20分ほどを過ごし、北東方向にくだり始めた。道標が10%ほど顔を出してはいる朽木方面への分岐を通過。樹林帯を通り朽木スキー場ゲレンデ下に通じる遊歩道の枝れ、ピーク8174のあたりで大休にしようとした。昼食後、13時30分、全員輪カンを着けて出発。ここから先、トレースはない。東にのびる尾根筋の左側を大きく廻り込んで尾根筋に戻る。積雪は1層くらい。ジグザグにつけられているはずの夏道は、もちろん雪の下。広い急傾斜の尾根をがむしゃらにくくだるしかない。

木の根元の空洞にうっかり輪カンを突っ込んで、足を引き抜くのに四苦八苦すること数回、なんとか「造林公社営林地」の看板のある所までおどりてきた。尾根がやや左に曲がるあたりである。このまま東の尾根筋をくだれば、スキー場ゲレンデの上に出るが、スキー場から武蔵口バス停まで、あるいは安曇川側の朽木市場までの林道歩きは長くて単調だ。ここから、蛇谷の本流に沿って南東方向に分かれている尾根がある。富坂まで続くので勝手に「富坂尾根」と名付けているが、正式の名称は知らない。夏道は麓のほうだけしかなく積雪期のみ通行可能で、われわれのグループが雪の蛇谷ヶ峰に登ったときは、下りにこのルートを使うことにしている。長い林道歩きもななく、比較的短時間で富坂口のバス停へ出られる便利なルートである。山行記録を見ると今回で19回目になるが、これまで他のパーティに出会ったことはない。スキー場への下山道と分かれ、南東に向かう尾根に入る。ちょうど右の植林帯が終わるあたりである。雑木がまばらな広い尾根で、雪の斜面のどこを歩こうと自由自在。

山の最新刊紹介



須磨岡 輯 著
「はりまハイキング」

東は明石から西は赤穂、北は鳥取県・水ノ山から南は家島まで。播磨の大自然と歴史を歩く30コースを紹介。

○判型 A5判 128頁

○発行 神戸新聞総合出版センター

○定価 1500円(本体価)

最寄りの書店にない場合は、書店へ注文していただくか、著者宛に郵便またはFAXでご連絡ください。

〒671-1126

姫路市余部区上余部50の2の11

FAX 0792(73)3037

須磨岡 輯

だ。杉の苗田の脇を抜け墓地の横をくぐると、玉津島神社の前に出る。

道脇の流れで輪カンを洗いきり歩いて10数分、富坂口のバス停には15時45分頃到着した。

途中、ふり返って眺めた蛇谷ヶ峰は、薄暗い空と一線を画して白く輝き、山頂から続く尾根筋には、われわれが残してきた足跡が見えるような気がした。

(京都北山グループ臨時例会)

平成12年3月20日歩

△コースタイム▽

JR近江高島駅(バス20分)畑(20分)林道の登山口(25分)造林公社営林地の看板・左岸への徒渉箇所(45分)ボボフダ峠(20分)滝谷ノ頭(1時間)蛇谷ヶ峰(15分)ピーク8174(1時間)朽木スキー場への遊歩道の分岐(10分)造林公社営林地の看板・富坂尾根の分岐(1時間30分)三津島神社(10分)富坂口(バス10分)近江高島駅

△地形図V2万5千1:北小松

昭文社「比良山系」

1等三角点峰(500m以上) 548座完登の記録(第23回)

トカラと北海道の山旅

坂井久光

泊まった。

平成3年4月19日、大阪南港かもめ埠頭からフェリー「サンフラワー」で志布志港へ。20日朝、到着後バスで鹿兒島へ行き、22時発の十島丸で出港した。

21日朝、諏訪瀬島に到着。牧場の登山口からは、立派な歩道や標識が中腹より上まで付いていたのでびっくりした。稜線に出てひと休みして御岳(608m)に登った。標石は廃点となって以後再設置されていなかった。道標を上げる頂上に行き、眼下に火口を眺めて下山した。「古里荘」へ行って昼食をとり、友人から頼まれた黄金虫をあたりで探してみたが見つかからない。15時発の十島丸で口の島へ。夕刻に着き、「はまゆう荘」で

22日、昨年は雨のために横岳に登っただけで、登頂できなかった前岳(628m)に向かって出発した。七合目位まで林道が上がっているのが見え、道端にはタメトモユリやマルバツツジ、シャリンバイの白い花が咲き、ガジュマルやマキが多く見られた。

林道終点で作業中の村人に会い登路を訊いた。「林道予定線(橋場との谷間)の刈り分けを進み、小池手前の踏み跡を登るのがよいが、手入れをしていないから琉球竹のやぶがひどい」とのこと。300m先に鉄条網の柵があり、その先に踏み跡を見つけて登ったが、ちょっと出る

ると、民宿の車が探しに来てくれた。船乗りがないのでその夜も泊まる。

23日も12時先のセレンマ温泉へ行ったりして泊まり、24日夕刻の十島丸で鹿兒島に戻り、帰京した。

しばらく休んで踏み跡を見つけ、古道に出て林道終点にくだりセレンマ温泉へ行った。林道から100mも下方の谷間にある立派な石造りの建物で、炊事場や広い管理室がある。岩風呂があり蛇口を開けると湯が出た。

汗を流したのち、横岳の林越えのコースをとったが、途中で日が暮れた。ヘッドランプをたよりに歩いて湖見峠まで来ると、民宿の車が探しに来てくれた。

同年4月26日、舞鶴からフェリーで小樽へ。28日朝に到着し、バスで美園を経由して積丹岳登山口へ行った。山小屋では丸籠の山岳会一行と同宿だった。

29日、今年こそは余別岳(1399m)にとの思いで積丹岳まで登ったが、この日も雨となり下山した。札幌に行きカブセルホテルで泊まった。

30日、バスで中山峠へ行き、スキー場を通り林道を進んだ。中山(997m)へは送電線巡視の切り開きの急斜面をオーパスボン・ロングスパスを善用してアイゼンとビッケルを使い登った。中山一帯はシラカバ・エゾマツ・ミズナラの樹林で、展望はあまり良くなかったものの、中山峠や周囲の白銀の山々を望みることができた。中山峠に戻り、バスで札幌駅に出てからJRで旭川へ行き、ステーションホテルで泊まった。

5月1日、愛山溪行きのバスは夏季の



安足山にて

諏訪瀬島の御岳(廃点)三角点付近



のが早かったのか、先はひどいやぶであった。ひたすらかき分けて登り、踏み跡に出るとコルまでは楽に行けた。

ここでひと休みして尾根筋のやぶに突入した。左へ廻って諸谷とやぶとの境界の急斜面をよじ登って山頂三角点へ着いた。三角点は15センチの小型で、周囲はやぶで展望なく、その先に噴気孔と思われる深い穴があった。

みの運行なので、タクシード東雲村の牧場林道入口まで行った。広い林道を安足山(851m)めざして奥へと進むと、残雪のブル道に出た。さらに登り伐採地の斜面に出た。上部に着くと林道があり、それを山頂下まで行き残雪の斜面を登って小広い山頂に達した。

二角点は新設のもので、周囲は疎林で展望は良くない。樫馬林道を下山し、愛山溪ドライブインで夕食をとり札幌へ戻って、すぐ函館行きの夜行バスに乗った。

2日、函館バスセンターから石臼温泉經由概法峠行きのバスに乗り、絵紙山の林道分岐で下車。長い林道を歩いて丸山登山口へ。雨が降り出したが、そのうち晴れるだろうと思いつき林道をたどった。馬のような熊の糞がたくさんあった。尾根筋の雑木林で林道も終わり、やぶを登ると踏み跡が出て、急斜面を登ってカタクリやアイヌネギの咲く丸山(691m)山頂へ着いた。

草原の山頂からの展望は広大で、雨も上がり恵山や袴腰山が雲間に望みできた。ひと休み後、前山を越えて間道を下した。新しい林道分岐で峠をめざして下山したが、熊糞がたくさんあり、村人



設計山1等三角点

が言っていたのが裏付けられた。気持ちが悪く、笛を吹きながら歩いた。時に出て運良く観光バスをヒッチして石田バスセンターへ行った。石田温泉行きに乗り換えて石田温泉旅館へ。汗を流し、ストープで濡れた衣類を干して一泊した。

3日、バスで旅館に戻り、江差行きバスに乗り、中山トンネル手前で下車した。

この日は設計山(ア011)をめざした。沢沿いに歩き、出合の中尾根に山道を見つけてそれをたどった。快晴で残雪の山々が輝いていた。残雪の支尾根の日の当たるところにはやぶが出ていた。稜線に登りひと休みして二、三のコブを越え無事登頂した。

三角点付近は雪もなく、江差・松前・函館の山々や市街・大千軒を望みできた。中山峠をめざして尾根をくだり、コルから右側の谷をくだった。地形図の道に出るつもりがいつしか支尾根に入ってしまった。反対の上磯町側の戸切地林道との出合では橋がなく、徒渉して林道に出た。上磯町まで17・5kmの標柱にびくびくした。気を取り直してひたすら歩いた。途中、土砂崩壊地や水たまりが数ヶ所あり、アイマス沢出合を過ぎ高捲いでくると、前方にダムが見え上磯町まで10kmの標柱があった。ダムに着いたが人影はなし。その先に工事小屋があり、しばらく歩いてみると、ジープがぐだつて来て上磯町まで乗せてくれた。亀田町の土産屋の人であった。厚く礼を述べ下車。喫茶店で焼きソバを食べ、JRで函館へ出て深夜バスで札幌へ向かった。

4日、札幌駅で朝食をとり、道庁連委員長の佐々木氏に電話で昨夏の礼を述べ、今回の経過を報告した。次いで札幌山岳会会長の橋本さんに電話したところ、「会員が札幌岳へ行っている。豊平検案内から迎えに行くので来ないか」と言う。昨日の疲れもあり休養日にあてて同行することにした。

定山溪温泉を過ぎ、車道終点で駐車、電動バスに乗って豊平ダムへ行った。リフトに乗り、展望台の食堂で昼食をとり、ダムや札幌岳の風光を楽しんだ。谷間にリュウケンカ・ミスバシヨウ・カタクリ・エゾエンゴサクが咲き乱れており、水に映える光景は絵のようであった。

一行を登山口まで迎えに行き、湯路副会長の佐藤宅でひと休みしてすすきのまで送ってもらい、カプセルホテルで泊まった。

5日、昨今親交ある及川氏に土産品を買い、JRで天塩中川のボンピラ温泉へ行って泊まった。及川氏や一同と会って昨年の礼を述べ、入浴して明日の鬼刺山(ア011)登山に備えた。

6日、及川氏の車で蔵島の物産内林道に行き、林班標識二〇六/二〇七の付近



鬼刺山を望む



鬼刺山1等三角点

り水量のある大支流出合で下車した。礼を述べると「来年も来てください」との言葉に感謝する。荷をデポして沢沿いに進行し、山頂をめざした。

この山は登路はなく、分かりやすい谷ルートを選んだ。始めは雪はなく、カタクリ・リュウケンカ・エゾエンゴサクの咲き乱れる踏み跡程度の道をたどった。やがて二俣に着き、左俣をとると残雪が多くなった。スノーブリッヂを渡ったり高捲をして急登をへつたり、小滝を登ったりして上の二俣に着いた。

コーヒーを飲んでひと休み。右俣に入ったが雪崩が谷を埋めている。約13分の二段流が落ち、ゴルジュを定めている箇所を残雪を利用して越え、左岸の支尾根に取りついて稜線に出た。やっと山頂が見えてきた。最初のピークからは反射板が左肩に立っているのが見え、どこからか道があるように思えた。

山頂下の広大な雪田に出ると、ネマガリダケのやぶが所どころにあり、残雪を利用して登る。やぶ漕ぎするがなかなか距離が縮まらない。反射板に着いたが登路らしい道はない。どうも材料はヘリで運んだらしい。山頂近くの道は北から上

がってきていた。

三角点は露出していて日当りもよかったが、周囲は残雪で風が強かった。展望は広大。乾パンの昼食をとり、ひと休みしてからくだった。難所の流やゴルジュは高捲いた。下流の急崖で雪が崩れ、沢に落ちてスボンや靴を濡らした。デポした出合に着いたのは19時頃で日はとっぷりと暮れていた。

一人とぼとぼと林道をくだっていると、蔵島近くで山菜採りの車が来て、駅までヒッチできたのは幸運だった。駅前食堂でそばを食べ、音威子府からJRで旭川に行き、駅前の安宿に泊まった。

7日、高速バスで札幌へ行き、同窓の森田氏に預けたシニエラフ等の荷を受け取り、昼食を御馳走になりながら今までの概略を話した。

バスで小樽へ行き、乗り換えて朝里川パークホテルに泊まり、温泉で山旅の疲れをいやした。

8日、バスで小樽港に行き、新日本海フェリーの舞鶴行きに乗船、翌9日舞鶴に帰った。これで登頂493座目。

(次号へつづく)
文中の太字は今回登った1等三角点の山を指す。

奥吉野山散策

蜻蛉の滝から青根ヶ峰

コースとコースタイム 近鉄大和上駅(バス25分)→西河バス停(20分)→蜻蛉の滝(3時間)
 ↓青根ヶ峰(15分)→西行庵(15分)→金峰神社(15分)→高城峠(20分)→吉野水分神社
 (35分)→龍王堂(15分)→近鉄吉野駅

中村敏文

① 西河(吉野郡川上村西河)
 近鉄大和上駅9時55分発、座席数20
 の奈良交通バスは25分で西河へ着く。

中・近世の川上郷二十四ヶ村の二十三ヶ村を併せた川上村の西北部を占める西河は、蜻蛉の流への起点で、南隣の大流と同様に吉野川溪谷の景勝地である。西河と大流バス停間に鎮座する大名持神社は両村の氏神で、両バス停付近には川釣り客目当ての店も増え、奇石の多い溪流は美しい。

国道169号線を五社トンネル手前まで戻り、左へ折れて音無川を渡ると仙竜寺跡へ着く。青根ヶ峰東山麓の流を行場とした修験道の寺院で、現在は一堂も残って

ていないが、江戸時代には聖護院があり、毎回三宝院門跡の大峰入りの際には当寺を休息所としていた。

西河馬辺は中世の金峰山寺吉水院の荘園「甘河庄」で、ニジッコウ村と読んだ。

② 蜻蛉の滝(川上村西河)

仙竜寺跡の小祠の横から音無川沿いの岩肌を伝う小道を5分も上がると蜻蛉の流へ着く。2日続きの雨の後の秋晴れは絶好の滝見日和で、増水してもきれいな音無川の水が50呎の崖壁から落下して水飛沫を上げていく。

奈良時代から多くの行者たちが修行し



蜻蛉の滝

た雲地にもふさわしく、滝側面の岩上には非財天がまつられ、不動堂には不動明王と役の行者像が鎮座している。

貞享五年(1688)に龍門岳から当地へ来た松尾芭蕉は「はほろと山吹散るか流の音」と残すが、「轟々と石苔ゆする秋の流」という神さびた風情である。

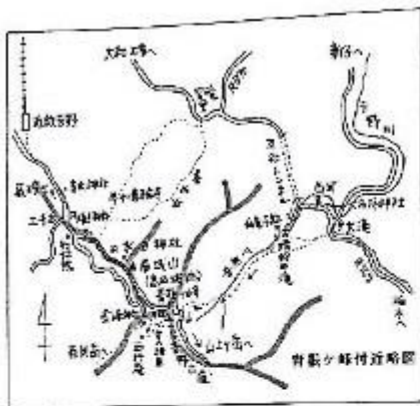
③ 青根ヶ峰登山(大流→吉野山)

蜻蛉の滝から音無川を渡り、滝の回遊路へ出て展望所から滝を眺め、大流から青根ヶ峰へ峰入りの古道を登る。音無川右岸を伝う1.5呎幅の山道は、右下の川の変化が何となく楽しい。

麓で訳く和女人結界石まで6分。登り3時間、下り2時間と言うが、元禄時代に書かれた「和州巡遊記」には「青明の流、青折ヶ峰より一旦」とある。国土地理院地形図は滝から吉野古道まで推定約

4分。十度前後の勾配が続くので、2時間あれば頂上へ着くだろう。

2分ほど登ると、音無川が細り、左岸へ渡ると急な山道が500呎の高所へ続く。ひと息入れて高所から少し下り、山腹を横切る道になると道幅が狭くなる。7号台風の後で皆伐した山腹は、道筋がほとんど消えている。踏み跡をたどり、やっと車道へ出ると「滝まで三・五」との標識がある。少し車道を歩き、青根ヶ峰登山口から数分で頂上へ登る。音無川を越えてからの急坂と道なき道で時間を



とられ、滝から3時間もかかった。

青根ヶ峰は標高858呎、吉野町と黒滝・川上村にまたがる水分山で、東流する音無川は西河、北流する葛佐谷川は宮滝、南流する榎尾川と黒滝川は丹生川となり、いずれも吉野川へ合流する。文武天皇が馬一〇頭を水分峰神に捧げ祈雨したと「続日本紀」に残る山で、「万葉集」にも「神さぶる磐根ここしき……」と、また吉野の獄、黄金の獄ともある。

現在、頂上には小祠があるだけで、西側へくぐると女人結界が吉野古道にある。大峰山まで17分と標識にあり、異取の道や千日往復する修行が有名である。

④ 西行庵(吉野町吉野山)

吉野古道を北へ少し下り、標識を見て左へ入り山道を右廻りに迂回すると、昔の行場跡らしい場所に音無水がある。湧き水をいただいたり少しく西行庵がぼつんと残り、付近一帯は公園化され桜や紅葉などは手入れされている。間口一間半、奥行一間の草庵には60ほどの西行の木像が安置されているといわれる。4月末に桜の開花する奥の千本のこの地

は、文人に魅力の史跡で西行を敬慕した芭蕉は二度も訪れている。

西行庵から吉野古道へ戻り数分かかる。吉野奥の院という宝塔院跡がある。宝塔院安禪寺は南北朝時代には大塔宮の総指令地となった。北朝軍に焼かれ、後醍醐天皇と言野衆徒との合戦で被害を被り衰微した。豊臣秀頼が修復し、明治までは金峰山寺満堂院として奥の院本堂・蔵王堂・多宝塔などの諸堂と、山王七社など十数社を擁する大寺が存在していた。

⑤ 金峰神社(吉野山一の鳥居)

宝塔院跡から少し下ると、石段上に明治の郷社金峰神社が鎮座する。式内の名神大社比定の金精明神・金山明神と称された吉野八社明神の一つである。吉野の地主神として金山里古を奥の千本の東にまつり、黄金守護神・出雲排除の神として信仰された。平安時代は正三位、後醍醐天皇は吉野守護神として正二位に任じている。

境内三千坪(二町歩)、境外山林など十二町歩の社地を持つ当社は、石段を上ると小高い山腹に三間に二間の流造の

新ハイキング選書

- 第4巻 **一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2版/上製本/日6判 350頁/定価1980円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第6巻 **花の山に行く** 松本雪枝 著
3刷発売中/上製本/日6判 356頁/定価1855円 山の花を訪ねての紀行文集
- 第7巻 **山旅素描** 足立真一郎 著
2刷発売中/上製本/A5変型刷/定価1835円 山岳画家足立真一郎の珠玉の画文集
- 第8巻 **旅がらすの山** 富田弘平 著
3刷発売中/上製本/日6判 368頁/定価1835円 内容豊かな紀行文50編を取めた
- 第9巻 **一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本雪枝 共著
3刷発売中/日6判 336頁/定価1630円 一等三角点100山の紀行・案内文集
- 第13巻 **甲斐の山山** 小林経雄 著
改訂2刷発売中/日6判 360頁/定価1880円 山梨県の山と峠を解説した事典的な巻
- 第14巻 **百歳までの山登り** 富田弘平 著
2刷発売中/上製本/日6判 360頁/定価1835円 経験豊富な著者の紀行と随想集
- 第15巻 **日本300名山ガイド(東日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著
8版発売中/A5判 320頁/定価1880円 新ハイキングの精鋭5氏実地調査のガイド
- 第16巻 **日本300名山ガイド(西日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著
8版発売中/A5判 320頁/定価1880円 地図・写真・コースタイム入りガイドブック
- 第17巻 **城跡ハイキング** 中山権四郎 著
2刷日6判 354頁/定価1880円 歴史を訪ねる城跡ハイキング。紀行と案内の書
- 第18巻 **一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本雪枝 共著
2刷A5判 340頁/定価1880円 一等三角点の山100山の登山コースを紹介
- 第19巻 **山との出会い** 富田弘平 編
日6判 320頁/定価1835円 山の随想集。55名が執筆の随想
- 第20巻 **一等三角点の山々** 山口ゆき子/磯山隆/高橋生雄/川越はじめ/岡村美都 共著
A5判 310頁/定価1680円 第9、18巻の山と重複しない80山の登山コースを紹介
- 第21巻 **中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著
A5判 288頁/定価1880円 あまり知られていない中央線の山107コースの紀行と案内
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編
A5判 387頁/定価1830円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録

発行所 **新ハイキング社**

〒114-0023 東京都北区西野川7-6-13
電話/Fax 03-3915-8110
※送料は消費税込み ※掲載のご注文は送料当社負担
定価 00130-9-148915

本殿が崩し、社前に修験道の修行門である二の鳥居が立っている。明治までは鳥居前に大日寺が存在したが、明治以降は神社地から仏教系のは排除された。石段下の社務所の釘抜門を入ると義経の隠れ塔がある。もとは鎌倉時代建立の修験者の鎮魂行場の願掛塔で、明治末に焼失してのちに再建されたものである。

⑥ 高城城跡(吉野山〜高城山)
金降神社から吉野古道を15分ほど下り、右手へ上がると高城城跡がある。東西と北の三方が開けた展望所からは北側に吉野山の町が見下ろせ、宮津から上市・下市へと流れる吉野川が一望できる。東方には台高山脈、左へと見廻すと竜門山塊から西の生駒金剛山地が眺められる。標高700mの山頂は、掘削されて大塔宮が建った山城跡をしのぼせる。千早城を望める大和の要害の地に詰城を築いた南朝軍の策略と決意がうかがえる。

⑦ 吉野水分神社(吉野山〜千守)
高城山から吉野古道へおり、15分もくると旧河社の吉野水分神社が鎮座する。もとは青根ヶ峰にまつられ、天武天皇が



吉野水分神社

馬を奉じ祈雨した芳野水分峰神で、貞観元年(859)には正五位、後醍醐天皇は正二位を授けられた。水分の神は「みこもり・身こもり・子守の神」となった。平安中期には子守明神として祭祀され、現在は式内大社の吉野水分神社に比定している。

国重文指定の社殿は豊臣秀頼改修の立派な本社獨特の棟山建築である。本殿は横に九間、奥行二間の神殿。天水分神をまつる中央が春日造、玉依姫や御子神ほか四神をまつる左右神殿は流造で、三殿を並列させ背後の板壁と一つ棟になる。楼門は三間と二間の重層入母屋造、左右の回廊は三間と二間の単層切妻造、拜殿は間口一〇間と奥行三間、幣殿は六間と四間の単層入母屋造と見事である。本殿内に並列する神像のうち、玉依姫坐像は金孫神社の藤原道長経筒と同様に

国宝指定である。水分神社から近鉄吉野駅まで1時間余りかかるので吉野山中継の地域の神社史跡は素通りして蔵王堂へくだる。

⑧ 蔵王堂(吉野山尾根のほほ中央)
金峰山寺本堂蔵王堂は本尊金剛蔵王権現を安置し、桁行五間に梁間六間の重層入母屋造で、東大寺大仏殿につく木像建築として国宝に指定される。奈良末期か平安初期の創立で、六度も火災に遭い再建された。

室町初期の正平三年(1348)の焼失は復旧に二〇七年もかかった。現在の建物は正平二年の大修理と昭和五十六年以降に大尾根替替えを終了させている。大峰山上蔵王堂と吉野山蔵王堂間は六里(24km)。蔵王堂前に往復48kmの千日回行を達成した僧侶の修行中とかで、静寂と拝観中止の張り紙を見る。なかば驚きなかば感心して、その話を繰り返しつつ近鉄吉野駅へくだる。

嬉給の滝から青根ヶ峰へは上り3時間、吉野駅への2時間余りの下りは緩れたが、桜の開花期に再度挑戦したいと話し合った。

のどかな鉄道で水間寺へ

松永恵一

和泉と河内

和泉と河内は、昔から、「わいのほう
がガラ悪いんじゃない」と何かにつけ競い
合ってきた。もちろん、ガラが悪いほう
が偉い。カラオケを歌っても「泉州恋女
房」「泉州春大港」に対して、「河内男
節」「河内のおっさんの唄」という風に。
「河内弁」の悪名を全国に馳せさせた
今東光は、住職を勤めた龍谷山水間寺
の村を、その著「家」で口汚く罵っている。
どうやらガラが悪いのは和泉と軍配
をあげていたようだ。

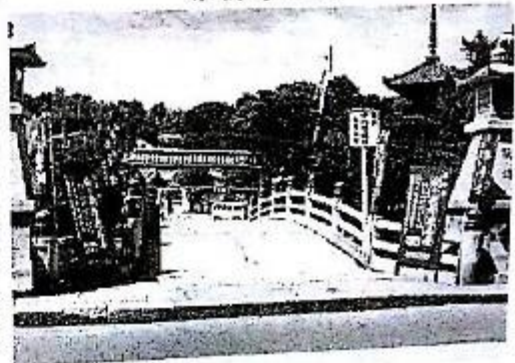
「水間観音であろうな。有名な水間寺
のある村でな。めっさとないほど柄の悪
い村や。貝家あたりでは、水間村の人間
はやっと二人よって一人前やと言われる

ほどド頭の低いところだな。まあ、こち
の喜三太の嫁にはその水間村あたりのド
女院でも貰わなあかんやろと諦めてた
んや」

今東光は八尾のお寺・天台院の住職を
勤めながら、河内に住むガラの悪い人々
を題材に「悪名」などを書いてきた。朝
吉親分は、その小説の主人公である。司
馬遼太郎は、産経新聞の記者時代、今東
光の担当だった。そのときの思い出話。

東光和尚は、本山の比叡山から、和泉
は貝塚市にある水間寺の住職を命じられ
た。水間寺は、「悪中」という地元の有
力者組織が運営の実権を握っていた。和
尚は朝吉親分を呼んで、実力行使に移る
ようにいつける。親分は提案した。

水間寺近景



「若いモンが夜明け前に水間に入って、
三重の塔に右油掛けて、火付けたります。
水間のやつら、びっくりして、飛び出し
てきますわなあ。寝はけてるうちたたっ
斬ったります」

「どれくらい、兵隊揃えんといかん？」
「向こうが？人としても、倍の14人はい
りまっしやる」
「倍？ 倍もいるんか？」
「相手は、なんせ和泉だっせ」

龍谷山水間寺

新西園観音霊場の第四番札所。天台宗
別格本山。聖武天皇の勅願により行基が
開創したと伝える。本尊は秘仏の身丈一
寸八分の聖観世音菩薩。

みなかみは、消き流れの 水間寺
願ふ心の 底は濁らじ

天平十六年(744)2月、初午の夜、
聖武天皇に都の西南に厄除の靈像出現の
お告げがあった。行基は勅命を奉じてこ
の靈域を探し求めて来訪し、「龍の辺」
で白髪の仙人に出会った。仙人は聖観世
音の尊像を永遠に奉護し給えと伝えると、
自らの右臂を咬み切り崖の上に置いた。
右臂はたちまち「龍の臂」となった。仙
人も龍に化身し、滝壺の中に身を投じた。
龍が現れた伝説の場所「龍の辺」は、
水間寺のすぐ南側に残り、「龍の臂」は
水間寺の宝として今に伝わる。

最盛期には七堂伽藍、僧坊130余を
数えたが、豊臣秀吉の根柢攻めの際に堀
秀政の軍に火をかけられ焼失。再建され
たものの再び焼失し、現在の本堂は文化
八年(1811)に岸和田城主岡部長眞
公により再建されたものである。

ここに今日お馬水かえ水間寺 蘇村

貝塚市立善兵衛ランド

江戸時代、独学で望遠鏡の製作法を習
得し、多数の望遠鏡をつくり、貝塚の名
を高めた岩橋善兵衛の偉業を称え、平成
4年に完成した善兵衛ランド。直径6尺
のドーム式天体観測室に、口径50センチの反
射ニュートン・カセグレン式望遠鏡を備
え、府下最大の規模を誇る。館内には、
善兵衛氏の遺品や、天体観測に関する資
料展示室も設置され、昼間は太陽の黒点
観測、夜間は星座観測が行われるなど子
どもたちの人気の的。水曜(祝日は翌日)
休み。木・金・土は午後9時45分閉館。
二階の資料室には、善兵衛の遺品や当
時善兵衛がともに学問をした人々の天文
関係の資料を常設展示している。

善兵衛の製作した望遠鏡は今でも数多
く残る。全て屈折式望遠鏡で、全長は2
尺前後であった。測量で知られた伊能忠
敬の測器目録に記載された望遠鏡には善兵
衛の名がある。一つが7尺5寸、もう一
つが5尺となっている。

2尺を超す鏡筒を支えて見るためには
2人かり。筒が紙で出来ているため思い
のほか軽い。レンズの研磨には二上山の
ガーネットが使われた。

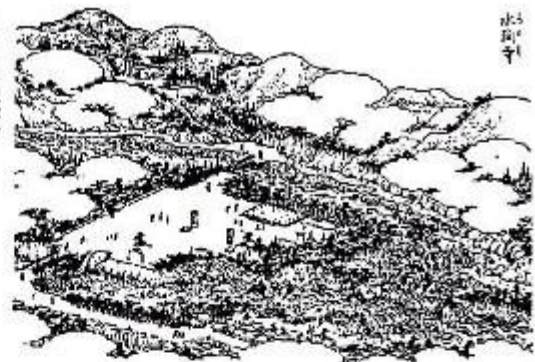
孝恩寺観音堂(釘無堂)

大阪府下で最も古い大造建築といわれ、
国宝に指定されている。一切釘を使わず
に建てられているので俗に「釘無堂」と
呼ばれる。鎌倉時代後半の建立と考え
られている。

桁行五間、梁行五間、屋根は四注造
本瓦葺きで、行基葺きになっているのは
この頃のものとしてみなわめてめずかし
い。前面二間は礼堂、その後は内陣、内
陣の後半は側背面を壁で囲い、後部三分
の一ほどを仕切って厨子とし、内陣の側
背三面一間通りを外陣とし、周囲に縁を
めぐらしている。

安置されている仏像は全部で十九体。
後世の補修が著しく認められる一体を除
いた十八体と、板絵一体は重要文化財に
指定されている。これらの仏像はいずれ
も平安時代前期から後期にかけての優れ
たもので、一堂にこれだけ多数の仏像が
存在することは、他に例をみないもので
ある。見学を希望する場合はあらかじめ
予約が必要。

観音堂横の収蔵庫前に三基の石造物が
建てられている。中央の五輪塔は大阪府
の文化財に指定されている。



水間寺境内図「和泉名所図絵」

コース概要

関西空港の地元、大阪南部・泉州地方。開発が進み生まれ変わっていく街が多いなか、目塚市には一味違った雰囲気がある。臨海部から内陸部に向かって走る総延長5・5kmのミニ鉄道・水間鉄道。そのレール沿いには古くから利用されてきた水間観音参りの道がそのまま残り、豊かな自然が広がっている。ゆったりの人びりウォーキングに水間寺を訪れてみた。

南海本線の難波駅から兵庫駅まで行き、水間鉄道に乗り換える。二両編成の列車に揺られること約14分。九つ目が終点水間駅。懐かしい雰囲気、駅舎が出迎えてくれる。

駅前を10分程歩くと、「厄除観音」として信仰を集めている龍谷山水間寺に着く。休日には出店も並び、参詣者の車で付近の道路が渋滞するほどの賑わいを見せる。近木川に架かる石橋「厄除橋」を渡る。川岸の桜が満開の頃は、花の宴に包まれ、それはもう見事。石橋を渡りながら「水間」とは、近木川とその支流廻谷川の合流で、島のようになったこの地域一帯を指していると言われたことを思い出していた。このあたりの近木川には、龍の伝承が残り、清流と岩が織りなすさわやかな景観を楽しむことができる。

この水間寺の弁財天は行基が琵琶湖の竹生島の天女の姿を彫り刻み安置されたものと伝えられている。弁財天は本名をサラスヴァティーと称し、お釈迦さまの守本尊でまたの名を功德天、妙音天等とも呼ぶ。水のような素直な心、まことの心の重要さを説かれ、全ての人々の悩みを解き運を聞き、智慧と財宝を授けてく

れる女神である。

元旦午前零時から除夜の鐘がつかれる。三が日は年始大法会、「厄除大祈禱」。3日午前10時から午後3時まで観音様の出現を祝って餅を焼き、御本尊にお供えする無形文化財「千本餅(千本餅つき)」が行われる。餅つき歌に合わせて一斉に細い餅の棒で餅を支え、高く持ち上げる曲づきが見もの。2、3日後午後2時から、境内裏の広場で「利生の銭八大餅まき」が行われ、参拝者に銭入り餅が投げられる。境内は華やいだ賑やかさに包まれ、大きなうねりの渦ができる。

こじんまりとしているが、堂々とした姿で本堂の横にたたずむ三重塔は、岸和田城主の岡部長和公が再建したもの。現存する三重塔では府下唯一のものである。塔は総検造りで、初重の礎石には十二支が刻まれ、鮮やかに色づけされている。

この塔の左奥に縁結びで知られる愛染堂があり、その前にお慰とその恋人清十郎のものと伝えられる宝篋印塔は、縁結び祈願の密かな名所として知られる。墓の前には、往年のスター林長次郎と田中絹代の花立が建てられている。

水間に伝わる「お夏清十郎」の話は、井原西鶴の『好色五人女』で知られる但馬屋の娘お夏と手代清十郎の話とは全く違うものである。

今から七百年前もの昔、「お夏」と「清十郎」という水間の男女が恋に落ちた。が、身分違いの恋をした二人の間は引き裂かれる。どうしても清十郎のことを忘れられないお夏は、ここ水間寺の愛染明王に願をかけ毎夜通って祈る。そのかいあってか二人は住吉で再会し、手に手をとって水間に帰ってきた。二人の魂は愛染堂内の楯の下にともに埋められているという。

愛染堂は、『和泉名所図絵』に「水間の楯は、木立桜さしく色麗し、むかし



より世に名高し」と記され、この楯の葉を思う人に贈れば、必ずその思いがかなえられるといわれた。

境内には他に護摩堂や巨大な石の布袋像、通天橋など、たくさん見どころがある。

本堂の裏手は観音山と呼ばれ奥の院になっている。その麓に行基をまつる開山堂・薬師堂・弁財天堂などがある。開山堂の右手の坂道を上がると一帯は水間公園となっている。小高い丘に広がる公園は、桜の木立にとり囲まれ、季節の花々が咲く花壇や、青々とした芝生の広場がある。春は桜、秋は紅葉が美しく、東に大鳴山、紀泉葛城山の山並が眺められる。貝塚市立善兵衛ランドへは水間駅の一

つ手前の三ヶ山口駅下車。徒歩5分。善兵衛ランドから水間駅へは徒歩30分。水間寺から木積に向かう。木積は行基が水間寺の建築用資材を置いたため、

村中が木くずにおおわれたことがその名の起り。木積の二差路の一角に道標と道しるべをかねた石仏二体が残る。信仰心の厚い木積の先祖たちが通りすがりの旅人に示した温かい心だった。道しるべだけではなく、この村ではゲンノショウコを煎じたお茶を喫していたという。旅の急患に利用できるうるわしい風習が根づいていた。

近木川に沿って右に進み、川を渡る手前を北に入った所に、孝恩寺の釘無堂がある。

コースタイム

- 水間鉄道三ヶ山口駅(5分) 貝塚市立善兵衛ランド(30分) 水間駅(10分) 水間寺(20分) 孝恩寺
- △地形図V2万5千以内畑
- △費用▽
- 南海難波駅〜貝塚駅 540円
- 貝塚駅〜水間駅 280円
- △問い合わせ先▽
- 貝塚市立善兵衛ランド
- 水間寺 0724(47) 20200
- 孝恩寺 0724(46) 13555
- 0724(46) 23660

剛柔が対峙する

矢筈岳と静冷山

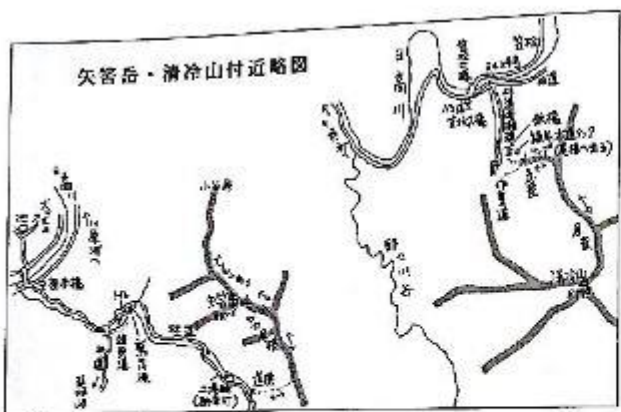
一般コース(★)
金谷 昭

冬晴れの日、落葉した明るい雑木林のなかの道を踏みしめ、快いクッションを味わうのは、雪山とまた違った楽しさがある。このような山歩きには何と云っても、温暖な紀州の山がよい。

矢筈岳は紀伊半島中央部を流れる日高川と切目川の分水嶺となり、尖鋒の山頂を中央に男性的な荒々しきを見せている。一方、野々川谷を隔て、清冷山はなだらかな稜線をもつポリユウムのある女性的なやわらかさで、剛柔対峙している。

矢筈岳

JR御坊駅より、御坊南海バスにて約40分で日高川にかかる小釜本橋バス停に



支尾根取付(1時間) 主稜線(25分) 矢筈岳(1時間10分) 支尾根取付(50分) 鷺の川滝(40分) 小釜本橋バス停
▲地形図▽2万5千川原河
▲交通▼
御坊南海バス 宮0738(22) 1020

若く。鷺の川に沿って林道を登っていく。やがて分岐に出合うが、右の窪地時へ向かう林道を見送る。すぐに駐車場とトイレがある。これより鷺の川遊歩道入口があり、川沿いには鷺の川滝が轟音を響かせている。なお林道は左の山腹を登って行く。

左岸の遊歩道を行き、滝手前の橋を渡って山腹を登ると、先ほど分かれた林道と出合い、これをたどって行く。やがて橋を左岸に渡ってしばらくすると矢筈土場跡が出てきて、広い駐車場になっている。マイカーならここまで入ることが出来る。

土場跡より林道は狭くなり、少し行くと案内板が出てきて、細くなった鷺の川を右岸に渡り、支尾根に取りつく。

登山道は案内板など村によって整備されているので迷うことはない。幅の広い一本道で、主稜線に出るまではジグザグの急登が続く。

稜線に飛び出すと丁字路となっている。これより左に折れ、起伏の激しいやせ尾根の岩級歩きとなる。稜線はシヤクナゲを混ぜた自然林が残っている。しばらくして右側にポリユウムのある清冷山の女性的な山容が望めるようになると、前方

清冷山

矢筈岳に比べると登る人も少なく道標も無い。一部踏み跡が不明瞭でテープに助けられるが、静かなのがよい。

ルートは笠松よりの往復コースがおおむねはっきりしており一般的である。国道424号線の笠松大橋バス停で大橋を渡らず、左岸の旧道を行き、林道渡瀬線の出合で右折する。

林道は一応舗装されているが落石だらけ。やがて始点より0.5kmの表示を通ぎ、50坪も行くくと、左側の木にテープが巻かれ、小さな穴に鉄製の小橋があり、簡易水道の取入口管理道が沢沿いに登っている。ここが登山口だが、道標はなくなっている。

杉林の小沢の左岸に沿って、しばらく行き右山腹に取りつく。やがて支尾根の稜線に出る。稜線は右側雑木林、左側杉植林の急な登りが続くが、谷を隔てて清冷山のポリユウムのある北面が見られる。いったん登りもゆるやかになると、木の間越しに矢筈岳の荒々しい山容が望めるようになる。

ここを通ぎると、杉と檜を混じえ、尾根というより広い山腹斜面の登りとなる。

にすくくとそびえる鋭峰が現れるが、これは頂上手前のピーク。ここまで来れば頂上はずば頂上はずば頂上はずば頂上はずば頂上はずば、矢筈岳



頂上は鋭峰だけに狭いが、高度感はずば頂上はずば頂上はずば頂上はずば頂上はずば、矢筈岳

分である。見通しはたいしてきかない。それでも疎林の木の間縫いに、西に紀伊水道、南に遠く果無山脈、北に白馬山脈と清冷山を見ることが出来る。

下山は稜線をさらに西北方向に縦走し、小谷峠を経由し、鷺の川におりることも考えられるが、道標がなくブッシュも多い。往路を出実に戻るのが無難である。

▲コースタイム▼

小釜本橋バス停(45分) 鷺の川滝(50分)

下生えは少なく歩きやすいが、迷いやすい所で、テープと踏み跡に助けられる。下山時には特に注意しよう。

やがて露岩が出てくるが、左を巻きやや右に向きを変え稜線を行く。右側は雑木林、左側は植林帯となり、それらの境界に沿って登ればよい。急登を終えると、さらに右に振り、これも稜線に付けられた植林帯との境界に沿った踏み跡を行く。やがて清冷山(877.9m・2等三角点)頂上に飛び出る。

二ヶ点標石を中心とした小広場となっている。以前は周囲の樹林も低く展望に恵まれていた。しかし、今は植林の成長で西面が開けるのみ。矢筈岳の雄姿と遠く紀伊水道が望めるだけである。

下山は往路を忠実に戻る。中間部の広い尾根は要注意で、登りにテープを付けておいてもよい。

(平成11年1月31日・平成12年1月29日歩く)

▲コースタイム▼

登山口(1時間30分) 露岩(30分) 清冷山(1時間40分) 登山口
▲地形図▽2万5千川原河

日だまりハイク

金剛童子山と花折山

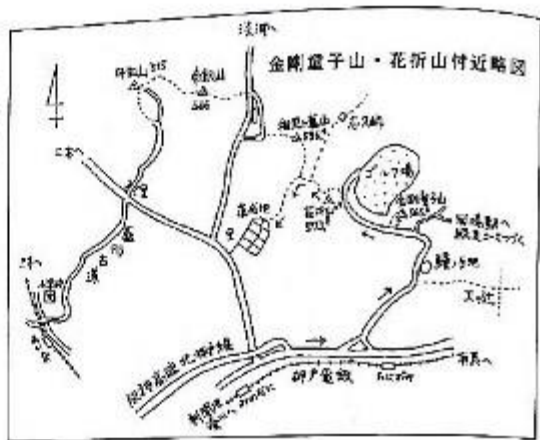
一般コース(★)
篠山 誠峰

兵庫県・六甲山系の北西部には、500級の古文化の息づく丹生山系が横たわっている。神戸市の郊外でありながら自然が色濃く残され、周辺の文化財巡りと組み合わせ、落ち着いた冬の低山ハイクが楽しめる。

毎年、4月の第一日曜には神戸電鉄の丹生山系縦走27キロハイクが実施され、各所で渋滞が起きるが、2000人も参加するのだからしかたがないとあきらめてみる。しかし、冬場は訪れる人もまばらで、静寂の山々が堪能できるだろう。

金剛童子山

神戸電鉄谷上駅で下車し、駅前の車道



花折山山頂

を渡ってすぐのところはゴルフ場への道が分岐している。これを北へ進む。途中、天ヶ辻への道を右に見て緩ノ手池を過ぎ、黒甲越えの分岐に出る。さらに車道を進むと右側にずっと続いてきた山の斜面が途切れ、ゴルフ場が眼前に展開する。登山口は分岐りにくく、よく注意していないと見過ごしてしまう。

土砂止めの木のパネルがあり、よく見ると小さなプレートがかかっている。そこを乗り越えて入山する。山道はすぐ右へ分岐して、しばらくの直登で金剛童子山(569.6m)に到達する。

気づかずに分岐を直進したとしても、鉢巻き状に道が付いているので山を一周して山頂に着く。周囲の展望はさかなく、三角点があり静かな山頂だ。

縦走路をたどる人は多いが、ほとんどが通り過ぎていくようだ。わざわざこの二山をめざす人は意外と少ないのではないかと思う。

元の土砂止めの地点に戻り、西へ車道を進む。正面に花折山の端正な姿が見えてくる。

さらに西には稚児ヶ墓山が続いている。この山名の由来は、秀吉の軍が三木の別

車道を進み、右へ大きくカーブする所に来ると、正面に縦走路が山道となっていて、ここからすぐ左に林のなかの小道が分岐している。緩い傾斜のなかに落ち葉を踏みしめ登って行くと花折山(573.8m)に着く。雑木林のなかに4等三角点を立てている。ここも展望はさかなく静寂そのものの山頂である。頂上から縦走路へも下山できるが、分岐りにくく元分岐まで戻ればよい。車で入山の場合は、車道はここまであるが、金剛童子山あたりまでに控えた

林のなかを西へ縦走路は続いていて、やがて少し広い山道に出る。コースを右の登り道にとれば志久埜に着く。この峠は神戸に残された、数少ない峠らしい峠で、特に冬場は訪れる人も少なくひっそりとしている。さらに峠をくぐって行く中山の大池池を経て、淡河の石峰寺あたりまで、足をのびすこともできる。

先ほどの分岐を左折すれば肘曲がりというカーブ地点に出る。右の小さな沢の上流めざせば、稚児ヶ墓山に続いている。きょうは左折して下山する。やがて段々畑が現れ、分譲住宅地に出る。大きな橋

金剛童子山山頂



所攻路の際、丹生山明要寺を焼き討ちしたとき亡くなった数多くの稚児の塚だという伝説がある。

花折山

花折山の名は供え物の花を折ったとも、また、一説に花折とは寺領の境界を言うとの見解もあり、歴史好きには興味深い。

を渡れば三木街道に出て、箕谷駅までは歩いておさほど遠くはない。

時間がある方には周辺の地域に点在する文化財巡りもおすすめしたい。山田町福地には無動寺がある。大日如来像をはじめ、五体の仏像はいずれも聖文に指定されている。

さらに三木寄りの衝原には室町末期の民家である箱木千早家がある。下流に呑吐ダムが建設された際、水没するため現在地に移築された。まだカンナなどのなかった時代の床板や柱は、重厚で見たえがある。周辺は自然休養村として整備され、サイクリングターミナルもあるのが家族で楽しめる。

(平成12年1月30日歩く)

▲コースタイム▼

神戸電鉄谷上駅(1時間40分) 金剛童子山(40分) 花折山(1時間30分) 志久埜または原野

△地形図▼ 万と千、有馬・淡河

三宮から神戸高速新開地経由神戸電鉄で谷上駅へ

三宮から北神急行で谷上駅へ

特選コースガイド③

丹後

2等三角点のある山

こころもりだけ まきやま

蝙蝠岳と牧山

山形 歳之

蝙蝠岳(311.3m) 点名大原

一般コース(★)

丹後半島の伊根町は舟屋で有名である。海辺の家屋は下が舟小屋で、二階が住居になっている。さながら街で見かける一階は車庫、二階から上が住宅という建て方と同じである。住居の中に舟があるのといっしょで出漁には便利だ。狭い港の海岸に細長く連なる舟屋の風景は、一幅の絵である。とくに高台にある「道の駅」からの眺めはすばらしい。

その伊根港の北部、大原に蝙蝠岳がある。それほど高くない植林の山だが、前回は植林母のやぶに留まされ、スズメバチに追いかけられ、やっとよじ登った山

頂では三角点も見つけられずに下山した。今回はやぶへの装備も怠りなく、鎌に鈍、テープまで持参する。

舞鶴自動車道を通り、宮津から日本三景の天の橋立を過ぎる。国道178号線伊根の「道の駅」でひと息入れ、なおも北上して大原集落に到着。

大原から新井にのびる車道を時に登った曲がり角の地点が登山口になる。ちょうど車一台位は駐車できる。何の標示もないが道は明瞭で、植林と雑木のなかを登って行く。

途中二、三ヶ所分岐があるが、右上上へ上へとたどって行くと、山頂下の植林帯に出る。植林後また年月が浅く、3箇所しか育っていないので、身を没するほどの雑草に埋まっている。

前回のことがあるので身構えると、何と雑草のなかに一筋の道が刈り払われていた。刈られた草はまだ青さが残り、2〜3日前に刈られたようだ。拍子抜けしたが、道があるに越したことはない。おかげでいとも簡単に山頂に到着できた。

山頂は伐採された台地だが、すでに雑草におおわれている。最高点はやぶのなかの大岩で、周囲の木々に遮られて展望

はない。前回に懲りて今回は「点の記」

持参で三角点を探す。見渡しただけではそれらしいものも見つからない。結局、三角点は登り着いた地点の

右手の丘にあり、そこは最高点よりも30分も低いピークだった。展望はないが、何となく北に林道がのびていた。前回はすぐ近くまで来ていたのだが、帰りのやぶに気を取られて見逃してしまっていた。

登山の興味は少ないかも知れないが、私にとって標石を見つけた時の喜びは格別である。帰路、天の橋立を歩いてみる。3ヶ所余りだがいろいろな名所もあり、景色も良くさすがに日本三景の一つである。

(平成12年5月13日歩く)

▲コースタイム▼

登山口(40分) 蝙蝠岳三角点

△地形図▽20万II宮津 5万II冠島

2万5千II丹後半田



蝙蝠岳山頂

牧山(428.5m) 点名東三根村

中級コース(★★★)

福井県若狭、高浜町の牧山に登る。この山の登山資料は全く見つからず、「点の記」だけが頼りである。

国道27号線を走り、JR小浜線若狭高浜駅の東から子生の集落に向かう。高速

道路の建設のため作業道の工事が始まっている。

集落最奥の農家で山の様子を知ると、この家の主婦は「牧山は道が難しいので始めての人では登れない。私たちでもひとりでは登らないし、どうしても登るのならくわしい人を紹介しますから」と言う。

こちらは興味の登山でもあり、案内人を頼んでまで登ることもないので、「ともかく一度行ってみます」と、登り口を教えてください。

集落を外れて林道を進むと、舗装路の終わりに浄水場が建っていた。対岸には地形図にない、高速道工用の立派な道ののびていた。浄水場の所で右折して地道の林道に入ると、やがて石橋の所で通行不能となる。その先は大きくえぐれていて車は入れない。

荒れた林道を1500歩ばかり進むと二分する。右手に沢を渡ると「公園巡視路」の標示があり、道が植林の深根を登っていた。「点の記」と同じ方向である。

道は落ち葉に埋もれて踏み跡もないが、見失うことなく尾根上に登り、左手のピークにカーブして行く。所どころにテープ

もあり、「公園巡視路」の表示もある。

どうやら高速道路の道らしい。やがて破線近くの台地上の窪みに出ると、大小屋くらい神社が目についた。中に仏像はなく物置状態で、裏にはスコップが立てかけてあった。地形図で現在地を確認し、小屋の後ろから尾根に入る。

ここからは全く踏み跡もなく、植林のなかを山頂めざす。それほどやぶもななく、頂上に達すると、雑木に囲まれ苔むした標石が入っていた。

展望は全くなく、古い測量ポールが立てかけられ、腐った三角点標柱が散らばっていた。登山者の遺跡は全くなかった。「公園巡視路」は山道を通らずさらに先

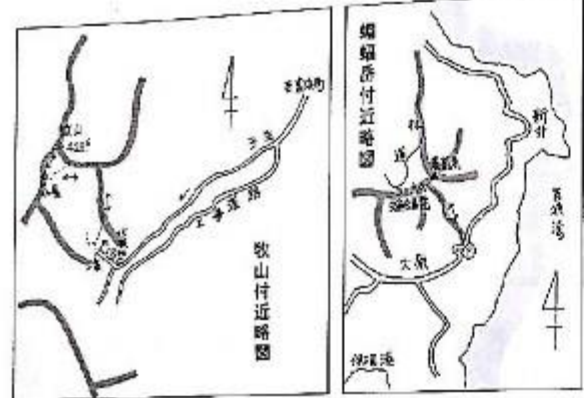
にのびていた。後で地図をよく確認すると、もう少し手前から取りついたらほうが山頂に近いようだった。(平成12年5月15日歩く)

▲コースタイム▼

林道駐車地点(60分) 小屋(40分) 牧山三角点(20分) 小屋(40分) 林道駐車地点

△地形図▽20万II宮津 5万II小浜

2万5千II高浜



せせらぎ

題字・小林波瑠三

今年も夏が早く、秋になって
もなかなか寒くならないので、
鈴鹿北部では10月になって山
ヒルが多く出没している。登山
者もずいぶん被害を被り、1日
に五ヶ所、なかには十数ヶ所食
われた人も出た。

血が止まらないからびっくり
もする。大怪我ではないがあまり
気持ちのよいものではない。
鈴鹿北部だけでなく鈴鹿中部
の山でも、古戒留の所では山ヒ
ルは生息している。山ヒルの生
態はあまり知られてないが、血
を吸って栄養を得た個体が雄に
なり子を産むようである。これ
は冬場が旬の「牡蠣」と同じで、
栄養状態により雄になったり雌
になったりする。

8月21日 北アルプス唐松岳
忘れじのマツムシソウの揺れる道
さらば白馬と八方尾根よ
8月22日 黒部ダム親光
もはや誰からも愛されない吾と
思いしが黒部湖にかかる虹
8月30日 湖北三ツ山
あらかじめ僕が登場と知っていて
ブルースカイの笑顔した山
9月3日 南紀鳥帽子山
清き激しき増水の沢徒渉して
那智原林の尾根恋しがる
9月6日 越後夜叉ヶ池
池面渡る風は過去から未来へと
禽獣消えてゆくものを悼み
9月18日 北信雨飾山
雨飾りの美しき名に秘められし
妻の岩壁光々しく迫り
9月19日 栃木城観光
天守から雉撃洗れ来よ我生きる
河原清めむ朝霧峰見せて
(木村太郎)

底の山腹の木に8月から9月
にかけてアゲハチョウが卵を産
みつけ、卵からかえった幼虫は
葉を食い、またたくまに小指の
大きさに成長する。その姿はま
さにノモ虫、割り箸でつまむと
先のほうから二本の角を出し器

ちなみに鈴鹿の池に棲むマメ
シジミは雌雄同体で、クロロソ
をどんと増やす。味噌汁に入
れて食べる河口部の川に棲むヤ
マトシジミは雌雄別個体である。
(山田明男)

山へ登った時、常にその標高
が話題となる。私はそれと同時
に、その日どれだけの標高差を
登ったかも注目している。
8月上旬、日本百名山の白馬
岳(2932m)へ登ったが、
きわめて厳しい登山だった。し
かし、へたり込むことなく登頂
できた。白馬尻から標高差14
00mをこなした計算になる。
次いで、酷暑の続く8月下旬
に、同じ百名山の荒島岳(155

臭を放つ。
この木は樹高20mの低木で、
この幼虫が五休も取りつくとほ
うずになってしまい、木はよく
て枯れてしまう。他の木にお移
りねがって消化不良をおこし
死んでしまう。
自然と共生することの難しさに
苦慮している。
同じ9月、エノキの雌木林で
オオムラサキの幼虫を見つけた。
頭部に二本の角を持ち、逆三角
形の顔に酒壺を入れたような切
れ長目の、ポケモンのキヤラク
ターになりそうな可愛いやつで
ある。下から見上げると闇の光
に透けた葉の上に幼虫の影が数
多く見られた。
しかし、この幼虫も群れて飛
んでくる鳥に食われ、何匹残る
のだから。
オオムラサキは国産であるが
ポフチョウとともに絶滅危惧種
になっている。(山形 明)

日付り可能で1000mを越
え、しかも奥深い山。これが金
蔵岳だった。
8月、山道は全て木かげ、夏
に歩いて楽しい。いちばんす

24m)をめざした。水郷登山
口からなので標高差は1100
mを越えたが、白馬岳より低い
ので問題なしと考えていた。案
に相違しての難行苦行の末、よ
うやく登頂できた。
東京の友人に詳しく報告した
ところ、遭難一歩手前だと指摘
された。
これは、白馬岳は標高154
0mという涼しい高所から登山
を開始したのに対し、荒島岳で
は、394mと下界と同じ標高の
地点から登り始めたためと考
えられる。

この事例にみるごとく、標高
と標高差、それに季節や気温を
念頭においた計画を作成し行動
しようと思った。(東谷 宏)

山行短歌
8月13日 南アルプス駒ヶ岳
霧に明けて雨に濡れゆく夏山よ
奔走曲のごとく雄姿は去りぬ
8月14日 南アルプス仙丈岳
真夏の射手は光り星撃ち落とし
女王尾根に宙の花を撒く
8月15日 南アルプス北岳
遥かなる北折まほろしにはあらじ
ウスネキノソウの道を登る時

ぼろしかったのは、突然出合っ
た林道からの展望だ。パァッと
明るく、広々と湖北の山が見渡
せた。
夏休みシーズンというのに、
単独行の人に出会った。広
い山頂は飛び交うトンボの羽音
が聞こえるほどに静かだった。
雲の多い日だったが、横山岳と
伊吹山が確認できた。
翌日は行山へ。山頂からの
日本海・余呉湖の眺めがよかつ
た。
翌々日に、その余呉湖へ出か
けた。河手駅をスタートして、
山本山から膝ヶ岳へ歩き、湖に
ゴールした。ひたすら歩いたの
で、履のほとりに出た時はカッ
とした。被行の際に坐り、登っ
た山々を探してみた。(栗津典子)

今夏の北アルプス裏銀座から
雲ノ平への縦走山行の折、薬師
沢の清流の畔で、参加メンバー
全員に自己紹介してもらいま
した。
その時の心むろまじきに味を
しめ、その後の宿泊山行の際に
は、仕路のほろバス内でメンバー

○新ハイランドサービスエー

<p>名勝二峰登山 小笠原一六白雲山 り登山(11月4日) 1名で6名 り登山(11月4日) 1名で6名 り登山(11月4日) 1名で6名 り登山(11月4日) 1名で6名</p> <p>福島・二峰温泉 日観連 大和館 〒996-0105 221 024811341 2202 024811341 2202 024811341 2202</p>	<p>富士登山・岩手五 湖登山(11月4日) 1名で6名 り登山(11月4日) 1名で6名 り登山(11月4日) 1名で6名 り登山(11月4日) 1名で6名</p> <p>三ツ山の山 スノウマン コットンテール 〒401-0502 山梨県都留郡山中瀬村平野 055551851 8315</p>	<p>本館 津島中津川から 山梨県都留郡山中瀬村平野 055551851 8315</p> <p>山小屋 福ちゃん荘 山梨県都留郡山中瀬村平野 055551851 8315</p>	<p>山梨県都留郡山中瀬村平野 055551851 8315</p> <p>山梨県都留郡山中瀬村平野 055551851 8315</p>	<p>山梨県都留郡山中瀬村平野 055551851 8315</p> <p>山梨県都留郡山中瀬村平野 055551851 8315</p>
--	--	--	---	---

<p>汗をたっぷり流せる温泉と 椎ヶ峰牛のシヤブシヤブ 日本海の鮮魚と山の幸 ハイカーの宿 ナガサキロッジ 〒949-2100 新潟県中 環状線妙高高原町池の平温泉 025551861 2261</p>	<p>高山の花、温泉の花 百名山を二つ登れる山小屋 黒沢池ヒュッテ 〒949-2100 新幹線中環状線妙高高原町 池の平温泉 ナガサキロッジ 025551861 2261</p>	<p>林道探検入浴も歓迎 10名以上マイクバスで送迎 箱根仙石原温泉 福 萬 館 〒256-0631 神奈川県足 柄町仙石原町(6)1339 04601418041</p>	<p>「世の海子」の宿帳、レトロな宿 山下の清流の 湯ヶ野野荘 バス運行時間外は送迎いたします。 〒413-0007 静岡県伊豆市 湯ヶ野野荘 湯ヶ野野荘 055663317 2225</p>
---	---	--	--

一人一人に自己紹介をしてもらっています。そのつど「印象に残る山」「山の魅力」などとテーマを設けて簡潔なコメントもいただきました。

遊覧がちにごく短く終わる人から、この機会に白濁ハイキング給を披露される方もあって、それはそれは有意義で、かつ、愉快なひとときです。

たまたま山歩きのために集ったとはいへ、文字通り数日間をいっしょに過ごすわけですから、お互いの人柄を知り、人生の機微にも触れてみたいと思うのです。

参加される方の迷惑となつて敬遠されしてしまうことのないよう、お気を付けながら、今後も、多くの皆さんの山のトリックを拝聴したいと考えています。

(鷺見守康)

山行短歌

9月7日 野洲町希望ヶ丘山系
風に吹かれてサギソウは舞う
どこに咲く秋の七草オミナエシ

希望ヶ丘で久々に会う
9月10日 浦根運峰

紅葉になってからでは混むから、9月15日に日光男体山に初めて登った。
中禅寺湖の方から登り、北側の志津小渕に下山しようとしたが、雷の都合で反対になり、それが幸いした。標高差にすると、二所神社中宮祠からは1200mで、志津小渕からは700mだからだ。男体山はよく登られているから、道は良いだろうと思っていたが、さにあらず。裏側は雨溝道で、木の根をつかまりながら登る。

(鷺木伸人)

山頂に一等三角点と鐘があり、その先に道標小屋と奥宮がある。残念だが雷雨で眺望なし。
表登山道はガレが階段になり、急な岩の道となって歩きづらい。観音堂は山崩れて樹林のなかの掃き道に変わって、五合目の小原は健在。雨が見えるようになると四合目で、林道になる。10分ほどくたると右に登山道が

西横根樹林の中の宴会上、水を差すのか大粒の雨が降る。9月24日 芦川谷南尾根
ここはどことなく生けの道の海抜が分けて疎林の中へ
さわやかな樹林の旅も杉林
杉の巨木は石仏を抱き
神聖に似せぬおむすび悠然と
杉板の杉天にそびえて
10月8日 スリパチ池・鍋尻山
スリパチは泥水をため悠久に
浮き世をはなれ秘境の森で
折尾尾花波打つかやの海
波にもまれて右へ左へ
カルストの保月に咲く秋の花
ツルニンジンやサラシナショウマ

10月19日 佐田川谷から水府の池
忘れられぬ城壁は
ダイモンジソウ咲く白い山道
10月22日 御池岳・奥の平
御池岳奥の平の笹の海
ジグネくるのか勢いは消え
(岩野 明)

ある。相変わらずだが今までは一変して射撃がよく、30分の中宮祠に着く。本殿は300年前の建物。
20分の中禅寺温泉バス停。2分の新ハイサイビステーションの民宿「すきもと館」に着く。風呂は5人・3人用と二つあり、20人は泊まれ、多人数の時は近くの民宿を紹介してくれる。男体山(志津)、白根山(志津)、太郎山(山王寺)ー現在ハガタチ遊は通行禁止で、登山口まで送ってくれる。若い夫婦がやっている親切で自分の良い宿だ。
雨天のキャンセル料不要。
T3321-1661
日光市中禅寺温泉駅前
民宿「すきもと館」
電話0288(55)0161
中宮祠から入山すると入山料ひとり500円が必要。また道は無いが志津には多くの乗用車が駐車していた。(日野節雄)

名前に惹かれて丹波の弥十郎ヶ岳に登った。マツキリその地の農民の名かと思っていたら、ガイドブックにはこれを根尾とした山賊の頭領の名とも書かれ

根の急登ではバナナが迎えてくれる。急登もフルナまで、あとは左に当場山や上感運路を眺めながらの緩急歩き。紅葉には早かったが、原生林のすばらしい山だった。

聖遺は涼山輝か池口岳へ登った。ルートはよく踏まれており、赤テープも多数あって迷うことはない。ザラナキ平からは倒木が多く少々疲れたが、被褥に出るとササ原で山頂直下から眺める南アルプス南側の山々、とりわけ聖岳が大きい。そして、夏に少いた光岳・光石が眩しく輝いていた。(粟津浩二)

山行短歌

古の参詣人も見たろうか
笹尾根に舞う約紋燦を
初秋、那須ヶ原山にて
木の間より松茸買下し憩う時
淡海の海風心地良く吹く

初秋、荒神山にて
遊野鹿の青い実下がる遊歩道
色づく時に思いを馳せる
晩秋、砂山にて
雷雨の日暑い口介護に疲れた日
ネットの上で山登りする
(九月から、インタネットが、

ている。偉い人の名のついたところかの山よりもよほどいい。
10月7日、連休初日は絶好の秋日和に恵まれた。稲の穫り入れが終わったり終わらなかつたり、農村風景がのびやかに広がっている。彼岸花には少し遅かったがコスモスが風に揺れていた。心が大きく膨らむのが自分でもわかった。登山口は後川、「しつかわ」と読むと土地の人に教えてもらったが、これはむつかし。大切にしたい地名だと思っ

登山口の「松茸シーズンにつき入山お断り」の立札は見えなかったことにする。丹波の山特有のヒノキと広葉樹が続き、赤松の混じる登山道は楽しい。赤松が大部分を占めるようになった山頂近くで、キョロキョロしたやがやが松茸は見つからなかった。
一時間半歩いて「弥十郎ヶ岳715」が標高の立派な標識のある山頂に着いた。高度計付きの時計を見ると、全く奇跡的に715mを指している。私につられて同じような時計を最近買ったばかりの旦那さんが、「ど

四季繰り返す自然観察のハイク
上高地・乗鞍岳へ冬はスキー
けやま湯りと味の宿、日曜遊
温泉旅館 けやま山荘
T3909-15000
長野県南安曇郡乗鞍温泉
0263-93-2222

さわやかな信州
露天風呂 山吹の湯
湯田中温泉(穂波)
日野屋旅館
T381-0400 長野県下
高井郡山ノ内町湯田中温泉
0269-33-3578

標高2000m以上の温泉
湯の丸高嶺自然休養林
ハイキングにXCSキー
高 峰 温 泉
T354-00000
長野県小谷市高嶺温泉
0267-25-2000

ハイキングにノスキーにノ
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯線平床下車
0269-34-2421
東京本社・東京駅前区新宿3
2015(新丸第2ビル)
朝スポーツサービス
03-3341-0211

道の道 千原街道
百八十七ヶ一観音原」
ホテル
白馬ブランドシエ
T3399-93000
長野県北佐佐木郡白馬村いわたけ
0266-73-4402

八ヶ岳南麓北麓走の中心地
59年秋の紅葉完全全観望
木の香の新しい温泉養生水浴場
オーレン小屋
1泊2食付き 5000円
T391-0213 4月末・11月末閉鎖
長野市豊田2720 小坂場夫
0266-72-279

北八ヶ岳の登山道、冬はスキー
JR野野原駅北八ヶ岳登山口まで
送迎します
資料請求
プチホテル カナール
T391-03301
長野県北山梨郡野野原55
1301
0266-67-22258

日本百名山の新
信州戸隠山
森の宿めるへん
高梨山・乗鞍山登山口まで送迎
クワン・コースご案内
T391-03301
長野県戸隠村水原
0266-254-2081

でもない。(紀平雄雄)

日月某口、六甲・高尾山を神
戸電鉄有馬口駅から水無川沿い
に登る。

駅から水無の滝をめぐり、30
分余り行く、地道の林道が二
段に分かれる。

右の道(①)を分け、左への
道をとる。すぐに右への踏み跡
(②)があるが、これを見送る。
堰堤に出合うが、左側に横き道
がある。すぐに次の堰堤がある
が、右側に道が付いている。

堰堤を越えようと、大きな石で
埋まった川原に出るが、ルート
がはっきりしない。適当に歩き
やすい所をたどると、巨大な倒
木が横倒しになっている。

そのすぐ先で右側にある踏み
跡(登り口にテープがある)を
とる(滝はまだその先だが、確
認して見ない)。杉林のなかの
急斜面を登りきると、水無峠に
②と合流して若く。

高尾山へはさらに南に急斜面
が続く。山頂から右(西)へ行
くと仏谷峠(①に合流)に到着
する。

私のとったルートを③とすれ

ば、難易度の順番は、③①②だ
ろうか。実業之日本社発行「関
西周辺ハイキング」(86年度版)
に紹介されているコースの一部
だが、堰堤から滝までの間で崩
壊が激しく、かなり難しいルー
トになっている。

上記三つのルートは、日地出
版・ゼンリンの地図では同じ点
線で表示されているが、③が一
番やさしいと思う。

昭文社の地図では、①ならび
に②の一部が表示されているだ
けである。(吉保孝次)

だれもが一度は聞いたことの
ある「塩の道」。そして、峠が
若狭から峠を越え京都へ運ばれ
ていた「鯖の道」など。その多
くの峠道が、人の往来が途絶え
て消えてしまった。

播磨でも、因幡で産出された
砂鉄が、生活物資と共に、標高
1000m近い峠を越えて、運ば
れて来た。もちろん、砂鉄は播
磨でも産出し、最上の千種鉄に
加工され、名刀備前長船の材料
となっている。

これらの鉄がどのようなルー
トで長船まで運ばれたのだろうか

日本唯一の女人禁制の山「大
峰山(百太郎)」の登山口
沼津・名水の里
旅館 記の国屋 甚八
1泊2食付 7,000円から
〒698-0043 和歌山県和歌山市
奈良県西野郡大山村桐川
0747614141-0309

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房屋山荘
屋久島グリーンホテル
〒891-4311
鹿児島県鹿嶋市久野安房
099741613021

御在所登山に
要知川溪谷歩きに
山好き仲間集う宿
朝明茶屋 朝明茶屋
山小屋
〒510-1251
三重県三郡郡御所町草
電 05931631789

③サイビスチェーンを利用する
ときは、電話か往復ハガキで
必ず予約して下さい。
④予約のときに料金を確認して
下さい。

か。また、瀬戸内海沿いの海へ
着いた鉄は、船で上方までも運
ばれ、武器に生活の道具にと加
工されている。姫路でも特産の
銀が造られていた。

これらの鉄がどのようなルー
トで運ばれたのかを探し出し、
「鉄の道」の名付け、世に開え
るルート図を書き上げるのが、
私の新しい年へのパトロンタツチ
である。(須藤田 純)

鷲峰山「子午線標」を訪ねて
友人に誘われて鷲峰山へ登っ
た時、一等三角点のすぐ側に
「天測点」と書かれた石柱を見
た。それが気になり、友人の三
谷氏へ問い合わせたところ、京
都府にある「天測点」とそれに
対になっている「子午線標」の
点の記を送るとのこと。さすが、
一等三角点研究会会長。一等三
角点に関する資料が全部揃って
いる。

資料によると、「天測点」は
全国に8ヶ所設置されており、
京都府には鷲峰山と多福寺山1
等三角点の側にある。その目的
は地図上の地点と天文測量にお
ける経緯度測量の差異を調べる

もので、「天測点」の近くには
経度が通過する点として「天測
点」の真南に必ず「子午線標」
が置かれているという。この
「天測点」と「子午線標」が設
置されたのは昭和29年、33年の
ことだったが、それ以後、観測
機器の改良が進み、天文経緯度
観測が経緯儀で三角点上で直接
観測できるようになり、「天測
点」「子午線標」は現在使用さ
れていない。この点、「子午線
標」は国土地理院の台帳に登録
されており、地形図にも記載
されている。「天測点」は1
等三角点のすぐ側であり、その
所在も明記されているものの、
「子午線標」は点の記でしかそ
の位置を知ることができず、こ
れ等の点標が壊れたり消失して
も、再設置されることはない
ことだった。

そんな地形図にも載っていない
「鷲峰山子午線標」を見に行
くことにした。
点の記によると、鷲峰山子午
線標は「和東町向の木匠峠から
東へ約100mの小道を登った所に
ある」とあった。空襲山の地形
図を見ると、今では林道ができ

ていていまひとつ位置が特定で
きない。そこで、再び三谷氏の
助けを借り、位置を詳しく確認し
てから出かけた。
木津から水津川沿いに国道1
63号線を東へ走る。木屋から
北に入り、曲がりくねった細い
道を登り木匠峠へ着いた。峠は
点の記を見て描いていた様子と
は全く異なり、道の両側は茶畑
に変わっていた。あたりを探す
も小道等特定できるわけではない。
山の上の方を見るとガードレ
ルがあり車で行けるとは思った
が、せめてここからでも歩いて
行こうと、車を峠に置き茶畑を
登ることになった。

茶畑を登りつめると、その上
は道路まで印が程か。下から見
た時、草の斜面と見えた斜面は
何とイバラやカヤの密生斜面。
いままさ、引き返すわけにもい
かず、刺で面を流しながらも、
何とか斜面を突っ切った。道路
に出て、再び茶畑を登りやぶを
滑いで上の道路に出る手もあ
たが、わざわざ無理をしたくて
もと道路をたどることにした。
ヘアピンを曲がり、東西に走
る送電線と平行になった道路の

右手の山のなかに「子午線標」
があるはずだった。登りやすい
所から林へ入り、道路と平行に
茂みをかき分け進むと、ちよう
ど道筋がゆるく曲がっているあ
たりに石柱が立っていた。
あたりの水々に青色のビニー
ルテープが吊り下がっているの
を見ると、全く見捨てられてい
るわけでもないらしい。興味を
持っている人は私だけではない
たようだ。

メジャーを忘れて来たので正
確な数値は測定できなかったが、
「子午線標」は高さが120cm
程の角柱でその一辺は約29・5
cm。頭には幅5・5cm、長さ24・
5cmの金属板が取り付けられて
いて、両端近くに丸い金属棒が
立ち、プレートの中央には④の
印があった。北側面には「第一
号 子午線標 北野調査所」の
プレートが貼りつけてある。
真北方向を見ると、木の間か
ら点の記に書かれていたように、
鷲峰山1等三角点のすぐ近くに
ある電波塔がハッキリと見えた。
(須藤田 純)

山行計画 (1・2月)

このページの山行計画には、「(会員に限る)」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加者以外の他の資料代金等をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は必ず係に連絡してください。体調が悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発時の際、係に保険料月額30円と救援対策費月額50円合計100円(夜行日増りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。傷害保険の特約内容は次の通りです。(安田火災海上東洋火災と契約)

死亡・後遺障害長給金額	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散まで係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ビッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は係まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

***マイカー山行**
経ヶ峰の山頂小屋で忘世記念を行います。食料・飲み物・食器・寝袋・灯具持参。小屋には大きな囲炉裏があり、一晩中焚き火します。*単山駅集合以外でも、山頂小屋13時30分に集合でもよい。その場合「集合山頂小屋」と明記ください。雨天決行

北山・比較山(一般向き)
期日 1月2日(日) 日曜日
集合 JR名古屋駅中央改札口 6時35分/JR関西線比叡山駅9時15分
コース 比較山坂本駅→日吉大社→滝路→根本中堂→大比叡→八幡ヶ池→山頂小屋→水炊野陣跡→赤山道→観音寺院院(解散16時頃)
費用 約3000円(名古屋駅から徒歩18きっぷ・押込料)
地図 2万5千円京都東部部
係 小出良春 ○川上久家
申込み 6100121
城陽市寺田大群10の新ハイキング関西まで
*集合料を明記ください

今年の初詣で山行は、歴史に包まれた日本仏教のふるさと比較山を歩きます。雨天中止

鈴鹿・明星ヶ岳(一般向き)
期日 1月4日(日) 日曜日
集合 JR名古屋駅中央改札口 7時25分/JR関西線池山駅8時55分
コース 池山駅(タクシー)上田木バス停→園分寺→明星ヶ岳(東麓)→(西麓)
費用 約2700円(名古屋駅から)
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」
係 小出良春
申込み 6100121
城陽市寺田大群10の新ハイキング関西まで
*集合料を明記ください

約1000坪の主峰上からはすべた双巨峰の山です。下山は眺望山を歩き関根までとなります。雨天中止

南山城・吾妻から浅坂の道(一般向き)
期日 1月7日(日) 日曜日
集合 JR京都駅山崎線10の19時00分(65分券に乗車)

冬期(1・2月)のハイキングは積雪が予想され、凍結しています。各山行計画欄に特記してなくても、ロングスバツ・アイゼン・輪カン・ストック・カビッケル・サングラスなどの雪山を歩く装備で、また午後・下着・靴は防寒・防湿用のものを、登山靴は防水のものを着用してお出かけください。

忘世紀山行
三重・経ヶ峰(一般向き)
期日 12月29日(日) 30日(月) 1泊2日
集合 (29日) JR関西線池山駅11時30分
コース (29日) 池山駅(車)天香山広場登山口→経ヶ峰山頂小屋(忘世記念・池)
(30日) 山頂小屋 登山口(解散)
費用 参加費2000円(燃料代等)
地図 2万5千円 京本・津西部
係 簡井治
申込み 6100121
城陽市寺田大群10の新ハイキング関西まで

山行会の実施について
山行会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により変更も必要があります。また山ではいかなる事態が発生するかも緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。申し込みの返信案内は期日が決まり次第、山行日の10日前頃にします。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。
記載のグレードは、常日頃山歩きに報じておられることを前提にしています。
(初心者) やさしいコース
(初級) どなたでも歩けます
(一般) ハイキングの標準コース
(中級) かなり経験者のコース
(やや健脚) ・(健脚) は、危険な所があり、キツイ登りやくだりが長く続くコースと、ご判断ください。

コース 池山駅(タクシー)上田木バス停→園分寺→明星ヶ岳(東麓)→(西麓)
費用 約2700円(名古屋駅から)
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」
係 小出良春
申込み 6100121
城陽市寺田大群10の新ハイキング関西まで

コース 池山駅(タクシー)上田木バス停→園分寺→明星ヶ岳(東麓)→(西麓)
費用 約2700円(名古屋駅から)
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」
係 小出良春
申込み 6100121
城陽市寺田大群10の新ハイキング関西まで

コース 京都駅(電車)八木駅(バス)越畑 地蔵山→神明寺 鏡池(解散)
費用 約3000円(京都駅から)
地図 昭文社「京都北山」
係 小出良春 ○比佐美
申込み 6100121
城陽市寺田大群10の新ハイキング関西まで

コース 京都駅(電車)八木駅(バス)越畑 地蔵山→神明寺 鏡池(解散)
費用 約3000円(京都駅から)
地図 昭文社「京都北山」
係 小出良春 ○比佐美
申込み 6100121
城陽市寺田大群10の新ハイキング関西まで

山田明男まで
 ・マイカーの方はその旨
 記載ください
 ・定員25名
 鈴鹿城北の三つの山を巡ります。
 雨(雪)・天中止

鈴鹿を歩く1000
 鎌子ヶ口(津朝向き)
 期日 1月8日(日) 日帰り
 集合 国道422号を越え津朝尾神
 約樹立8時30分

コース 神崎橋―鎌子ヶ口―津朝
 一東峰―鎌子ヶ口―津朝
 北越―須谷川源流―登
 山道―神崎橋(解散)
 費用 交通費各自
 地図 昭文社「御在所・鎌子ヶ口」

申込み 〒610-0121
 城隍市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 ・マイカー山行

冬への純子ヶ口山系、大ペノラマ
 と樹木の雪原を歩く。
 小雨(雪)・決行
 自然観察山行54
 美濃・月見山(中級向き)

寺崎―大御座―若山神社
 一尺代―サントリ―山崎
 二堀見学―JR山崎駅
 (解散)
 費用 約1000円(大坂から)
 地図 昭文社「京都西山」
 係 山崎三
 申込み 〒610-0121
 城隍市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

大門茶室からの歴史の道を、
 足下に淀川の光景を眺めながら歩
 きます。雨天中止

岐阜・金華山(一般向き)
 期日 1月21日(日) 日帰り
 集合 JR名古屋駅中央改札口
 8時30分/JR岐阜駅10
 時00分

コース 岐阜駅(バス)公園前―
 百山ワックス―金華山―
 めい想の小径コース―公
 園―岐阜駅(解散)徒歩
 費用 約1100円(名古屋駅
 から)

地図 2万5千―岐阜北部
 係 小出良春 ○藤原 邦
 申込み 〒610-0121
 城隍市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

期日 1月13日(山) 日帰り
 集合 JR大垣駅8時00分
 コース 大垣駅(バス)日守山―
 堀―長月山東尾―月見
 山―ふれあいの森公園
 (バス)大垣駅
 費用 約3500円(大垣駅か
 ら貸切バス代)

地図 2万5千―岐阜山・美濃
 係 昭文社「美濃守康まで
 19の5」
 申込み 〒604-0828
 各務原市藤原村雨町1の
 19の5 美濃守康まで
 ・定員30名

標高1234m。昨年と同じく
 スノーハイキングを楽しむ、残雪
 の美濃の山々の景観を望みます。
 自然観察と写真撮影に伴う不規則
 な歩き方が苦にならない方が参加
 ください。荒天中止

三重の山4
 湯間山(一般向き)
 期日 1月13日(日) 日帰り
 集合 滝原宮駐車場(国道42号
 線)9時00分

コース 滝原宮(車)大宮町役場
 一七保峠―浅間山―七保
 三小学校―七保大橋
 (車)滝原宮(解散)16時

*集合駅を明記ください
 冬場の足慣らしに山頂の岐阜城
 に行きませんか。山頂からの展望
 はすばらしい。雨天中止

鈴鹿を歩く1100
 鶴向山・水無山(難関向き)
 期日 1月21日(日) 日帰り
 集合 熊野バス停8時30分
 コース 熊野―流山林道―文三ハ
 ゲ―鶴向山―水無山―熊
 野(解散)
 費用 交通費各自
 地図 昭文社「御在所・鎌子ヶ口」

申込み 〒610-0121
 城隍市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 ・マイカー山行

文三ハゲから冬の鶴向山と水無
 山にアタックします。何回も歩い
 た1日恒例のコース。
 小雨(雪)・決行

平日水曜ハイキング
 昭文社「山次から湯山峠
 (一般向き)
 期日 1月24日(水) 日帰り
 集合 JR坂田線山出深塚駅9時

30分頃
 費用 1500円(交通費各自)
 地図 2万5千―伊勢佐原
 係 昭文社「相垣逸夫
 ○新町幸夫
 申込み 〒519-0311
 鈴鹿市大久保町2065
 稲垣逸夫まで

遠くは伊勢の海が見えます。1
 等三角点のある山です。小雨・決行
 美濃・小野アルプス縦走
 (一般向き)
 期日 1月14日(日) 日帰り
 集合 JR長良川駅加川線ホー
 ム8時00分発乗車
 コース 加古川駅(電車)小野町
 駅―御嶽神社―御嶽神社
 三角点―御嶽峠―小野町
 十一紅山―福知峠―福池
 一―小野町駅(解散)

費用 約2900円(大坂から)
 地図 2万5千―社・三木
 係 井上 保
 申込み 〒674-0057
 明石市大久保町高丘3の
 1・20の104 井上保まで
 一年前、雨で中止になったコー
 スです。標高2000mにも届か
 ない里山ですが、ヤブ歩きあり岩壁

20分
 コース 山中駅―銀の峰第一バ
 ノラマ台―四ノ谷山―雲
 山峠―地蔵山―六角軍―
 四ツ辻―十六谷駅(解散)
 費用 約1700円(大坂から)
 地図 2万5千―淡輪・岩田
 係 湯浅次男 ○清水一雄
 申込み 〒569-1133
 高槻市川西町1の18の20
 湯浅次男まで

展示の良しプロムナードを歩き、
 木もれ日の裡木陰を歩くハイキン
 グです。小雨(雪)・決行

週末ハイキング
 北山・金華山から福原山
 (一般向き)
 期日 1月27日(日) 日帰り
 集合 JR京都駅中央改札口8
 時20分

コース 京都駅(バス)大原―坂
 光院―翠嵐山―金華山―
 一江文津―英谷峠―福原
 山―三宅八幡(解散)
 費用 約1500円(京都駅か
 ら交通費)
 地図 昭文社「京都北山」
 係 狩野東彦 ○福藤元彦

ありの姿の山です。雨天中止
 奈良・伊都佐山から丹波
 期日 1月14日(日) 日帰り
 集合 近鉄名古原駅北口7時20
 分/近鉄橿原駅10時10分

コース 橿原駅(バス)比布―竹
 橋―伊都佐山―峠―古足
 尾―松林―橿原駅(解散
 15時頃)

費用 約3900円(名古屋駅
 から)

地図 2万5千―古田場・初瀬
 係 小出良春
 申込み 〒610-0121
 城隍市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください
 訪れる人の少ない静かな山です。
 山頂には都賀神社の社殿があ
 ります。雨天中止

北山ちよっと歩き
 西山・大徳道から若山神社
 (一般向き)
 期日 1月17日(水) 日帰り
 集合 阪急池田市駅北側広場8
 時20分

コース 高槻市駅―鶴ヶ橋―金堂

生駒・信貴山(一般向き)
 期日 1月28日(日) 日帰り
 集合 近鉄名古原駅北口6時30
 分/近鉄橿原駅10時30
 分

コース 橿原駅―水谷屋敷―十
 三峠―立石峠―高安山―
 信貴山―門前町入口―近
 鉄信貴山駅(解散)15時
 30分頃

*集合駅を明記ください
 伊勢物語の史跡の道から鞍馬時
 代に城があったとされる信貴山
 へ。歴史にもあふれる、信仰の山で
 もあります。雨天中止

期日 1月27日(日) 日帰り
 集合 JR京都駅中央改札口8
 時20分

コース 京都駅(バス)大原―坂
 光院―翠嵐山―金華山―
 一江文津―英谷峠―福原
 山―三宅八幡(解散)
 費用 約1500円(京都駅か
 ら交通費)
 地図 昭文社「京都北山」
 係 狩野東彦 ○福藤元彦

期日 1月21日(日) 日帰り
 集合 JR名古屋駅中央改札口
 8時30分/JR岐阜駅10
 時00分

コース 岐阜駅(バス)公園前―
 百山ワックス―金華山―
 めい想の小径コース―公
 園―岐阜駅(解散)徒歩
 費用 約1100円(名古屋駅
 から)

地図 2万5千―岐阜北部
 係 小出良春 ○藤原 邦
 申込み 〒610-0121
 城隍市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

期日 1月21日(日) 日帰り
 集合 JR名古屋駅中央改札口
 8時30分/JR岐阜駅10
 時00分

コース 岐阜駅(バス)公園前―
 百山ワックス―金華山―
 めい想の小径コース―公
 園―岐阜駅(解散)徒歩
 費用 約1100円(名古屋駅
 から)

地図 2万5千―岐阜北部
 係 小出良春 ○藤原 邦
 申込み 〒610-0121
 城隍市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

期日 1月21日(日) 日帰り
 集合 JR名古屋駅中央改札口
 8時30分/JR岐阜駅10
 時00分

コース 岐阜駅(バス)公園前―
 百山ワックス―金華山―
 めい想の小径コース―公
 園―岐阜駅(解散)徒歩
 費用 約1100円(名古屋駅
 から)

地図 2万5千―岐阜北部
 係 小出良春 ○藤原 邦
 申込み 〒610-0121
 城隍市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

期日 1月21日(日) 日帰り
 集合 JR名古屋駅中央改札口
 8時30分/JR岐阜駅10
 時00分

コース 岐阜駅(バス)公園前―
 百山ワックス―金華山―
 めい想の小径コース―公
 園―岐阜駅(解散)徒歩
 費用 約1100円(名古屋駅
 から)

地図 2万5千―岐阜北部
 係 小出良春 ○藤原 邦
 申込み 〒610-0121
 城隍市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

期日 1月21日(日) 日帰り
 集合 JR名古屋駅中央改札口
 8時30分/JR岐阜駅10
 時00分

コース 岐阜駅(バス)公園前―
 百山ワックス―金華山―
 めい想の小径コース―公
 園―岐阜駅(解散)徒歩
 費用 約1100円(名古屋駅
 から)

地図 2万5千―岐阜北部
 係 小出良春 ○藤原 邦
 申込み 〒610-0121
 城隍市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

期日 1月21日(日) 日帰り
 集合 JR名古屋駅中央改札口
 8時30分/JR岐阜駅10
 時00分

コース 岐阜駅(バス)公園前―
 百山ワックス―金華山―
 めい想の小径コース―公
 園―岐阜駅(解散)徒歩
 費用 約1100円(名古屋駅
 から)

地図 2万5千―岐阜北部
 係 小出良春 ○藤原 邦
 申込み 〒610-0121
 城隍市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

ら電車・タクシー代等)
 地図 5万1大垣
 係 ◎鷺見守康
 申込み 〒504-0828
 各務原市森原村地町1の19の5 鷺見守康まで

振興の山の前清崎、標高92.4
 材の池田山をスノーハイキング。
 池田の森からは南に広がる美濃平
 野の風景が一望見事です。アニメ
 ルトラッキング等自然観察に伴う
 不規則な歩き方が苦にならない方
 ご参加ください。*集合車を申し込
 みハカキに明記ください。また、
 マイカーで参加の方はその旨お知
 らせください。小雨(雪)決行

三河・衣笠山から稲荷山
 (一般向き)
 期日 2月18日(日) 日帰り
 集合 J R名古屋中央駅丸口
 7時45分
 コース 名古屋駅(電車)豊橋駅
 (電車)新豊橋駅-三河
 田原-衣笠山-滝廻山-
 藤尾山-稲荷山-稲荷神
 社-田原駅(電車)豊橋
 駅(解散16時40分頃)
 費用 3060円(名古屋駅か
 ら)

地図 2万5千1野田・田原・
 老津
 係 ◎小出良春 ◎廣東 邦
 申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

三河崎と太平洋を望み、湖美半
 島の山を縦走します。雨天中止
 近畿百名山に登る(第24回)
 高見山(口級向き)
 期日 2月18日(日) 日帰り
 集合 近鉄榛原駅8時40分
 コース 榛原駅(バス)高見登山
 口-小峠-高見峠-高見
 山-杉谷分岐-平野(バ
 ス)榛原駅
 費用 約3000円(大阪から)
 地図 昭文社「大台ヶ原」
 係 ◎村田智俊 ◎安倉山勝
 申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

霧水で名高い高見山へ登ります。
 小雨(雪)決行
 北山ちよつと歩き18
 西山・唐櫃(一般向き)
 期日 2月21日(日) 日帰り
 集合 J R京都駅山陰線のりば

8時30分
 コース 京都駅(電車)馬場駅-
 みずき山-王ヶ辻-倉皇
 山-阪急上桂駅(解散)
 費用 約1500円(大阪から)
 地図 昭文社「京都西山」
 係 ◎奥山整三
 申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

雪景色の愛宕山を眺めて、野鳥
 のさえずりを聴きながら冬の唐櫃
 縦走歩道を歩きます。花冷えの方
 ヤシヤシはまだまだ芽吹いています
 心。雨天中止
 鈴鹿を歩く112
 雲仙山西南尾根(健脚向き)
 期日 2月25日(日) 日帰り
 集合 河内線「河内の原」手
 前寺院広場6時30分
 コース 寺院広場-集合-汗ふき
 峠-雲仙山-最高峰-西
 南尾根-笹峠-寺院広場
 (解散)
 費用 交通費各別
 地図 昭文社「雲仙・伊吹・
 藤原」
 係 ◎岩野 明
 申込み 〒610-0121

鈴鹿を歩く112
 雲仙山西南尾根(健脚向き)
 期日 2月25日(日) 日帰り
 集合 河内線「河内の原」手
 前寺院広場6時30分
 コース 寺院広場-集合-汗ふき
 峠-雲仙山-最高峰-西
 南尾根-笹峠-寺院広場
 (解散)
 費用 交通費各別
 地図 昭文社「雲仙・伊吹・
 藤原」
 係 ◎岩野 明
 申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 *マイカー山行
 毎年恒例になった、2月冬の雲仙
 山西尾根山行です(2月7・4・1
 ジ参照)。小雨(雪)決行

高東・雲野山から稲荷山
 (一般向き)
 期日 2月25日(日) 日帰り
 集合 J R名古屋中央駅丸口
 7時30分/J R近江八幡
 駅9時15分
 コース 近江八幡駅(バス)川守
 一龍寺-あずま屋-雪
 野山-天神社-ゴルフ場
 一龍山登山口-鹿湖山
 一犬岩-近江鉄道武佐駅
 (電車)近江八幡駅(解
 散16時頃)
 費用 約3700円(名古屋駅
 から)
 地図 2万5千1近江八幡・八
 日市・日野渡
 係 ◎小出良春 ◎中村英雄
 申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

古代遺跡をまわった雲野山と、
 *集合車を明記ください

戦国期の遺構が残る預湖山(長光
 寺山)を歩きます。雨天中止

比良・鏡谷ヶ峰(やや健脚向き)
 期日 2月25日(日) 日帰り
 集合 J R湖西線近江高島駅バ
 スのりば8時55分(50分
 乗車行きに徒歩)
 コース 近江高島駅(バス)堀-
 ガボフタ峠-鏡谷ヶ峰-
 Parker-高尾尾根-高
 坂口(バス)近江高島駅
 (解散17時頃)

装備 給水機
 費用 約4000円(大阪駅か
 ら各別)
 地図 昭文社「北良山系」
 係 ◎藤 康夫
 申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 冬の鏡谷ヶ峰に登り雪山を楽しむ
 心(水圧56ページ参照)。
 小雨(雪)決行

山行報告
 (9・10月)
 新ハイキングクラブ

キャンプ&ハイイク
 比良・八洲の滝から武蔵ヶ岳
 (週末ハイイク20)
 9月2日(土)3日(日) 1泊2日
 ◎岩野 東彦
 *リーダーの都合で中止しました。

リトル比良・若阿沙利山
 9月3日(日) くもり一時にわか雨
 J R近江高島駅集合10・25(バス)
 高須10・30-岳野宮11・30-40
 一岳山12・05-13-オーム岩12・
 45(昼食)13・20-鳥橋峠13・27
 一岳山13・49-55-若阿沙利山14・
 05-10-絶頂山14・25-雲座尾15・
 20-30-深淵15・53-18-30-柳
 梅の滝16・22-北小峠17・00
 (解散)
 風吹きのよいオーム岩での昼食は
 風が吹き涼しい。若阿沙利山はあ
 まり険難がなかった。パラパラと
 雨になったが、カッパを着る人は
 なくすくやんだ。もう空や雲の感

とは秋だという人がいた。(記録・
 蓮井洋子)
 (参加者) 蓮井 保 小椋まゆみ
 稲志芳雄 市野博文 野々山 寛
 森 晴代 小田晃上 中尾美穂子
 蓮井洋子 白田忠子 岩本いずみ
 中村修香 本澤英夫 川北篤彦
 吉藤孝次 ◎中村英雄
 ◎小出良春 (計17名)

丹波・三岳(平戸水障ハイイク29
 9月6日(日) 晴れ
 J R篠山口駅集合8・00(バス)
 火打岩9・35-三岳頂分岐10・00
 一水取場10・35-二岳11・00-オ
 オタワ11・50(昼食)12・40-小
 金ヶ岳13・40-コル14・20-直道
 合14・40-火打岩15・12(解散・
 バス)篠山口駅
 丹波の山々の展望を満喫した。
 多紀アルプスと呼ばれるスリルあ
 る岩場は緊張して通過した。小金
 ヲ岳からコルまでのくだりはすこ
 し急な上りだ。
 (参加者) 本澤英夫 波多野孝子
 馬淵昭男 近藤 恭 相川富雄
 今村 悟 石浜節子 東山登夫
 田中重雄 秋田節子 松嶋一佳子
 平致安子 眞田久子 二高千枝子
 岩本佳子 作野寛子 前田喜久子

小谷和子 島 進 中尾美穂子
 木村光江 角江暢子 三浦弘幸
 白根節子 辻 行子 加藤浩一
 妹尾正二 平山雅夫 上田久子
 池尾健治 木下昭子 宮村孝次郎
 深坂昌子 中尾隆子 若木彩子
 山原勝美 奈良邦子 ◎吉藤孝次
 ◎青木一雄 ◎池澤俊男(計10名)

養蓮・鏡岩山(白根観察山行28
 9月9日(日) 雨
 大正町集合8・40-50(バス)モ
 リソリ村駐車場9・30-谷山峠10・
 45 外池分岐12・00-遊羅小
 屋(昼食)13・45-鏡岩山13・50
 一日板越15・00-長者の里15・
 30-50(バス)大原駅17・00(解
 散)
 高橋溪谷ではさまざまな秋の野
 花に出会えたが、終日雨に見舞わ
 れ、ヤマヒルの観察も受けていき
 さかづかい山行だった。遊羅小屋
 での昼食はホッとできた。
 (参加者) 浅田俊男 上田千枝子
 岡田規 堅田 弘 金長節子
 北村 正 北村 梢 加納山紀子
 小林 桂 小松千恵 近藤 恭
 藤原 邦 辻本節子 松上美代子
 森 晴代 中谷孝子 光川二美子
 山崎勝美 ◎若山貞子

◎登山者続 (計20名)

横根連峰(鈴鹿を歩く100)
9月10日(晴)一泊二日
河内風穴寺前登山場集合8・10
(車)五箇分交広場8・30(五箇分)
8・45(横根山)35(西横根山)
15(長谷)11・50(横根山)12・
35(フツク)13・45(五箇分)
横根山15・50(解散)
五箇分登山を採り、樹林の足根、
横根のブナ林、伐採地の大展望を
楽しんだ。食事中に大粒の雨がま
たがすくやんだ。赤松の細い岩稜
と岩場の急な下り、シヤクナグの
風物や変化に富むルートだった。
(参加者)後藤康幸 今井武司
山田誠三 吉岡 仁 武藤由美子
永戸鉄治 福部 純 西内正弘
森本 勝 森本善子 小坂さゆり
高津智美 池田美英 石田貞由美
岡野 明 河辺勉男 伊藤昌久男
武村千鶴 ◎若野 明 (計19名)

12・00(軒巻屋)12・10(長谷)
12・50(最高峰)13・00(5一兩ツ
峠)14・07(20一兩峠)15・02(10
一保久長神社)15・42(50一JR根
津本山)16・15(解散)
東谷多福山から神戸と瀬戸内海
の展望がすばりしかった。土曜朝
峰からは太鼓の音に導かれて石室
殿に行く。ちよんが祭礼中だった。
一度は歩いてみたいと思っていた。
六甲は大満足の山だった。
(参加者)宮下淳一 野里マツヨ
小林 桂 高岡信男 松崎千佳子
伊藤則男 石川 敏 中谷美穂子
福池洋子 中西主枝 荻野美紀恵
竹田寛美 美村孝治 渡辺美代子
瀬井洋子 石田善美 ◎古橋孝次
(計18名)
◎小出良春

55(17・10)解散
雨60%の手組でも名火時となり、
20名で予定通り歩く。再び少し降
ただけで行動に支障なく、ほとん
どの人が二重三日にすることのな
い純子から、イブネ・クラシの姿
を日に焼きつけました。
(参加者)山村恭男 原 光一
池田隆一 川本 隆 坂井田義男
近藤克博 尾花信吾 落合ひろ子
早本廣治 安田良朗 的場たか子
中森昭夫 石浜倫子 伊藤美恵子
藤田隆子 大村慶子 佐吉由美子
丹下由子 ◎高原秀彦 (計20名)
◎山田朝男
北山・鷹野八丁から長谷山
(平日ふれあいハイック22)
9月12日(火) ◎川上友登
*雨天のため中止しました。
霧ヶ峰高原から浅間へ
浅間黒斑山・水の塔山・霧の登山
8月15日(火) 2泊3日
9月15日(火) ◎もり
(15日)くもり JR大津駅集合
8・30(バス)霧ヶ峰・八島13・
40(白川散策)16・00(バス)白
樺社(定)
(16日)くもりのち曇 白樺社8・
00(バス)車坂峠10・00(黒斑山

11・30(車坂峠)・高峠高原ホテル
13・00(定)
(17日)晴 ホテル8・00(ワイ
ナリー)9・00(温泉)10・30(大
津駅)17・40(解散)
15日、八島到着が遅くなったの
で白川散策とした。16日、天気が
下り坂で昼食後のスピード登山。
ホテル着と土砂降りが同時だった。
17日、霧のため登山中止。ワイ
ナリーを見学して帰途について。
(参加者)中村勝春 井出幸子
合村 真 平政美子 岡田恵子
宮本善幸 古木一雄 相原悠紀子
白田聖子 加藤光彦 安田文美江
中谷豊多 小田福子 田中三恵子
堀 久子 斎藤 隆 高岡美恵子
入江武史 木下昭子 中上紀代子
高 信弘 岡 榮江 東 美穂子
岩城穂子 高橋雅子 木村裕史
◎岡田 昇 ◎美穂子子 計20名
丹後・大江山
(近畿百名山に登る第18回)
9月15日(火) 晴れ
JR福知山駅集合10・00(10)タ
クシ)聖徳太子神社10・45(11・
00)大江山口)30(35)峠)峠)12・
00(温泉)12・40(温泉)13・25(
30)大江山の家)14・45(55(バス

北近畿タンゴ鉄道大江駅15・15

解散
高尾状の山頂は展望よく、道筋
の樹林は秋を感じさせていた。下
山は旧道に入ってしまった。道がや
ぶにかくれていて。定刻バスに間
に合ってホッとした。
(参加者)高岡信男 松上美代子
本橋孝夫 米谷博治 三井社一
渡辺香織 向田 貴 草野智恵子
前田二江 東山登夫 中西規彦好
小林 桂 中島 隆 松崎千佳子
島田寛子 井上好子 谷口文子
太田昭子 杉原正天 小谷和子
藤深元博 武部 剛 武藤美穂子
黒河内史洋明 迫 真美子
平田直美 原 幸子 中村佳世子
山岸藤雄 上山正一 野里マツヨ
清水 保 穂方恵子 すま子
小田昭男 小田浩子 松村雅子
小林 敏 秋田純郎 宮田孝次郎
石川 敏 森木善雄 湖原定夫
市野野文 原野京宏 杉本正一
◎長尾隆彦 ◎村田智彦(計20名)
木曾・御嶽山
(自然観察山行)
9月16日(土)17日(日) 一泊二日
◎飯沼守康
*本屋による流天予報のため中止

しました。

但馬・間ノ山と湯村温泉
9月17日(日) 晴れ
JR西明石駅集合9・50(バス)
登山口11・30(間ノ山)12・35(登
倉)13・20(登山口)14・30(バス)
湯村温泉(入浴)西明石駅19・30
解散
前夜来の雨もすっかり上がり、
水もれ日のブナの森を抜けること感
望台に着く。大山が雲山三座を従
え、海がすみのなかだう。すもと
望めた。少し熱めの湯村の湯を後
に帰路についた。
(参加者)森 瑞代 松下美穂子
石田四一 加菜昌子 山下小夏子
竹田善英 河崎妙子 秋田純郎
松村雅子 吉藤孝次 八木八重子
永井主税 東山登夫 鈴木敏彦
野口 修 島田寛子 吉藤 浩
高田 賢 小谷和子 千原まゆ子
小林聖子 船越利明 船越まゆ子
三輪洋子 上田文子 高田明子
田中 幸 清水一市他7名
◎井上 保 (計20名)
鈴鹿・竜ヶ岳
9月17日(日) 晴れ
三軒大交駅9・35(タクシー)宇

貫溪10・00(ホタカ谷入口)10・15
(20一階段)12・47(竜ヶ岳)13・
04(温泉)13・45(右側)14・40
(47)小峠)15・00(左側)15・33
(五階)15・58(ホタカ谷入口)16・
17(一字)16・40(タクシー)大
安駅17・00(解散)
大駒温泉で次の次回はスゴイ。
ホタカ谷道は樹木が道を塞ぎやっ
とこま通れず、危険が一ヶ所あっ
た。山頂はイブキヤサの360度
の大展望だった。下山の道は膝
上まで水に入って危険な所など、
楽しんで山だった。
(参加者)福岡 章 岸田美代子
佐藤孝一 西村達行 中塚美穂子
黒河内史洋明 中村英雄 砂原美子
白樺清子 辻 行子 岡本美子
今岡良代 岡野 明 ◎藤原 邦
◎小出良春 (計15名)
京橋西山
ボンボン山から秋連峰
(北山ちよんと歩き13)
9月20日(火) 晴れ
JR京橋駅北口集合8・20(30
(バス)上の口)8・45(神峰山寺
9・10(20)本山寺)10・25(35)
ボンボン山)11・35(40)秋連峰)12・
05(温泉)13・00(大交)13・40(

小倉山)15・05(大王山)15・35(40
一週)16・00(解散)
JR山崎駅集合10・00(解散)
JR山崎駅集合10・00(解散)
田園の散策花、懐谷のコスモス
など里山にも秋が訪れていた。さ
わやかな風が吹く。ゆるやかなコ
ーシ配分で大江山までみな元気な歩
いた。
(参加者)若林文天 中村啓一
近藤 恭 東山登夫 角田二江
堀原香織 松崎千佳子
吉藤孝次 小谷和子 中西規彦好
中村 保 舟岡 武 舟岡千恵子
山岸藤雄 清水昭三 中嶋日出男
別田 京 高木 晋 船本昌子
南 寛子 中村英雄 森本善幸子
秋尾二江 園部善雄 橋本みゆ子
清上 明 岩本いずみ
◎長尾隆彦 (計20名)
マッキンリー展望ホテルと
アラスカ紅葉ハイキング
9月22日(日)23日(月) 湯澤次男
*最少催行人員に達しなく中止し
ました。
鈴鹿・鐘ヶ岳(三重の山)
9月23日(日) ◎尾崎安五
*雨天のため中止しました。

門出からも見晴らしはだめだった
が、限定的なアナ林での自然観察
を羨し、紅葉のはしりを羨ま
した。

〔参加者〕岡本佳子 野田 弘
金森節子 吉原孝次 光川一美子
徳田樹子 平田輝美 船木裕己子
山本京子 山本吉治 松上美代子
若松節子 小林 桂 ○計15名
◎観望守康 ○計15名

木曾・城山

10月8日(日) 晴れのちくもり
名古屋駅集合8・10(18) (電車)
木曾駅集合10・40 船橋寺11・12
福島城跡12・20 (昼食) 12・30
城山13・15 26 権現滝14・02
木曾福島駅14・40 (電車) 名古屋
駅16・00 (解散)

木曾福島駅は関所跡の最中で、
駅前では時代劇を見ていた。た
た、JRさわやかウォークの人た
ちとコースがほぼ同じだった。城
山の山頂までは来なくて静かな
時間を過ごすことができた。

〔参加者〕伊藤恵美子
◎藤原 邦 ◎小出良春(計3名)
スリパチ池・湖尻山
(幹事を歩く103)

10月8日(日) 晴れ
河内風穴手前野原広場集合8・20
(電車) 権現谷鉄道下広場8・40
スリパチ池9・25 アサハ谷合
合9・50 1P671貯10・20 ケ
ヤキの森10・40 一休峠11・20 岳
の如11・30 湖尻山12・10 (昼食)
12月13・20 一休峠下広場14・15
(車) 入谷14・50 (解散)

ケヤキ・サワグルミ等の大木が
茂る秘境のスリパチ池。極上のケ
ヤキの森。丘と谷の頭は背丈を
超すスキの海をおよいだ。鹿の
角も拾った。湖尻山で大風突。アケ
ビを探ったり、レイシシソウ・ツ
ルニンジン・サラシナショウマ・
シウメイギク・アケボノソウな
ど秋の草花を愛でながらの楽しい
山行となった。

〔参加者〕後藤康幸 武藤由美子
山田三 福野 章 大石将美
吉岡 仁 池田彦彦 池田繁美
吉村 昭 森本 勝 森本京子
藤堂剛男 中藤昭夫 落合ひろ子
磯部 純 西内正弘 守 的場たか子
神野孝允 鈴木 庸 石田真山美
小林 実 武村千鶴 樫田勝利
◎岩野 明 ○計27名

西村泰治 ○県比松実

西村泰治 ○県比松実
◎岩野 明 ○計27名

養老・養老山

10月22日(日) くもり
近鉄養老駅集合9・30 35 養老
の滝10・15 20 三方山11・35
46 養老山11・55 小倉山12・00
(昼食) 12・35 養老山12・52
13・00 川原越14・20 25 美濃
注屋駅15・50 (解散)

2日前の雨で養老の滝は水量豊
かであった。ほとんどの人は養老
山から戻ってしまおうとしたが、川
原越は雄木林の静かなコースで、
養老山の良さはこのコースを歩か
ないと分からないと思った。
〔参加者〕熊木秀雄 片 すみ子
金森節子 井藤正昭 岡本美子
白田孝子 西田直規 近田智子
多野久子 森 明代 中尾美代子
白根博子 辻 行子 藤野美代子
美村孝治 山西茂枝 林 陽一
◎藤原 邦 ◎小出良春(計15名)
御池岳・養の平
10月22日(日) 晴れのちくもり
小又谷林道広場集合8・30 (車)
御池林道広場8・40 1P671貯8

谷山・ソンド(幹事山10)

10月9日(日) くもりのち霧
JR関ヶ原駅8・20 二岐野原
駅8・40 (車) 時山入口集合9・
10 藪谷9・36 藪谷流10・50
伐採地12・10 (昼食) 12・45 尾
根13・00 林道13・15 谷山13・
40 林道14・08 豊遊び14・30
ソンド15・25 林道16・40 17・
00 (解散)

関西は朝に強い雨が降り、キヤ
ンセルが多く、またサブの高原さ
んも急用で不参加になり、磯部さ
んに最後尾をお願いした。紅葉に
は早く暖かかったため山ヒルも多
くお出ましになり、多くの人が犠
牲になった。

〔参加者〕後藤康幸 小林 裕
邊渡康夫 寺田久広 西村文男
近江秀子 緒方由子 網本美恵子
石沢倫子 本間 隆 伊藤恵美子
安田良剛 栗本敏夫 武藤由美子
大石将美 小田妙子 的場たか子
井下由子 宮田和子 落合ひろ子
◎磯部 純 ◎山田明男(計27名)
奈良・三輪山から巻向山
10月15日(日) くもりのち雨
JR三輪駅集合9・40 50 大神
神社10・00 鞍井神社10・15 大

北山ちよっと歩き(4)

9・30 1P916貯10・30 1P
権現10・50 雨降12・00 (昼食)
12・50 奥の池13・00 東のボク
ンブチ13・20 土倉岳14・15 小
又谷林道15・50 林道広場16・20
(解散)

さわやかな秋晴れのなか、T字
屋根のフナ林を羨し雨降に替く
と、奥の平は紅葉が始まっていた。
雄大な時を羨しみながらの食事
中、上空にイタワシ二羽が遠回
上昇するに飛んでいった。東のボ
クンブチは深いガスだったが、一
時的にガスが消え、眼下の真の谷
の樹海がパッと浮かび消える幻想
的な一瞬を見た。
〔参加者〕後藤康幸 中藤昭夫
安田良剛 大石将美 吉岡 仁
近藤克博 吉村 昭 小林 裕
水谷俊之 森本 勝 森本京子
西藤智美 田尾 華 落合ひろ子
福野武敏 永戸鉄治 的場たか子
原 光一 原 幸子 網本美恵子
高尾芳彦 島尾信吾 伊藤恵美子
神野孝允 谷 守 山田三
岩切光子 西田智子 山田三
橋井 徹 横井和子 小田妙子
◎岩野 明 ○計30名

北山・八丁尾根から養老山

神社社林道所12・05 (昼食) 12・
35 奥不動寺14・07 15 山口山14・
20 巻向山15・00 15 奥不動寺
15・22 30 近鉄朝倉駅16・35
(解散)

三輪山の途中で雨になった。白
山から巻向山へのコースは剣木と
ブッシュとイバラで泣きが入りそ
うであったが、ブッシュ大好きな
人もいて、終わってみればよかつ
たのかなあという気もある。
〔参加者〕前田崇三 松上美代子
弘中征男 吉野 陽 片 すみ子
吉本京子 徳田樹子 高岡憲子
占部信廣 藤原 邦 田中か加子
奈良孝子 西野幸夫 西野加代子
永原律子 山根芳美 山下知余子
運井洋子 土井隆夫 小林伊予子
中西天枝 朝倉利己 名倉マサ子
森 明代 真田明子 岡本美子
中村英雄 木村正弘 木村千代子
岩本いすゞ 吉田ソノ子
◎運水 保 ◎小出良春(計28名)

播州・段ヶ峰

近畿白山山に登る第19回
10月15日(日) くもり
JR新大阪駅集合7・30 40 (バ
ス) 生野高原・板原口9・30 倉
谷分岐旗合登山口10・30 1千町峠

北山ちよっと歩き(4)

10月25日(日) 雨
京都駅JRバスのりば集合8・00
(バス) 高尾9・20 八丁尾
根取付9・50 12 無地蔵手前林道
12・00 (昼食) 12・35 養老神社道
13・30 45 大杉谷15・00 滝瀬
15・20 (解散)

晴天には来ませぬ雨具着用。背
見谷林道は急路して紅葉にはまだ
少し早い。養老神社参拝。心配した
大杉谷の峰の果・名物マンモスきよ
うは活動停止、無事滝へ下山し
た。
〔参加者〕吉原孝次 松上美代子
森澤元博 山岸謙雄 渡多野真子
中村英雄 小杉 浩 中西規弥好
南 寛子 加藤隆彦 船木裕己子
安良陽子 沢村敏子 山下知余子
川上友登 石原君子 岡田由子
磯部 純 長沢芳美 小西静雄
田中輝 藤田健一 中地日出男
辻 寛子 浦上 明 中尾博子
小谷和子 ◎山本憲三(計28名)

北山・鎌倉山から峰床山

10月25日(日) 雨
*雨天のため中止しました。

新ハイキング選書

日本山岳会選定

好評九刷
発売中

日本二百名山ガイド

第15巻

東日本編

好評八刷
発売中

日本二百名山ガイド

第16巻

西日本編

この本によつて
三百名山の
時代が来る。

市川静子・岡田敏夫・岡部紀正・川越はじめ・廣澤和嘉 共著
新ハイキングの精鋭の五氏が、最新の実地踏査による地図、
写真、コースタイム入りの内容豊富なガイドブック。
●各A5判 320頁 定価1980円(税込)

九州・一徳坊山

(地図読み山行42)

10月29日(日) くもり
南海河内長野駅集合9:00~15
(タクシー) 中日野9:30~53
登山口9:50~10:15 鉄塔11:
00~08 馬場山10:40(登山口) 19:24
一徳坊山11:20(登山口) 12:50
鉄塔分岐13:05~10 林道伊賀13:
50~14:00 青雲堂中央バス停14:
37(解散)

念
(参加者) 秋田講師 金森節子
松本中雄 長谷川慶子 高岡富美子
東山登天 中島 隆 岩本いすゞ
田中樹聖 澤田雅之 田中三恵子
○中村 登 ◎松元一彦(計約16名)
湖北・鳥枯ノ峰から大箕山
10月29日(日) 雨
JR木ノ本駅集合9:40 登山口
10:00 071三ツ頭10:53 鳥枯
ノ峰11:12 17 大箕山11:54
12:00 岩山寺12:30(登山口) 13:
10 一徳坊山14:20 30 木ノ本駅
15:05(解散)

傘をさしての山行になったが、
ブナ・ミズナラが自然の森となっ
てほとんど濡れずに歩くことがで
きた。普光寺の神秘的な美しさと
田上山の磐城の跡など、深い樹林
と相まって魅力ある山だった。
(参加者) 石浜節子 斤 すみ子
三角幸子 小林 桂 小原きぬ子
木村結恵 三井 一 東 美智子
森澤園子 荒木光雄 北村 正
白田忠孝 清水昭三 岡本美子
長沢法英 三浦弘幸 中尾美智子
岩城豊子 市野博文 藤瀬井 豊
中尾博子 中西玉枝 則定保夫
○中村英雄 ◎小山良春(計約16名)

54号(9・10月号)に発表した、
次の三つの山行計画(11月実施)
は次号で報告します。
○九州中部の山
行路山と大岩山
11月2日(日) 5日(日)
○野野良彦
○奥美濃・岩岳と熊鷹白山
11月3日(日) 4日(日)
○鷺見守康
○大台ヶ原・日出ヶ岳
11月4日(日) 5日(日)
◎村田智彦

新ハイキングクラブ関西
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西
の山」(隔月刊・年6号発行)の
定期購読者を中心としたハイキン
グの集いです。
この雑誌は旅行文やコースガイ
ドなどで、関西のハイキングコー
スや山の情報を発信しています。
山の知識を深め、情報豊かで健康
な身体をつくり、自然のなかを歩
く喜びをともに広めましょう。
「新ハイキングクラブ」は昭和
25年発刊以来、東京を中心に50年
間も好評のうちに活動してしまし
た。関西は平成8年発定で10年目
に入りますが、すでにたくさんの方
が活動しています。
会費は当会の山行例会に優先し
て参加できます。この山行例会を
通じて正しい山歩きを、楽しい山
仲間たちと味わいませんか。
リーダー(種)はすべて無償の
奉仕で、各自で切符を買い茶代を
払い、宿泊料もすべてワリカンで
す。
会費には番号「新ハイキング関
西の山」をお送りします。
四季の自然に融けながら歩き、

若々しい心と健康をいつまでも持
続するのは素晴らしいことです。
これから始めてみたい人も、すで
にベテランの人もみなさんご入会
いただけます。
入会金 500円(パツジ代)
年会費 3000円(送料込)
入会の中し込み(随時)はこの
雑誌に挿入の振替用紙を「利用」
のさい。氏名(ふりがな)及び第
何号からの送本かを忘れずに記
入ください。
なお、定期購読をご希望される
方も会員になっていただきますと、
振替用紙にお手元が届きますので
便利です。
切手500円分をお送りになれば、
「新ハイキング関西の山」見
本誌1冊送ります。
○山行リーダー募集
リーダーは2ヶ月に1~2回程
度の山行例会を計画・実施してい
ただきます。
無償の奉仕ですが、やりがいも
あり、楽しいものです。経験のある
方や、やってみたいと思われる
方は、新ハイキング関西までご連
絡ください。マニュアル「リーダー
必携」を送ります。

- 新入会員紹介
新しいお仲間のみなさんです。
会員登録料4349番から43881
番まで
【東京】 水越美恵子
【神奈川】 石塚和子
【愛知】 藤路洗石 土井光正
大塚良子
【岐阜】 浅野孝昭
【三重】 高木 堅
【滋賀】 植田 忠 紙屋テル子
山本浩一 藤田益広 藤田和子
【京都】 武田 操 田岡八重子
沼本幸江 小山誠次 小山くるみ
大東 哲 小野繁栄夫
【大阪】 高島朝子 渡辺延治
岩本健一 木下朝子 森田持弘
【奈良】 西川隆代 速藤 幸
遠藤和子
【兵庫】 松田 聡 伊藤哲也
大隈和洋 井上永治 小原健男
結川高純子 (33名)

55号(晩秋) 12ページ下段6行
目「こうおう(こうの)さん」
は「こうおう(こうの)さん」
が正しく、同ページ下段10行目の
「こうおうさん」は「こうおうさ
ん」が正しい。
55号(晩秋) 38ページ上段?行
目「表紙」は「表紙」が正し
い。また同ページ下段?行目「町
側は……」は「河側は……」が正
しい。
55号(晩秋) 71ページ中段最終
行の「……高きう所を……」は
「高きうな所を……」が正しい。
55号(晩秋) 94ページ三段目22
行目「産山10・25」は「産山
11・25」が正しい。(編集者)

お願ひ 経年会費の払込
みの際は、必ず会員番号を記入
してください。

毎号お求めになりたい方へ
前もって書店に毎月ほしい
と「購読券」をされますと、
どこの書店でもお買い求めい
ただけます。購読月の20日ごろ
(隔月刊)の発売です。